令和７年度

授業要項

鹿児島中央看護専門学校
３年課程看護科

〒892-0822 鹿児島市泉町 12 番７号
TEL 099(227)5330
FAX 099(227)5331

学籍番号	
氏　　名	

目　次

Ⅰ．基礎分野

科学的思考の基盤 １

人間と生活・社会の理解 １２

Ⅱ．専門基礎分野

人体の構造と機能 ３３

疾病の成り立ちと回復の促進 ４２

健康支援と社会保障制度 ９１

Ⅲ．専門分野

１．基礎看護学 １０５

２．地域・在宅看護論 １３９

３．成人看護学 １５１

４．老年看護学 １７７

５．小児看護学 １８７

６．母性看護学 １９９

７．精神看護学 ２０８

８．看護の統合と実践 ２１８

Ⅳ．臨地実習

１．基礎看護学 ２３３

２．地域・在宅看護論（在宅療養支援） ２３８

３．成人・老年看護学 ２４３

４．小児看護学 ２４９

５．母性看護学 ２５２

６．精神看護学 ２５５

７．看護の統合と実践実習 ２５８

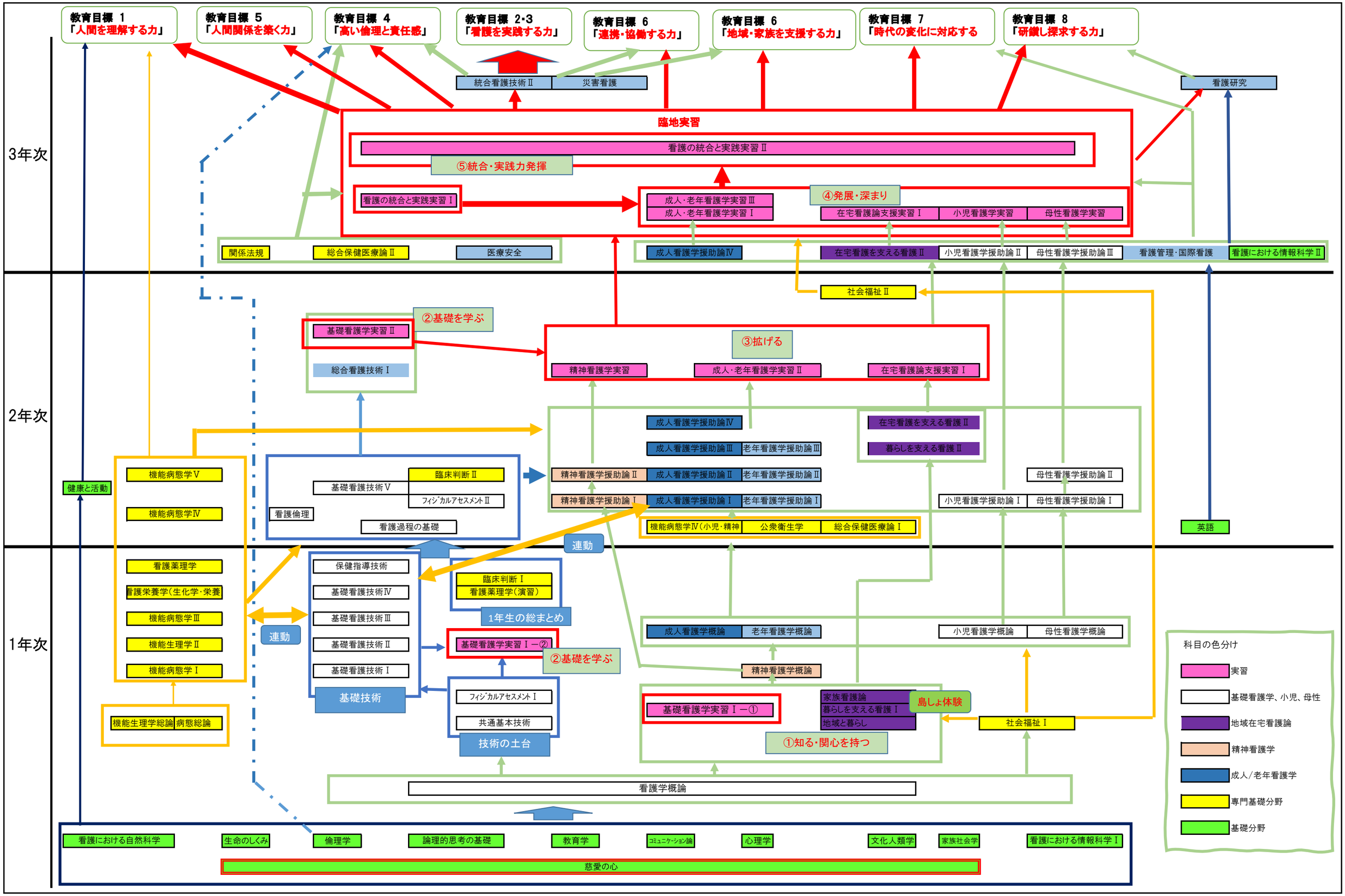
別表１-①　　教　育　課　程　　3年課程看護科

区分	教育内容	授業科目	配当年次	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考の基礎	1	1	30
		生命のしくみ	1	1	15
		看護における情報科学Ⅰ	1	1	15
		看護における情報科学Ⅱ	3	1	15
		看護における自然科学	1	1	15
	人間と生活・社会の理解	慈愛の心	1	1	30
		コミュニケーション論	1	1	30
		心理学	1	1	30
		倫理学	1	1	15
		教育学	1	1	30
		文化人類学	1	1	30
		家族社会学	1	1	30
		英語	2	1	30
		健康と活動	2	1	30
	小　　計			14	345
専門基礎分野	人体の構造と機能	機能生理学総論	1	1	20
		看護栄養学	1	1	30
		臨床判断Ⅰ	1	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	機能病態学Ⅰ	1	2	40
		機能病態学Ⅱ	1	2	40
		機能病態学Ⅲ	1	1	30
		機能病態学Ⅳ	2	2	40
		機能病態学Ⅴ	2	1	30
		機能病態学Ⅵ	2	1	30
		病態総論	1	1	30
		看護薬理学	1	1	30
		微生物と感染症	1	1	30
		臨床判断Ⅱ	2	1	20
	健康支援と社会保障制度	社会福祉Ⅰ	1	1	15
		社会福祉Ⅱ	3	1	15
		関係法規	3	1	15
		公衆衛生学	2	1	30
		総合保健医療論Ⅰ	2	1	15
		総合保健医療論Ⅱ	3	1	20
	小　　計			22	510
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	1	30
		看護倫理	2	1	15
		看護共通基本技術	1	1	45
		フィジカルアセスメントⅠ	1	1	15
		フィジカルアセスメントⅡ	2	1	30
		基礎看護技術Ⅰ	1	1	30
		基礎看護技術Ⅱ	1	1	30
		基礎看護技術Ⅲ	1	1	45
		基礎看護技術Ⅳ	1	1	30
		基礎看護技術Ⅴ	2	1	40
		保健指導技術	1	1	30
		看護過程の基礎	2	1	30
		看護研究	3	1	30

別表1-②　　教　育　課　程　　3年課程看護科

区分	教育内容	授業科目	配当年次	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論	地域と暮らし	1	1	15
		家族看護	1	1	15
		暮らしを支える看護Ⅰ	1	1	35
		暮らしを支える看護Ⅱ	2	1	15
		在宅療養を支える看護Ⅰ	2	1	20
		在宅療養を支える看護Ⅱ	3	1	30
	成人看護学	成人看護学概論	1	1	30
		成人看護学援助論Ⅰ	2	1	30
		成人看護学援助論Ⅱ	2	1	30
		成人看護学援助論Ⅲ	2	1	30
		成人看護学援助論Ⅳ	2	1	30
		成人看護学援助論Ⅴ	3	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	1	1	30
		老年看護学援助論Ⅰ	2	1	15
		老年看護学援助論Ⅱ	2	1	30
		老年看護学援助論Ⅲ	2	1	15
	小児看護学	小児看護学概論	1	1	30
		小児看護学援助論Ⅰ	2	2	45
		小児看護学援助論Ⅱ	3	1	15
	母性看護学	母性看護学概論	1	1	30
		母性看護学援助論Ⅰ	2	1	30
		母性看護学援助論Ⅱ	2	1	15
		母性看護学援助論Ⅲ	3	1	20
	精神看護学	精神看護学概論	1	1	30
		精神看護学援助論Ⅰ	2	1	15
		精神看護学援助論Ⅱ	2	2	45
	看護の統合と実践	医療安全	3	1	30
		看護管理・国際看護	3	1	30
		災害看護	3	1	15
		統合看護技術Ⅰ	2	1	15
		統合看護技術Ⅱ	3	1	30
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	45
		基礎看護学実習Ⅱ	2	2	90
		在宅療養支援実習Ⅰ（施設）	2	2	60
		在宅療養支援実習Ⅱ（地域）	3	2	60
		成人・老年看護学実習Ⅰ	3	2	90
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	2	90
		成人・老年看護学実習Ⅲ	3	2	90
		小児看護学実習	3	2	60
		母性看護学実習	3	2	60
		精神看護学実習	2	2	90
		看護の統合と実践実習Ⅰ	3	2	90
		看護の統合と実践実習Ⅱ	3	2	90
	小計			69	2110
総計				105	2965

新カリキュラムマップ　　鹿児島中央看護専門学校　　2022.9.21



授業要項

基礎分野		科目	論理的思考の基礎	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間	講師名	梅崎 光
科目概要		看護を科学的根拠に基づいて判断し実践するための論理的思考の基盤を学び、チーム医療の一員として人間関係を円滑に成立させるために必要な言語表現や文章作成能力、読解力を向上させるとともに、看護の研究活動の基盤とする。			
科目目標		1.「論理的思考」の基礎を学び、内容について述べることができる。 2.「論理的思考」の実際を体験する。 3. 論理的に話すこと・書くことの技法を身につけ、書くことができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	論理って何だろう？	1. 論理的思考が重要とされる背景 2. 判断と論理的思考 3. 文学と論理的文書の違い 4. 哲学的思考と論理学思考、宗教的思考	講義
第2回	ただしメーダイに限る―命題と真偽	1.「命題」という概念	講義
第3回	違う、そうじゃない！―否定	1. 否定命題を作る際の注意点	講義
第4回	コーヒー、紅茶、それとも両方？―かつとまたは	1.「ド・モルガンの法則」	講義
第5回	もしも明日が晴れならば―条件文	1. 条件文とそうでない文の区別	講義
第6回	これが必要、これで十分―必要条件・十分条件	1.「必要条件」「十分条件」の意味	講義
第7回	ポチは犬、犬はポチ―逆・裏・対偶[前半]	1. 条件文に対する「逆」「裏」「対偶」という概念	講義
第8回	ポチは犬、犬はポチ―逆・裏・対偶[後半]	1. 任意の条件文から、その逆・裏・対偶の作成	講義 演習
第9回	だから、そうなんだ！―推論	1. 推論の諸タイプ、 「演繹」「帰納」「仮説形成」の区別について	講義
第10回	ひとつではない、冴えたやり方―論理法則[前半]	1. 論理法則の様々なタイプとその区別	講義
第11回	ひとつではない、冴えたやり方―論理法則[後半]	1. 論理法則を使った演繹推論について	講義
第12回	隠れた前提を探せ！―演繹の評価	1. 任意の推論について、その隠れた前提の推測	講義 演習
第13回	「すべて」と「ある」の話―述語論理	1.「述語論理」という概念	講義
第14回	真実はいつもひとつ！とは限らない―帰納・仮説形成の評価	1. 仮説形成や帰納を評価し、命題の真偽を判断するために知っておくべきこと	講義 演習
第15回	終講試験　まとめ		筆記試験 まとめ

単位認定の方法	1. 30時間中20時間以上の出席があること。

授業要項

	2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは論理的思考の基礎の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：臨床判断Ⅰ	1 年次後期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ	2 年次前期
	専門分野：看護過程の基礎	2 年次後期
	専門分野：看護研究	3 年次全期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	仲島ひとみ：それゆけ！論理さん,筑摩書房	
受講上のアドバイス	授業中にしっかり筆記し、次回までに復習しておくことが大事になる。	
実務経験の内容	・鹿児島大学　法文教育学部域教育学系　教育学部　学校教育教員養成課程（国語教育）国語学　准教授 ・専門分野　国語学	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	生命のしくみ	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	15時間	講師名	三浦 裕仁
科目概要		細胞の構造、生命活動を維持するエネルギー・代謝・遺伝子の働きなど生命の基本的なしくみを学ぶ。さらに、様々な生体機能が統合され正常に維持される人体のしくみの概要を学ぶ。また、遺伝子組換え、クローン、幹細胞技術など生命科学の技術について学習し、生命の尊厳や生命倫理について考える。			
科目目標		1. 生命とはなにか、生命の基本単位である細胞の基本構造、細胞を構成する主な分子について説明できる。 2. 生命活動を維持するエネルギー・代謝・遺伝子の働きの概要を説明できる。 3. 様々な機能が統合され正常に維持される人体のしくみの概要を説明できる。 4. 遺伝子組換え、クローン、幹細胞技術など生命科学技術の基礎を理解し、倫理的な観点から自分の考えを説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	生命とはなにか	1. 生命とはなにか 2. 生命科学の成り立ち 3. 細胞を作っている分子 4. 細胞の大きさと多様性	講義
第2回	生命の基本単位	1. 細胞の構造と機能	講義
第3回	細胞のはたらき	1. エネルギー変換とATP 2. 代謝、酵素、膜輸送 3. 細胞の多様性	講義
第4回	生命の設計図	1. 遺伝の法則 2 ゲノム・遺伝子・DNA 3. DNAの複製 4. 転写(RNA合成)と翻訳(タンパク質合成) 5. 細胞分裂	講義
第5回	体はどのように作られるか	1. 生殖細胞形成 2. 受精と初期発生 3. 細胞の増殖と分化 4. アポトーシスとネクローシス(壊死)	講義
第6回	個体の調節	1. 器官系のはたらき 2. 脳・神経系 3. ホルモン	講義
第7回	生命科学の技術と倫理	1. 品種改良と遺伝子組換え 2. クローン技術と幹細胞技術 3. 生命倫理と規制	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	
	1. 15時間中10時間以上の出席 2. 終講試験100点配点。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たした者に単位を認定する。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：倫理学	1年次前期

授業要項

関連科目	専門基礎分野： 機能生理学総論、病態総論、看護栄養学、機能病態論Ⅰ～Ⅴ、感染症と微生物学	１年次
	専門分野：看護倫理	２年次
事前・事後学習	事前学習：テキストで関連範囲を予習する。 事後学習：事後課題はその都度提示する。	
使用テキスト 参考文献等	テキスト：系統看護学講座　基礎分野　生物学、医学書院 参考図書：現代生命科学、羊土社	
受講上のアドバイス	・高校の生物学の学習内容を復習しながら受講してください。 ・授業では、生命の基本である細胞やゲノムについて学びます。これは機能生理学総論、病態総論、看護栄養学、機能病態論Ⅰ～Ⅴの基礎となる内容です。また、クローンや幹細胞などの生命科学技術を学び、その倫理的側面について考えます。これは倫理学や 2 年次の看護倫理に繋がる内容です。生命の尊厳や生命倫理について深く考えるための基礎を身に付けましょう。 ・私達のまわりには、再生医療、コロナウイルス、ワクチン開発、代替肉(細胞培養)など生命科学に関連する様々なニュースがあります。授業内容との関係を考えましょう。	
実務経験の内容	鹿児島大学大学院　医歯学域歯学系 医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 生体機能制御学講座 准教授	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	看護における情報科学Ⅰ	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	15時間	講師名	兒玉 慎平
科目概要		進化する情報情報通信技術（ICT）を積極的に活用して国内、国外の情報を安全に効率的に収集する方法を学ぶとともに、臨床での ICT を活用できる基礎的能力を養う。また情報セキュリティについても学び、個人情報保護の意義、看護者としての責務について考えを深める。			
科目目標		1. 情報に関する基本概念について述べることができる。 2. ソフトを活用して、レポート作成、プレゼンテーションを行うことができる。 3. インターネットの歴史を知り、インターネットの必要性と情報セキュリティの重要性、保護の方法について説明できる。 4. ネットワークを介した情報・文献検索や情報発信の方法を活用して、必要な情報を収集、発信することができる。 5. 個人情報に関する法的責任や社会人としての倫理、看護者としての責務とリスクへの対応策を理解し、実践することができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	情報化社会と私たちの暮らし インターネットの歴史 コンピューターとネットワーク	1. 身の周りの情報技術 2. インターネットの歴史 3. インターネットの基礎 IP アドレス、DNS サーバー、ルーティング ハードウェア、ソフトウェア、OS、アプリケーションソフトウェア、デバイスドライバー	講義 グループ学習
第2回	インターネットのセキュリティ	1. インターネットセキュリティ（ウイルス、ワーム、トロイの木馬、スパイウェア、ファイル共有 フィッシング、SNS 利用） 2. 個人情報の保護、パスワードの管理 3. SNS の利用、ネットワーク使用における安全管理	講義
第3回	Word・ワードの使い方	1. 各用語の理解 フォント、コピー、テキスト貼り付け、ページレイアウト、行揃え、インデント、段落番号、箇条書き、図形の貼り付け、トリミング、レイアウト	講義 演習
第4回	PowerPoint・パワーポイントの使い方	1. パワーポイントの基本操作 画面構成(ノートの利用)、デザインテンプレート、文字入力、表・図の挿入、テキストボックス、図形の利用、アニメーション、スライドショー	講義 演習
第5回	医療情報と情報倫理	1. 医療情報学、看護情報学 1）情報の定義（データ、情報、知識） 2）医療・看護における情報の特徴 3）コンピューターリテラシーと情報リテラシー 4）情報倫理と医療情報管理、 2. 情報倫理とは　知的財産権プライバシー権 3. 医療における情報倫理と守秘義務	講義
第6回	患者の権利と情報	1. 患者の権利と自己決定への支援 1）医師・患者関係とインフォームドコンセント 2）インフォームドチョイスと患者の自己決定支援 2. 診療情報の開示	講義

授業要項

		1）診療情報とは 2）医師、患者関係の変化と診療情報の開示 3）診療情報提供に関する指針 4）医療訴訟 3. 個人情報の保護と看護者の責務 1）個人情報と看護者としての義務 2）個人情報の利用目的と取得、正確性の確保 3）個人情報の提供について注意が必要なケース、 4）記事 5）臨床実習における患者・市民情報の利用方法 6）情報収集の目的、制限、利用上の基本ルール	
第 7 回	情報セキュリティと安全	1. 情報検索演習 2. プレゼンテーション	演習 グループ発表
第 8 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 100 点配点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護における情報科学Ⅰの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：倫理学	1 年次前期
	基礎分野：看護における情報科学Ⅱ	3 年次後期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅰ	1 年次後期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ	2 年次前期
	専門基礎分野：関係法規	3 年次
	専門分野：看護研究、看護管理	3 年次
	実習：看護の統合と実践実習Ⅱ　看護管理等	3 年次後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　看護情報学、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は身の回りの情報活用技術の実際について学び、インターネットの活用方法や留意点、セキュリティの方法、プレゼンテーションのためのワード、パワーポイントの基本操作は今後の学習での情報の獲得、レポート作成等に活用する。また、現在の社会、医療現場は多くのコンピューターの端末であふれ、いつでもどこでも「情報」を手に入れられる時代である。情報は便利なものである反面、情報の流出等リスクも抱えている。情報の活かし方、守り方についても学び、看護職として対象の「情報」を安全に活用し、多職種と協働する力の基盤となる。 更に、この授業は 3 年次の看護研究のデータの収集、「情報」の発信方法に繋がり、看護の情報科学Ⅱのビッグデータの活用、組織管理に繋がる科目である。	
実務経験の内容	・看護師 ・鹿児島大学 医歯学域医学系 医学部 保健学科 看護学専攻（地域看護・看護情報学）、准教授 ・専門分野 リスクマネジメント、看護管理学	

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　●　密接に対応

	人間を理解する力		連携・協働する力
	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感	●	時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力	●	研鑽し探求する力

授業要項

基礎分野		科目	看護における情報科学Ⅱ	単位数	1単位
時期	3年次後期	時間数	15時間	講師名	中谷 明実
科目概要		ますます発展する遠隔医療や保健指導、ICT 端末や情報の電子化に対応できる基礎的能力を養うとともに、看護の質評価のための情報管理について学ぶ。			
科目目標		1. 医療の現場における情報通信技術を理解し、概要を述べることができる。 2. ICT端末を駆使し、入力時や遠隔での対応方法、留意点を述べることができる。 3. 医療や看護におけるビッグデータの意義、活用方法、管理について述べることができる。 4. 情報管理と医療倫理について考えを深め、対象の権利と情報を保護する看護者の責務について、述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	電子カルテと医療記録	1. 病院情報システム　部門をつなぐシステム 2. 診療録としての電子カルテ	講義
第2回	医療情報の標準化 ＩＣＤ、ＩＣＦ 看護診断	1. ＤＰＣ（診療群分類包括評価）/ＰＯＰＳ（1 日当たりの定額支払制度） 2. 共通して利用できる病名 ICD-10 3. 看護診断の標準化（ＮＡＮＤＡ等） 4. ＰＯＳ（問題解決思考の基本的考え方）、看護過程 5. ＩＣＤ、ＩＣＦの考え方と表現	講義 グループ演習
第3回	記録と看護の質の向上	1. 看護記録の種類と特徴 1）ＳＯＡＰ　フォーカスチャーティング ・アセスメントの本質は「気づき」 2. 医療の標準化と質の向上 1）クリティカルパス 3. 評価のための３つのアプローチ ・ストラクチャー、プロセス、アウトカム	講義 グループ演習
第4回	ビッグデータと看護の質	1. データの意味するもの 2. ビッグデータの収集と分析の視点 1）人工知能（AI），モノのインターネット（IoT），ビッグデータ，データマイニング 2）データに基づく質の評価	講義 演習
第5回	看護の標準化と看護の質	1. 看護支援システム 1）看護ナビシステム 2. 学術情報の探索	講義
第6回	看護の質のための看護記録の実際	1. 病院機能評価で求められる「質の高い看護記録」の整備 2. リスクマネジメントに必要な看護記録 3. 記録時間短縮の工夫 4. 看護記録の監査とフィードバック 5. 看護記録記載基準・マニュアルの整備	講義
第7回	遠隔医療	1. 遠隔医療とは 利点、タイプ、制度上の背景、期待される場面（救急場面、在宅医療、過疎地、遠隔地等）、 2. 遠隔医療の課題 1）医師法第20条「無診察診療の禁止」、	講義 演習

授業要項

		2）ネットワーク整備 3）利用方法の周知など 3. 情報共有の実際	
第 8 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 100 点配点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護の情報科学Ⅱの単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：看護における情報科学Ⅰ	1 年次前期
	専門基礎分野：関係法規	3 年次
	専門分野：看護研究、看護管理	3 年次
	実習：看護の統合と実践実習Ⅱ　看護管理等	3 年次後期

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　看護情報学、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、1 年次の看護の情報科学Ⅰをベースにして、ビッグデータの活用による看護の質の向上、組織管理、看護の仕事を発展させていくための方法を学ぶ。また、医療・看護に責務である看護記録、電子カルテについて学び、3 年次の各看護学実習での実際の記録、情報管理の取扱いに繋げていく。 更に、これから益々必要とされる遠隔医療についても学び、これからの看護職として重要視されるＩＣＴ活用技術活用の基礎的能力の習得を目指す科目である。
実務経験の内容	看護師　認定看護管理者　前今村総合病院看護部長 看護師経験 30 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力		**連携・協働する力**
	看護を実践する力		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	看護における自然科学	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	15時間	講師名	秦 浩起
科目概要		日常生活や自然界でみられる現象について基礎的な知識を学び、看護を科学的思考に基づいて実践できる基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 日常生活や自然界で見られる現象を科学的な視点で学び、知識を深め、述べることができる。 2. 生活環境や動作が科学的基盤の上に成り立っていることを理解し、科学的思考に基づいて看護実践が行われていることを説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	科学の位置づけ 物体の運動と静止、 エネルギー	1. 科学を学ぶ意義 2. 力と運動の関係 1）力、力のモーメントのつりあい 3. 位置エネルギー	講義
第2回	熱現象	1. 熱伝導と伝わり方	講義
第3回	音	1. 音の正体、波の基本的特徴	講義
第4回	光の基本的性質と現象	1. 光の正体・反射と屈折およびレンズ	講義
第5回	電気とは何か 電気と磁気の関係	1. 静電気力、電流 2. 電流と磁場の関係	講義
第6回	原子と放射線	1. 原子構造と光の吸収放射 2. 放射性元素の崩壊によるエネルギー	講義
第7回	物質変化とその変化 科学的思考とまとめ	1. 物質の構造と変化（相変化，化学変化） 2. 科学的思考のまとめ	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 終講試験100点配点。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは関係法規の単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	専門分野：基礎看護技術Ⅱ環境調整技術、基礎看護技術Ⅳ活動休息援助技術他	1年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　基礎分野　物理学、医学書院
受講上のアドバイス	授業では、主体的、能動的に学習に参加し、自分で考えることを意識すること。
実務経験の内容	・鹿児島大学 理工学域理学系 理工学研究科（理学系） 物理・宇宙専攻 物性理論，准教授 ・専門分野　数理物理・物性基礎　カオス・フラクタル物理学 非平衡(非線形)統計物理学

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

基礎分野		科目	慈愛の心 （慈愛の心Ⅰ）	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間（内20時間）	講師名	久徳 美鈴
科目概要		本校の教育理念にある“慈愛の心”を育み、一人ひとりをかけがえのない存在として大切に思い、かかわる看護者としての姿勢の基礎を養う。更に音楽療法を通して、人として日常の美しいものに感動する心を養うとともに、音楽が持つ、コミュニケーション力、人間の活動意欲や生きる力を支える力、癒しの力を体験する科目とする。			
科目目標		1. 太古の昔から人は他者とともに生き、お互いを想いやり支え合って生活することが人間の繁栄を支えてきたことを理解し、看護の相手を慈しむ力、行動する力が、看護の基盤、価値であることを説明できる。 2. 他者の多様な価値観に触れ、かけがえのない存在である人を尊重したかかわりについて自己の考えを説明できる。 3. 音楽の持つ力を体験し、コミュニケーション力、活動意欲や生きがいを支える力、癒しの力について考え、表現することができる。 4. ものごとや看護を捉えるときの行動指針として慈愛の心”の意味を常に考え、これからの自己の行動に取り入れることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	慈愛のこころ① 「慈愛のこころ」イメージマップをつくろう	1. 慈愛のこころとは 2. 看護と慈愛のこころ 3. 看護が専門職であるための看護のこころと姿勢 4. 本校教育理念「慈愛」 5. 慈愛のこころについて・・グループワーク 6. 他者への想い、優しさ、気遣いを届けるための想いと行動とは、想いを広げよう	講義 協働学習 （久徳）
第2回 第3回	慈愛のこころ②	1. 平和の大切さ、命の尊さ 戦争から語り継ぐ「命をつなぐ看護のこころ」	吉見文一 先生
第4回 第5回	慈愛のこころ③	2. 慈愛のこころと職業 いのちの心耳 慈愛のこころで仕事をする	前原孝二 先生
第6回 第7回	人権と看護①	1. ハンセン病問題を調べ、人権が侵害された人々の想い、人権について考える。 2. 病と社会の関係 3. 制度、政策の意味と看護者の責務とは	協働学習 グループディスカッション （久徳）
第8回	人権と看護②	星塚敬愛園見学 1. 星塚敬愛園のハンセン病の歴史から学ぶ。	施設見学 ＊参加後レポート提出
第9回	「看護の日」記念行事 心に届く慈愛の物語 先輩看護師のメッセージから考える	1. 先輩看護師の語る看護の実際 「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」参加 1）慈愛の看護をどのように具体的な行動として体現、実践しているのか 2）慈愛の心について考えたこと	5月16日 （土） 慈愛会「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」参加 ＊参加後レポート提出

授業要項

第 10 回	科目のまとめ 慈愛のこころを学んで	1. 自分達の考える慈愛の心、慈愛の看護とは 2. 科目のまとめ「行動指針の具体化」 各グループ発表　7G	協働学習 まとめ

単位認定の方法	1. 慈愛の心全体を通して、30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 慈愛の心（慈愛の心Ⅰ）は受講態度、発表、レポート等で評価し 70 点配点。 慈愛の心（音楽療法）30 点と合計して 100 点満点、合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは慈愛の心の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門分野：看護学概論	1 年次前期
	専門分野：すべての専門科目	3 年次全期
	臨地実習：すべての実習	各学年次
事前・事後学習	その都度指示。	
使用テキスト 参考文献等		
受講上のアドバイス	この授業は、本校教育理念、教育課程の核となる科目であり、これからの看護者としてのすべての学習、行動の基礎となる科目である。主体的、能動的に参加してクラスメンバー全員で協働し、授業科目の位置づけを考えながら臨むこと。 また、本授業は多様な見識をもつ講師による授業が行われる。看護の対象となる人々のみならず、人間の尊い命につて考え人々を慈しむ心を育む機会としてほしい。	
実務経験の内容	副校長　他 吉見文一先生：行政書士、鹿児島市遺族会副会長、 前原孝二先生：前職　きずな保育園園長 二見いすず先生：MBC 南日本放送パーソナリティ	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	慈愛の心 （音楽療法）	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	30 時間（内 10 時間）	講師名	松田 翠
科目概要		本校の教育理念にある”慈愛の心”を育み、一人ひとりをかけがえのない存在として大切に想い、かかわる看護者としての姿勢の基礎を養う。更に音楽療法を通して、人として日常の美しいものに感動する心を養うとともに、音楽が持つ、コミュニケーション力、人間の活動意欲や生きる力を支える力、癒しの力を体験する科目とする。			
科目目標		1. 太古の昔から人は他者とともに生き、お互いを想いやり支え合って生活することが人間の繁栄を支えてきたことを理解し、相手を慈しむ力、行動する力が看護の基盤、価値であることを説明できる。 2. 他者の多様な価値観に触れ、かけがえのない存在である人を尊重したかかわりについて自己の考えを説明できる。 3. 音楽の持つ力を体験し、コミュニケーション力、活動意欲や生きがいを支える力、癒しの力について考え、表現することができる。 4. ものごとや看護を捉えるときの行動指針として慈愛の心”の意味を常に考え、自己の行動に取り入れることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	音楽の持つ力	1. 本校の校歌 2. 音楽療法の意義	講義 参加型学習
第 2 回	音楽とコミュケーション力	1. 音楽をとおしての仲間作り、コミュケーションの実際	講義
第 3 回	活動意欲や生活リズムを引き出す音楽	1. 精神の障害をもつ対象への音楽療法	講義 グループ発表
第 4 回	意欲、身体能力機能を引き出す音楽	1. 高齢者のリクレーション、音楽	講義 グループ発表
第 5 回	成長発達を支援する音楽	1. 発達障害児と音楽療法の実際と体験	講義 グループ発表

単位認定の方法	1. 慈愛の心全体を通して、15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 慈愛の心（音楽療法）はグループ発表等の表現で評価し 30 点配点。 3. 慈愛の心は、慈愛の心（慈愛の心Ⅰ）70 点と合計して 100 点とする。慈愛の心試験合計 60 点以上を合格とする。 4. 上記の条件を満たしたものは慈愛の心の単位を取得できる	
関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野： 心理学、コミュニケーション論	1 年次前期
	専門分野： 看護学概論	1 年次
事前・事後学習		
使用テキスト 参考文献等		
受講上のアドバイス	この授業は、本校教育理念、教育課程の核となる科目であり、これからの看護者としての人間関係力、支援的役割の基礎となる科目である。主体的、能動的に参加し、音楽の持つ力を体感しながら学習すること。	
実務経験の内容	HAS 発達支援センター理事長 知的障害児施設で小児の成長発達支援に 10 年以上従事	

授業要項

	専門　音楽療法による療育指導

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
●	人間関係を築く力	●	研鑽し探求する力

授業要項

基礎分野		科目	コミュニケーション論	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間	講師名	尾崎 由美子
科目概要		他者との良好な人間関係を構築し人として成長するためのコミュニケーションの意義や技術について学ぶ。 相手の想い、考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、協働でケアを提供するための合意と人間関係を築いていくための良好なコミュニケーション能力や態度を養う基礎となる科目である。			
科目目標		1. 人間関係におけるコミュニケーションの意味と役割を説明できる。 2. 良い人間関係をつくるためのコミュニケーションの基本を説明できる。 3. ロール・プレイングを通して、良い人間関係を築くための自己のコミュニケーション技術の課題を述べることができる。 4. ディスカッションやディベートに主体的に参加し、アサーティブコミュニケーションを活用して建設的な意見交換ができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	関係つくり	1.「偏愛マップ」を活用した仲間作り	講義 演習
第2回	コミュニケーション能力とは	1. コミュニケーションの目的 楽しく会話を維持することだけがコミュニケーションの目的ではない。 2. 今後必要とされるコミュニケーション能力について	講義 グループワーク/発表
第3回	コミュニケーションのパターン分類	1. コミュニケーションの時間と構造化 2. コミュニケーションに必要なもの 3. 自己開示と何か、「ジョハリの窓」	講義
第4回	自己開示とは何か/文化圏	1. 自分自身の自己開示のレベル 2. 自己開示の深度、目的、ルール 3. 自己開示を受けたときの、してはいけないフィードバック	講義 グループワーク
第5回	自己開示の実際	1. 自己開示をやってみよう	演習 グループワーク/発表
第6回	価値観と非言語コミュニケーション	1. 価値観の多様性 2. アイコンタクトの役割（言語以上に重要な役割）	講義 グループワーク/発表
第7回	コンフリクトマネジメント	1. コンフリクトの管理スタイル 2. コンフリクトを解決するための対話に必要な姿勢 「共感」の概念と「わたし文」 共感アサーション 3. アサーティブコミュニケーション ・わかりやすい話し方 ・人と温かく関わる「ストローク」	講義 演習
第8回	アサーティブコミュニケーションの実際	1. アサーティブコミュニケーションの実際	演習 グループワーク
第9回	聞く力	1.「質問技法」	講義

授業要項

		聞いた内容が事実であるかどうかを判断する技術 2. 「傾聴法」 3. 共感と同情の違い 4. 判断を留保することの意義「エポケー」	
第 10 回	意図的コミュニケーション	1.「質問技法」を用いたコミュニケーションの実際 2.「傾聴法」を用いたコミュニケーションの実際	演習 グループワーク/発表
第 11 回	説得的コミュニケーション	1. 説得的コミュニケーション ①自動的な反応 ②行動に影響を与える要因 ③説得される側の心理	講義 グループワーク
第 12 回	コーチング	1. コーチングとは 2. コーチングとほかのアプローチの違い 3. コーチとメンターとの違い 4. コーチングのスキル ①認める　②聴く　③質問する　④フィードバックする　⑤励ます	講義
第 13 回	コーチング技法の実際	1. コーチング技法の実際	演習 グループワーク
第 14 回	チームにおけるコミュニケーションエラーの予防	1. チームにおけるコミュニケーションエラーとは 2. チームコミュニケーションと医療安全	講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 100 点配点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものはコミュニケーション論の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：心理学	1 年次前期
	専門分野：看護共通基本技術コミュニケーション	1 年次前期
	専門分野：保健指導技術	1 年次後期
	専門分野：精神看護学概論「患者―看護師関係」他	1 年次前期
	専門分野：医療安全	3 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論、医学書院
受講上のアドバイス	多様化する社会の中で、ケアの実践者として患者との関係はもちろん、ほかの保健医療専門職、家族、地域社会と密接に連携していくことが不可欠である。 この科目で学ぶ人間関係力、コミュニケーション技術は、その後に学ぶ基礎看護技術Ⅰの看護におけるコミュニケーション技術、患者-看護師関係構築の技術の学習につながり、健康の保持増進を目指す保健指導場面やチーム医療の一員としての対象の意思決定支援場面、多職種連携の場面等で看護の役割を発揮できるコミュニケーション能力の獲得につながる。積極的に演習に参加してコミュニケーション技法の習得を目指してほしい。

授業要項

実務経験の内容	鹿児島大学グローバルセンター外国人留学生部門非常勤講師

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
●	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

基礎分野		科目	心理学	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間	講師名	下木戸 隆司
科目概要		人間の心の仕組みや働き、発達課題も含めた心と行動の関連性を学び、心理的背景を含めた対象の理解ができる能力を養う。更に、自己理解を深め、他者理解の為の態度を養い、主体的に集団の中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮するための基礎とする。			
科目目標		1. 良い人間関係を構築するために、人間の発達課題や心理、行動の基礎にある原理を学び、自己理解・他者理解の重要性について説明できる。 2. 人間の心理やカウンセリングについて知識を深め、日常の人間関係に役立つ対応方法を理解し、活用できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	感覚と知覚	1. 感覚 2. 知覚のしくみ 3. 恒常性	講義
第2回	知覚	1. 錯視 2. 立体視 3. 運動視	講義
第3回	記憶	1. 記憶の特徴とモデル 2. 記憶の変容とヒューマンエラー 3. 効果的な記憶法 4. 高齢者の記憶の特徴	講義
第4回	感情と動機づけ	1. 感情のモデル 2. アンガーマネジメント 3. 動機づけのモデル	講義
第5回	性格と知能	1. 類型論 2. 特性論 3. 知能の構造	講義
第6回	発達とは 乳幼児期・児童期	1. 発達の特徴と要因 2. 乳幼児期と児童期の特徴 1）認知の発達 2）愛着、社会性の発達	講義
第7回	発達 思春期・青年期	1. 発達障害の特徴と対応 2. 思春期・青年期の特徴 1）自己の発達	講義
第8回	発達 成人期・老年期	1. 成人期の特徴 2. 老年期の特徴	講義
第9回	社会と集団心理	1. 対人認知 2. 対人コミュニケーション 3. 集団のしくみとはたらき 4. リーダーの影響力	講義
第10回	健康心理	1. ストレス 1）心理的ストレスモデル 2）学習性無力感とバーンアウト	講義
第11回	臨床心理	1. カウンセリングの考え方	講義

授業要項

		2. カウンセリングの流れ 1）傾聴	
第 12 回	臨床心理	1. 精神分析 2. パーソンセンタードアプローチ 3. 認知行動療法	講義
第 13 回	臨床心理	1. 行動療法 2. 交流分析 1）グループアプローチ	講義
第 14 回	学習と行動	1. 古典的条件づけ 2. オペラント条件づけ 3. 観察学習	講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは心理学の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：コミュニケーション論、	1 年次前期
	基礎分野：家族社会学	1 年次後期
	専門分野：看護学概論、看護共通基本技術	1 年次前期
	専門分野：各看護学概論（各発達段階、方法論等）	
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　基礎分野　心理学、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、人を対象とする看護を学ぶものとして対象理解の基盤となるものであり、その後の各看護学の学習に関連していく科目である。自身や周囲の人々の心理に関心を持って授業に臨んでほしい。	
実務経験の内容	・鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（教育心理学） 心理学，准教授 ・専門分野　教育心理学、認知心理学	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	倫理学	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	15時間	講師名	佐藤 由佳
科目概要		現代社会は人間関係が希薄になり、道徳性が失われつつある。社会の一員として生きていくための規範を守ることや、医療職としての倫理の考え方を学び、「倫理観」、「責任感」を養う。また、看護職者としての責務、看護倫理を学ぶ基礎とする。			
科目目標		1. 人間の生命に対する基本的理念及び倫理観について説明できる。 2. 医療倫理や看護倫理の原則を述べることができる。 3. 看護における倫理的思考の基礎を学び、対象の意思決定を支援するための現代社会の倫理的課題について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	法と道徳・倫理	法と道徳・倫理の関係、専門職における倫理	講義
第2回	倫理基礎	倫理学の基礎・倫理理論	講義
第3回	生命倫理	生命倫理の歴史・生命倫理の4原則	講義
第4回	人権・個人の権利	インフォームドコンセント、個人の権利とパターナリズム	講義
第5回	倫理的意思決定	倫理的判断と意思決定の方法	講義 演習
第6回	先端医療と倫理(1)	性・生殖の概念、人工中絶・代理懐胎	講義
第7回	先端医療と倫理(2)	移植医療・再生医療、遺伝子医療・出生前診断	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは倫理学の単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	専門分野：看護学概論	1年次前期
	専門分野：看護倫理	2年次前期
	臨地実習：各看護学実習	

事前・事後学習	事後学習：講義内で扱ったテーマにつき再考しノート等に記録を残すこと
使用テキスト 参考文献等	講義時に資料を配布する。
受講上のアドバイス	この科目では自ら疑問を持ち、考える姿勢を持つことが重要である。知識の定着に拘泥せず、あらゆる場面に対応できる思考力を身につけることを目指してほしい。
実務経験の内容	志學館大学法学部講師 専門分野：行政法 主な研究テーマ：（1）国家賠償法（2）災害対策法制

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

基礎分野		科目	教育学	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	高谷 哲也
科目概要		人間が成長するうえで教育が果たす役割、学ぶことと教えることの関係、学習者のとらえ方、生涯にわたり学び続けていくことの意味などについて理解を深め、ものごとを教育的にみることのできる力、対象の自立/自律を支援する基礎となる力を獲得する。			
科目目標		1. 教育という営みの本質と、人間の成長発達における教育の作用について、基礎的理解を深め、説明できる。 2. 「学ぶ」ことと「教える」ことの関係性について、自己の経験と専門的知見の両面から理解を深め、説明できる。 3. 教育という営みと、医療や看護・対人援助職の営みとの共通性や関係性について、自分の考えを述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	オリエンテーション 教育学という学問の特徴	本講義の進め方・学び方を体験し、 教育学という学問にどのような特徴があるかを学ぶ	講義・演習
第2回	自己評価の重要性と 自己調整学習	ひとが生涯にわたって学び成長していく際の営みを支え促すものとしての自己評価の重要性を学ぶ	講義・演習 映像視聴
第3回	経験に左右される 理想の教育像	ひとが教育という営みに携わる際には、自身が経験してきた被教育経験が大きく影響することを学ぶ	講義・演習 映像視聴
第4回	学びと知識獲得の メカニズム	「学習」や「学び」とは何か、知識の獲得にはどのような特徴があるのかを学ぶ	講義・演習 映像視聴
第5回	学ぶことと教えること	「学ぶ」ことと「教える」ことがどのような関係になっているのかを学ぶ	講義・演習 映像視聴
第6回	子どもの成長を促す要素	・子どもの成長を支え促す要素に何があるか、またそれを教育者はどのようにデザインしているかを学ぶ	講義・演習 映像視聴
第7回	経験・環境を通した学びと人間形成	・ひとの学習や学びを支え促しているものの中で、目にはみえないが重要なものに何があるかを学ぶ	講義・演習 映像視聴
第8回	学習者の内面にある想いと教育者の役割	学習者の内面にはどのような複雑な感情や想いが存在しているかを学ぶとともに教育者の役割を考える	講義・演習 映像視聴
第9回	集団の中での社会化と成長	ひとが成長していく過程において、所属している集団がどのような影響を与えているかを学ぶ	講義・演習 映像視聴
第10回	メディアと教育・メディアとしての教師	「メディア」の概念を理解し、教育者が学習者にメディアとして届けているメッセージについて考える	講義・演習
第11回	病気と向き合いながら学ぶ子どもたち	院内学級で学ぶ子どもたちと教師の事例から、教育の本質について考える	講義・演習 映像視聴
第12回	専門家の省察とよりそい	専門家の営みの特徴としての「省察」の概念について学び、学習者と教育者の関係について考える	講義・演習 映像視聴
第13回	成人の学習と教育の役割	成人の学習にどのような特徴があるかを学ぶとともに、学びにおける他者の存在意味について考える	講義・演習
第14回	ほめることの本質と 届くメッセージ	「ほめる」ことの本質について学ぶとともに、ひとの行為によって届くメッセージの特徴について考える	講義・演習 映像視聴
第15回	終講試験　まとめ	教育学の知見・見識と看護の関係について、自分なり	終講試験

授業要項

		の考えを表現する	講義
単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席がある。 2. 講義ポートフォリオとしての記録シートを完成させる。 3. 論述試験において教育学と看護の関係について論考する。 4. 上記の条件を満たしたものは教育学の単位を取得できる。		
関連科目	**関連科目**		**履修時期**
	基礎分野：心理学、コミュニケーション論、		1 年次前期
	専門分野：保健指導技術		1 年次後期
	専門分野：成人看護学概論		1 年次後期
	専門分野：母性看護学概論		1 年次後期
	専門分野：小児看護学援助論Ⅱ		3 年次前期
	臨地実習：各看護学実習		
事前・事後学習	授業に臨む前に前時の内容をふり返り要点を押さえておく。 事後課題は各回の学習内容に即してその都度提示する。		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　基礎分野　教育学、医学書院		
受講上のアドバイス	本科目では、講義・個人演習・グループでの演習・映像視聴など、様々な学習形態を通して他者と協力しながら学び、そこから専門的な概念や事象の意味を理解したり様々な学び方を身につけたりする学習方法を重視する。ひとりで理解・解決できない事柄は積極的に他者の力を借りてもらいたい。他者と共に学ぶ力や、上手に他者の力を借りることのできる力を獲得してもらうことも目指す。		
実務経験の内容	鹿児島大学　法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（教育学），准教授として学生教育、指導に従事 研究分野：教師論、教師教育学、教員研修、校内研究、学校経営、教員評価		

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	文化人類学	単位数	2 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	米田 智美
科目概要		自分の住む地域や世界の人々の暮らし、文化に触れ、自文化や異文化の理解に繋げる。また、それらの学びを通して、地域特性や国際化に対応し、多様な価値観の存在理解、人間理解の基礎とする。			
科目目標		異なる文化を持つ患者にとっての病の意味や背景に目を向け、医療と文化をキーワートに文化人類学の基本的な視点を学ぶ。また、在日外国人と医療の問題を扱い、学んだ視点や方法論を使って多文化共生医療の現状分析と看護の現場における改善について具体的に検討する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	文化人類学を親しむ	文化人類学的理解に向かう	講義
第 2 回	人間と文化	人間の進化 進化論のその後の展開	講義
第 3 回	文化の諸相	「人間」と「文化」の概念の成立 自民族中心主義と相対主義的文化観	講義
第 4 回	質的研究	フィールドワークの作法と成果	講義 協働学習
第 5 回	スノグラフィー （ethnography）	民族誌の世界	講義
第 6 回	個人・家族	個人・家族・性役割と結婚のあり方など	講義
第 7 回	家族を超えた繋がり	親族・社会などの人間関係のカテゴリー化と多様性	講義 協働学習
第 8 回	人生と通過儀礼	世界で行われる様々な儀礼・人間としての成長	協働学習
第 9 回	通過儀礼の意義	人生の節目の儀礼と人が新たな段階へと進むことの関連性	講義
第 10 回	文化人類学と宗教	宗教が人間の歴史・規範と結びついての意義	講義
第 11 回	宗教と世界観	多文化の中の宗教、文化、世界観	協働学習
第 12 回	健康と文化	文化による健康観、生活の違い 国や地域による健康格差	協働学習
第 13 回	病気と医療	健康と病気に係る人間の行動や病気の経験	講義
第 14 回	いのちと文化	死と病につい手の向き合い方の問題、医療人類学の観点	講義
第 15 回	終講試験　まとめ	理解度の確認	筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは文化人類学の単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	基礎分野：英語、倫理学	1年次～ 2年次
	専門分野：看護学概論	1年次前期
	専門分野：看護倫理	2年次前期
	専門分野：看護管理「国際看護」、災害看護	3年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　基礎分野　文化人類学、医学書院	
受講上のアドバイス	フィールドワークや異文化体験者の体験談についてのグループワーク等による、アクティブかつインタラクティブな学習を通して多様な価値観に触れる科目である。関連の新聞・テレビなどの報道、雑誌の記事に注目して主体的に関心を拡げてほしい。	
実務経験の内容	台湾、日本での看護実践や医療通訳、国際交流活動に関する経験を踏まえて、グローバル社会における看護について、学生を指導する。	

修得する能力(DP)との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感	●	時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

基礎分野		科目	家族社会学	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	黒光 貴峰
科目概要		自己も家族や社会の一員として影響を受けながら暮らしている存在であることを学び、社会的存在としての人間理解と家族の機能、社会システムと現代家族の課題について理解する。 また住生活環境についての演習を通して、主体的に生活を構築していく視点を養うとともに、災害時などの備えについても学習する。			
科目目標		1. 社会の構造と社会的存在としての人間の役割について理解し、自己の考えを説明できる。 2. 家族の構造と機能を理解し、家族システムについて述べることができる。 3. 家族形態や機能の変化に伴う現代社会の問題点について述べることができる。 4. 災害時の備えとして、家族や社会の構造、つながりがどのように機能したらよいのか述べることができる。 5. 現代家族の特徴と課題について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	授業ガイダンス	看護において家族と社会について学ぶ意義について考える。	講義
第2回	教育からみた家族と社会①	家族と社会について教育の視点から捉える。グループ活動を通して、今まで受けてきた教育を振り返る。	グループ活動
第3回	教育からみた家族と社会②	①で話し合った内容をまとめ発表する。発表で出てきた疑問等を、教育に関連する資料（学校基本調査・学校教員統計調査・学習指導要領の編成）を基に、解説する。	発表
第4回	家庭生活からみた家族と社会①	現代の家族の形態を踏まえ、多様な家族像の視点から看護場面への適用について考える。	講義
第5回	家庭生活からみた家族と社会②	家庭生活の実態を踏まえ、少子高齢化の視点から看護場面への適用について考える。	講義
第6回	男女共同参画からみた家族と社会①	・家族と社会について男女共同参画の視点から捉える。グループ活動を通して、男女共同参画社会について考える。	グループ活動
第7回	男女共同参画からみた家族と社会②	・①で話し合った内容をまとめ発表する。発表で出てきた疑問等を、男女共同参画に関連する資料（男女共同参画白書）を基に解説する。	発表
第8回	衣生活からみた家族と社会①	衣生活の実態を踏まえ、被服の構造の視点から、看護場面への適用について考える。	講義
第9回	衣生活からみた家族と社会②	衣生活の実態を踏まえ、被服の管理の視点から、看護場面への適用について考える。	講義
第10回	食生活からみた家族と社会①	食生活の実態を踏まえ、日本の食文化の視点から、看護場面への適用について考える。	講義
第11回	食生活からみた家族と社会②	食生活の実態を踏まえ、食の安全性の視点から、看護場面への適用について考える。	講義
第12回	住生活からみた家族と社会①	住生活の実態を踏まえ、日本の住文化の視点から、看護場面への適用について考える。	講義
第13回	住生活からみた家族と社会	住生活の実態を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点	講義

授業要項

	②	から、看護場面への適用について考える。	
第 14 回	消費生活からみた家族と社会	消費生活の実態を踏まえ、悪質商法・消費者問題の視点から看護場面への適用について考える。	講義
第 15 回	終講試験　まとめ	これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を考える。	筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 受講態度・演習への取り組み・試験にて総合的に評価する。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：心理学	1 年次前期
	基礎分野：文化人類学	1 年次前期
	専門分野：看護学概論	1 年次前期
	専門分野：家族看護	1 年次後期
事前・事後学習	事前学習としては、指示された文献・教材等を一読しておく。 事後学習としては、学習した内容を踏まえ自分自身の家族観を確認しておく。	
使用テキスト 参考文献等	授業時配布資料	
受講上のアドバイス	この授業は、家族と社会について、私たちが、日々、営んでいるそれぞれの生活（衣・食・住・消費・家庭生活）からみていく。普段の生活に興味・関心を持って、学習に臨んでほしい。	
実務経験の内容	･鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（家政教育）家庭科教育学、住居学，准教授 ･専門分野 家政・生活学一般、家庭科教育・住教育・防災教育	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
	看護を実践する力	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	英語	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間	講師名	ﾏｸﾏﾚｲ･ﾃﾞﾋﾞｯﾄﾞ
科目概要		人体の構造や機能、看護師と患者の間で交わされる会話や症状を題材として、病院内外で使用する英語表現を学ぶ。それらを通して、海外の医療・看護に興味・関心を持つとともに、国際化に対応しうる専門職者としてのコミュニケーション能力向上を目指す。			
科目目標		1. 医療・看護場面で活用できる英語表現力を身につける。 2. 多様な言語や価値観を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、アプローチする方法を身につける。 3. 海外の医療・看護に関心を持ち、広く国際的な知見を取り入れる方法や姿勢を修得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	First Visit	1. やさしい医療英語への案内	［やり取り］
第2回	Body Parts	1. 人体各部の名称と位置の英語表現 イラスト化された人体マップを活用して確認	［やり取り］
第3回	Skeleton bones and muscles	1. 骨格系と筋肉に関連する表現 ボキャブラリー	［アクティブラーニング発表］
第4回	Lungs	1. 肺、呼吸器 ボキャブラリー	講義
第5回	Digestion and diet	1. 消化器 ボキャブラリー	講義
第6回	Heart and circulation	1. 循環器 ボキャブラリー	講義
第7回	主な症状時の表現と対応	1. First Visit やさしい医療英語でケアする力を高める	［やり取り］
第8回	診察室でボキャブラリー	1. At the Examination Room ロールプレイ	［やり取り］
第9回	インフルエンザの症状ボキャブラリー	1. Flu Symptoms ロールプレイ	毎回 ［アクティブラーニング・発表］
第10回	痛み（腹痛）時の対応	1. Pain Problems （Abdominal Pain）ボキャブラリー	
第11回	胃	1. Stomachache ボキャブラリー	
第12回	検査時の対応	1. 尿検査 Urinaly sis 2. コレステロール Cholesterol 3. 貧血 Anemia	
第13回	怪我で病院の予約をする。	1. Operation Period ロールプレイ	
第14回	超音波、検査時の対応	1. Ultrasound Examination ロールプレイ	
第15回	終講試験　まとめ	1. 最新の話題を取り上げ 巻末の Appendix 1 & 2 では、医療現場で役立つ重要な語句や表現を掲載	「聞くこと」「読むこと」

単位認定の方法	1. 30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは英語の単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：心理学、コミュニケーション論	1年次前期
	基礎分野：文化人類学	1年次前期

授業要項

	専門基礎分野：機能生理学総論	1年次全期
	専門分野：看護管理・国際看護	3年次後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	Because We Care 2nd Edition （Inoue; Ihara: 2020, National Geographic Learning） Medical English Clinic（Nishihara, Mayumi & Toshiaki; Tony Brown：Cengage Learning）	
受講上のアドバイス	この授業は、病院でケアする人のための「英語ベーシックコミュニケーション」。医療現場で使われるフレーズに親しみ、将来必要となる専門用語を学習し、国際協力隊などでも活躍できる英語の基礎力を身に付けます。将来、医療関係に従事する学生のために、最新の話題を取り上げ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「ボキャブラリーと話すこと[発表]」及び「書くこと」の５技能をバランシングよく盛り込み、実務に役立つ総合的な英語力の養成を目指す。 そのために、授業は英語で行われます。臆せず行動していくことが英語力を身につけるポイントである。ロールプレイ場面などにアクティブに参加することを勧める。 使用テキストは名作漫画『ブラックジャック』を素材として導入し、将来医療現場に携わる学生向けの総合教材であり、医療のシチュエーションを通して５技能をバランスよく身につける。各ユニットの初めに、漫画『ブラックジャック』を英語で紹介しており、興味を引き、モチベーションを高めること間違いなし。	
実務経験の内容	鹿児島国際大学国際文化学部国際文化学科　国際文化研究科国際文化専攻 教授 元カナダの病院管理者 研究分野：管理スタッフ、医師、看護師、患者とのコミュニケーションとロールプレイ	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力		**連携・協働する力**
	看護を実践する力		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

基礎分野		科目	健康と活動	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間	講師名	高岡 綾子
科目概要		ストレスの多い社会に対応するために、集中力・心身のリフレッシュの方法を学習し、他者の健康管理や保健指導に応用するための基礎的能力を養う。 ※エアロビック，コンディショニング，運動療法について理論背景を学習し，実技を習得することによって理解を深める。			
科目目標		1. 健康と活動という観点から，生涯スポーツとしてのエアロビックを学習しその成果を学外で発表する。 2. 自身の健康維持に必要なコンディショニングの理論と方法を学び，実践できるようにする。 3. 特定の対象者に対する運動療法について理論と実技を通して理解を深め，今後の活動に生かすことができるようにする（妊娠期を中心とした産前産後）			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	オリエンテーション	授業の内容と評価方法について解説 自己紹介シートの提出	講義
第2回	エアロビック①	生涯スポーツとしてのスローエアロビック について	講義・実技
第3回	エアロビック②	発表演技の伝達と解説　全パートの練習	実技
第4回	エアロビック③ コンディショニング①	・エアロビック-動きの復習 ・コンディショニング-モニタリングをして自分のカラダについて知り授業の理解を深める	実技
第5回	エアロビック④ コンディショニング②	・エアロビック-グループで創作活動（１） ・コンディショニング-下肢のコンディショニング	実技
第6回	エアロビック⑤ コンディショニング③	・エアロビック-全体パート練習＆創作活動（２） ・コンディショニング-上肢と頸部のコンディショニング	実技
第7回	エアロビック⑥ コンディショニング④	・エアロビック-通し練習（１） ・コンディショニング-センターと腰部のコンデショニング	実技
第8回	エアロビック⑦ コンディショニング⑤	・エアロビック-通し練習（２） ・コンディショニング-体幹のコンデショニングと呼吸のトレーニング	実技
第9回	妊娠期における運動療法（理論）	資料と動画視聴を通して,①妊娠期における運動療法について②乳児が粗大運度を獲得する過程について運動の必要性と重要性を学ぶ	講義
第10回	妊娠期における運動療法（実技）	①　妊婦の実際の運動②運動という観点でパートナーはどのように支援することができるかについて実習を行う	実技
第11回	筆記テスト		試験・講義
第12回	エアロビック⑧ コンディショニング⑧	・エアロビック-自分たちで完成度を確認し必要な部分練習を行う ・コンディショニング-まとめと筆記テスト対策	実技
第13回	エアロビック⑨	完成した作品を動画として記録し,発表会までの5ヶ月間，自主練習ができるように計画を立てる	実技
第14回	発表リハーサル	リハーサルと学外実習のオリエンテーション	実技

授業要項

第 15 回	かごしま体操フェスティバル参加	練習の成果を発揮！演技発表した感想や他団体の発表を観て学習したことについて感想文を提出	実技

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 学外実習（かごしま体操フェスティバル）に参加すること 3. 総合点で 60 点以上を取得すること	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学総論	1 年次前期
	専門分野：看護学概論、基礎看護技術Ⅳ「活動と休息」	1 年次前期
	専門分野：保健指導技術、小児看護学概論，成人看護学概論、老年看護学概論，母性看護学概論	1 年次前期 ～1 年次後期
事前・事後学習	教科書や資料の指定された範囲は必ず予習復習すること 提出物課題は必ず期限内に提出すること	
使用テキスト 参考文献等	教科書：正しい体幹トレーニング　有吉与志恵著　株式会社実業之日本社 資料を適宜配布する	
受講上のアドバイス	この科目では、健康や運動について医療従事者として学んで欲しいことを講義や実技を通して学んでいきます。授業態度，提出物なども加味して評価しますので積極的な取り組みを希望します。	
実務経験の内容	日本スポーツ協会：エアロビックコーチ２マスター 日本エアロビック連盟：指導専門委員、技能検定員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
	看護を実践する力		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能生理学総論	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	20時間	講師名	下高原 理恵
科目概要		看護学の観点から人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に器官の位置関係、形状、内部構造、人体における役割を学ぶ基盤とする。また、生命活動を営むための細胞の構造、遺伝の仕組みと生殖・発生と老化の仕組みを理解し、各機能病態学に繋ぐ。			
科目目標		1. 機能生理学を学ぶ意義を述べることができる。 2. 人体の構造と区分、部位と各器官について説明できる。 3. 生命活動を営むための細胞の成り立ち、遺伝情報、エネルギーの生成について説明することができる。 4. 生命を継続可能にする生殖について人間の発生と成長、老化について説明できる。 5. 人体を構成する骨格、筋について述べることができる。 6. 全身の動脈、静脈について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護の土台となる機能生理学を学ぶ意義	1. 解剖生理学のための基礎知識 ２．構造からみた人体 ３．人体のさまざまな器官 ・機能からみた人体と器官系	講義
第2回		４．全身に広がる人体の器官 ①細胞とは ②細胞内にある小器官 ５．部位による人体の器官 ６．内部環境の恒常性：ホメオスタシス フィードバック機	講義
第3回	細胞を構成する物質とエネルギーの生成	1. 細胞のしくみ２ ①生命とは ②たんぱく質の合成 ③小器官の働き	講義
第4回	身体防御と適応	１．皮膚の構造と機能 ２．生体の防御機構 ３．体温とその調節	講義
第5回	生殖・発生と老化のしくみ	１．男性生殖器 ２．女性生殖器 ３．受精と胎児の発生 ４．成長と老化	講義
第6回 第7回	体表からみた人体の構造	１．体表から触知できる骨格部分 ・頭頚部の骨格部分 ・体幹上部の骨格部分 ・上肢の骨格部分 ・体幹下部の骨格部分 ・下肢の骨格部分	講義
第8回 第9回	体表からみた人体の構造	２．体表から触知できる大きな筋 ・頭頂部の筋 ・体幹上部の筋	講義

授業要項

		・上肢の筋 ・体幹下部の筋 ・下肢の筋 ３．体表から蝕知できる動脈 ４．体表から到達できる静脈	
第 10 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 20 時間中 14 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能生理学総論の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：生命のしくみ	1 年次前期
	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ～Ⅴの科目に関連	1 年次～ 2 年次
	専門分野：基礎看護学（感染予防、フィジカルアセスメントⅠ、活動・休息の各援助技術）	1 年次
	専門分野：成人看護学援助論Ⅴ：運動機能障害看護 専門分野：母性看護学	2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学、人体の構造と機能１，医学書院	
受講上のアドバイス	この授業、機能生理学総論は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。家やビルディング、等すべては土台づくりから始まります。医療に従事する人間の知識についても同じことが言えます。 自分の身体機能や生命活動の一つ一つ関連付けながら学び、これから学習する機能病態学に繋げて行きましょう。	
実務経験の内容	看護師　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科助教	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	看護栄養学 （生化学）	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間（内16時間）	講師名	内尾 康人
科目概要		人間にとっての栄養の意義、栄養と健康とのかかわりについて、人間の生理機能との関連から、「生化学」の知識を臨床看護につなげてとらえられるよう、「代謝」を軸に学習する。さまざまな栄養素からエネルギーを取り出し、生体成分を合成する代謝回転のうえに恒常性が保たれ、生命が維持されていることを学習する。これらの知識を土台に、栄養の基本的概念と各栄養素、栄養状態の評価、臨床栄養としての食事療法を学習し、あらゆる場での看護実践に活かす基礎をつくる。			
科目目標		1. 生体を構成する物質とその代謝について述べることができる。 2. 細胞内の物質の変化と病態の関連を述べることができる。 3. 栄養素と人間の栄養状態について述べ看護師の役割について説明できる。 4. 各栄養素の種類と働き、消化吸収について述べることができる。 5. ライフステージの栄養についてまとめることができる。 6. 主な疾患の食事療法について説明できる。 7. 演習を通して、生活習慣病予防にための必要な食生活についてまとめ伝えることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	生体を構成する物質とその代謝 1. 生化学を学ぶための基礎知識	1. 生化学とは 2. 生体の化学の基礎知識 3. 細胞の構造と機能（生命科学復習） 4. 代謝と生体のエネルギー	講義
第2回	2. 糖質の種類とはたらき	1. 糖質の種類 2. 糖質のはたらき エネルギー代謝	講義
第3回	3. タンパク質の種類とはたらき	1. タンパク質・アミノ酸の種類 2. タンパク質のはたらき エネルギー代謝	講義
第4回	4. 脂質の構造と機能 脂質代謝	1. 脂質の構造と機能 2. 脂質の消化と吸収 3. 脂質代謝に関する遺伝疾患	講義
第5回	5. 栄養素の吸収・代謝①	1. 機械的消化と化学的消化 2. 三大栄養素の吸収 3. 血漿成分と栄養素	講義
第6回	6. 栄養素の吸収・代謝②	1. 代謝と体内環境の調整	講義
第7回	7. 栄養素の吸収・代謝③	1. 核酸代謝 2. ポルフェリン代謝	講義
第8回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 看護栄養学30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験50点配点。看護栄養学（栄養学）50点と合計して100点満点、合計60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護栄養学の単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期

授業要項

	基礎分野：生命のしくみ	1年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、看護薬理学、各機能病態学	1年次後期～
	専門分野：基礎看護学(基礎看護技術Ⅱ「食生活援助」、「保健指導技術」等へ繋ぐ。	1年次前期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能③　栄養学 人体の構造と機能②　生化学	
受講上のアドバイス	看護師が自身の専門性に基づいて行う基本的技能の一つである食事の援助を修得するためには根拠に基づく栄養学の知識が必要となります。本授業では、3大栄養素の代謝や代謝機構の破綻による基礎的疾患を生化学の授業を通して学びます。生化学的知識を栄養学の授業に繋いで学習します。 さらに看護栄養学では、栄養と健康、栄養と疾病、傷害の関係を学び、さらに、人間の栄養状態の適正化を目指す支援ができるようになることを目標としています。人体や食物についての学習に留まらず、栄養によって人々の健康を維持、向上させる方法を総合的に学びます。	
実務経験の内容	鹿児島大学　医学部　名誉教授　専門分野　天然物有機化学	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	看護栄養学 (栄養学)	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間（内14時間）	講師名	加藤 実穂
科目概要		人間にとっての栄養の意義、栄養と健康とのかかわりについて、人間の生理機能との関連から、「生化学」の知識を臨床看護につなげてとらえられるよう、「代謝」を軸に学習する。さまざまな栄養素からエネルギーを取り出し、生体成分を合成する代謝回転のうえに恒常性が保たれ、生命が維持されていることを学習する。これらの知識を土台に、栄養の基本的概念と各栄養素、栄養状態の評価、臨床栄養としての食事療法を学習し、あらゆる場での看護実践に活かす基礎をつくる。			
科目目標		1. 生体を構成する物質とその代謝について述べることができる。 2. 細胞内の物質の変化と病態の関連を述べることができる。 3. 栄養素と人間の栄養状態について述べ看護師の役割について説明できる。 4. 各栄養素の種類と働き、消化吸収について述べることができる。 5. ライフステージの栄養についてまとめることができる。 6. 主な疾患の食事療法について説明できる。 7. 演習を通して、生活習慣病予防にための必要な食生活についてまとめ伝えることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	人間栄養学と看護	1. 保健・医療における栄養学 2. 看護と栄養 食生活支援にける看護師の役割 チーム医療・地域医療における栄養ケア 3. 各栄養素の種類と働き（生化学の復習、事前課題	講義
第2回	栄養ケアマネジメント	1. 日本人の食事摂取基準 2. 栄養アセスメントの目的 3. 栄養スクリーニング 4. 栄養アセスメント・ケア計画 5. 栄養状態の評価・判定	講義
第3回	ライフステージと栄養	1. 乳児期における栄養 2. 幼児期における栄養 3. 学童における栄養 4. 思春期・青年期における栄養 5. 成人期における栄養 6. 更年期における栄養 7. 高齢期における栄養	講義
第4回	臨床栄養の基本的知識	1. 栄養補給療法 2. 病院食 3. 経腸栄養食品 4. 静脈栄養剤	講義
第5回	臨床栄養の基本的知識	1. 疾患・症状別食事療法の基本的知識 1つの疾患を取り上げ、なぜそのような食事療法を行うのか調べ学習を行う。	講義 GW
第6回	健康づくりと食生活	1. 生活習慣病予防のための必要な食生活 グループ学習	GW
第7回		2. 生活習慣病予防のための必要な食生活 発表、学びの共有	GW

授業要項

	終講試験		筆記試験
単位認定の方法	1. 看護栄養学 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点。看護栄養学（生化学）50 点と合計して 100 点満点、合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護栄養学の単位を取得できる。		
関連科目	**関連科目**		**履修時期**
	基礎分野：生命のしくみ		1 年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、看護薬理学、各機能病態学		1 年次後期～
	専門分野：基礎看護学(基礎看護技術Ⅱ「食生活援助」、「保健指導技術」等へ繋ぐ。		1 年次前期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能③　栄養学、医学書院 参考図書:系統看護学講座　別巻　栄養食事療法、医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表		
受講上のアドバイス	看護師が自身の専門性に基づいて行う基本的技能の一つである食事の援助を修得するためには根拠に基づく栄養学の知識が必要となります。本授業では、3 大栄養素の代謝や代謝機構の破綻による基礎的疾患を生化学の授業を通して学びます。生化学的知識を栄養学の授業に繋いで学習します。 栄養学では、栄養と健康、栄養と疾病、傷害の関係を学び、さらに、人間の栄養状態の適正化を目指す支援ができるようになることを目標としています。人体や食物についての学習に留まらず、栄養によって人々の健康を維持、向上させる方法を総合的に学びます。		
実務経験の内容	慈愛会クリニック管理栄養士		

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	臨床判断Ⅰ	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	久徳・松山
科目概要		専門基礎分野である機能生理学総論や機能病態学を活かし、人間の普遍的なニードである生活行動の観点から代表的な徴候や症状に気づき、その要因やメカニズムを解釈し予期する力を身につける。学習者の主体的な学びを支援し臨床判断能力の基盤を養う。			
科目目標		1. 人間の生活行動に関心を持ち、身体に出現した各症状を説明できる。 2. 各症状への気づきを高め、要因やメカニズムを説明できる。 3. 各症状に関連する予期する力、判断する力の必要性を述べることができる。 4. 演習や授業を通して臨床判断とは何かを説明できる。 5. 臨床判断における自己の課題が言える。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	学習導入 事例で考える患者の「サイン」	1. 「臨床判断」とは？ 看護師の思考（目的・必要性・思考様式） 私達のできる臨床判断 「気づく」ことの意味	講義 PBL （松山）
第2回	日常生活行動「排泄場面」 サインに気づく①	1. 青山さんの排泄の場面をみて看護に活かす気づきをみんなで考えよう。 「気づき」を深める 排泄に必要な解剖生理をまとめる 問題を見出す 必要な看護を判断しよう	PBL （松山）
第3回 第4回	グループ発表（青山さんの看護）	1. グループ発表を行い、気づきから繋がる看護の視点を深める	PBL プレゼン （松山）
第5回	日常生活行動「食事場面」 サインに気づく②	1. 上野さんの食事の場面をみて看護に活かす気づきをみんなで考えよう。 気づいた問題点とそれを解決すべき知識の整理をする	PBL （松山）
第6回	看護につなぐ体の機能としくみ（導入） 生きるということ 発熱	1. 生きているとはどういうことか 2. 人の生活行動を支える体のしくみ 3. 臨床推論とは（臨床判断能力に必要な予期する力） タナーモデルを活用した学習の方法 4. 発熱事例から臨床推論を学ぶ 5. 検査値に関心をもつ。	講義 （久徳）
第7回	人間の生活行動に影響する症状と臨床判断 脱水	1. 体液維持のしくみが崩れたら・・・ 細胞外液と細胞内液と浸透圧 酸塩基平衡 脱水のメカニズム 事例から脱水の原因を考える	講義 ワーク （久徳）
第8回	呼吸障害	1. 呼吸のしくみに障害が起きたら・・ 呼吸のしくみ、呼吸運動 拘束性呼吸障害と閉塞性呼吸障害 呼吸性アシドーシスと呼吸性アルカローシス 事例から呼吸障害の原因を考える	講義 ワーク （久徳）

授業要項

第 9 回	貧血、感染、出血	1.　血液のしくみに障害が起きたら・・・ 血液の成分と主な働き 貧血はなぜ起こる 出血 事例から貧血の原因を考える	講義 ワーク
第 10 回 第 11 回 第 12 回	人間の生活行動に影響する症状と臨床判断 臨床判断演習	１.人体の構造と機能の知識と臨床判断に必要な予期の統合 1)体に現れた呼吸困難感、低酸素血症、チアノーゼ 2)体に現れた吐血、ショック、血圧異常 3)体に現れた嘔吐、代謝性アルカローシス 4)体に現れた意識障害 5)体に現れた浮腫と黄疸 6)体に現れた血尿と高血圧 各事例のサインに気付き、臨床判断に必要な解剖、機能や症状のメカニズムを自分たちで調べ、その症状に見られるデータや観察の視点など、推論したこと、必要な看護について、まとめ授業案を作成する。	ＰＢＬ グループ学習
第 13 回 第 14 回 補講	人間の生活行動に影響する症状と臨床判断 臨床判断演習	各グループで学習したことを実際に授業してみよう。 各グループ 30 分の授業を行う ＊授業を通して、人間の生活行動に影響する症状と臨床判断を学び深める	ＰＢＬ グループ学習
第 15 回	終講試験　まとめ	1.　学習のまとめ 2.　臨床判断における自己の課題の明確化（今後の学習）	筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 松山 30 点（PBL 評価）、久徳 70 点で 100 点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは臨床判断Ⅰの単位を取得できる。	
関連科目	関連科目	**履修時期**
	基礎分野：生命しくみ、看護における自然科学	1 年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、各機能病態学、看護薬理学、臨床判断Ⅱ	1 年次～ 2 年次
	専門分野：基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」「基礎看護技術、成人看護学援助論他	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。 各機能の生理的な正常な人体の構造としくみについては事前にまとめて、授業に臨むこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進②　病態生理学、医学書院 参考文献　イラストで学ぶ『人体のしくみとはたらき』、医学書院　他	
受講上のアドバイス	この授業は、看護学の観点から人体のしくみと体に現れる症状に関心を高め、科学的根拠に基づく判断力を身につけていきます。学生の主体的な学習により、自らわかる学習を目指します。また、その学びをわかりやすく整理し、伝え、学びを共有することで、今後の学習へと活用します。 正常機能を復習したうえで、正常機能が破たんして異常となるまでのメカニズムを理解し、必要な看護援助が判断できるよう頑張りましょう。既習の看護薬理学や臨床検査に関する知識も活用しながら学びましょう	

授業要項

実務経験の内容	看護師　専任教員 消化器外科、内科等看護師経験 10 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
●	人間関係を築く力	●	研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅰ (呼吸機能)	単位数	2単位
時期	1年次前～後期	時間数	40時間(内20時間)	講師名	小濵 奈々
科目概要		機能病態学Ⅰは、呼吸器、循環器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、呼吸機能、循環機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(呼吸器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(呼吸器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（呼吸器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 呼吸機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・呼吸機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(循環器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(循環器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（循環器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 循環機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	呼吸器の構造	1. 呼吸器の構成 2. 上気道（鼻、咽頭、喉頭、発声と構音 3. 下気道と肺（気管・気管支） 4. 胸膜・縦隔	講義
第2回	呼吸のしくみ	1. 内呼吸と外呼吸 2. 呼吸器と呼吸運動（気道の機能、肺胞の呼吸、呼吸のメカニズム、呼吸筋） 3. 呼吸気量（呼吸数、1回換気量・死腔・肺胞換気量、肺活量、残気量） ガス交換とガスの運搬	講義 ワーク
第3回	呼吸のしくみ	1. 肺の循環と血流（肺循環、換気血流比不均等の調節） 呼吸運動の調節（呼吸の神経性調節、化学受容器、呼吸運動の異常と病的呼吸	講義
第4回	呼吸器系の病態生理	1. 換気障害 2. 拡散障害 3. 換気血流比不均等 右-左短絡	講義
第5回 第6回	呼吸器系の疾患の病態と診断・検査・治療 ・炎症性疾患の病態、診断・治療	1. 気管支炎 2. 肺炎、間質性肺炎、誤嚥性肺炎 3. 胸膜炎 4. 気管支喘息	講義

授業要項

		吸入療法	
第 7 回	・換気障害	5. 慢性閉塞性肺疾患の病態、検査、診断、治療	講義
第 8 回	・肺循環障害の病態、診断・治療	1. 肺高血圧症 2. 肺塞栓症 肺結核	講義
第 9 回 第 10 回	・気胸 ・腫瘍	1. 気胸、自然気胸 胸腔ドレナージ、胸腔穿刺 2. 肺がん 手術療法 中皮腫	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 40 時間中 27 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点。機能病態学Ⅰ（循環機能）50 点と合計して 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅰの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年後期
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅰ、成人看護学援助論Ⅰ	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学②呼吸器、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	救急看護認定看護師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅰ (循環機能)	単位数	2単位
時期	1年次前～後期	時間数	40時間(内20時間)	講師名	木佐貫 彰
科目概要		機能病態学Ⅰは、呼吸器・循環器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、呼吸機能・循環機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(呼吸器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(呼吸器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（呼吸器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 呼吸機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・呼吸機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(循環器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(循環器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（循環器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 循環機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・循環」機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	心臓の構造と機能 ・循環器系の構成 ・心臓の構造	1. 循環器系の構成 2. 心臓の構造（心臓の位置と外形、心臓の4つの部屋と4つの弁、心臓壁、心臓の血管と神経）	講義
第2回	・心臓の機能 ・刺激伝導系	1. 心臓の拍出機能 2. 心臓の興奮とその伝番（心臓の自動性と歩調取り、興奮の伝番、リズムの変化 3. 心電図（心電図の誘導、心電図の波形とその意味、不整脈、心停止とみなされる4つの状態） 心臓の収縮（心拍出量と血圧、心音と心雑音）	講義 ワーク
第3回	血管系の構造と機能	1. 血管の構造（動脈、毛細血管、静脈、側副路と吻合、血管の神経） 2. 肺循環の血管（肺動脈、肺静脈） 3. 体循環の動脈（上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈、腹大動脈、総腸骨動脈とその枝 体循環の静脈（上・下大静脈、頭頚部の静脈、上肢の静脈、骨盤と腹部の静脈、門脈系）	講義

授業要項

第 4 回	血液循環の調節 リンパ管の構造と機能	1. 血圧（動脈圧）最高血圧、最低血圧 2. 血液の循環 3. 血圧・血流量の調節 4. 微小循環（物質交換の機序、浮腫のメカニズム） 5. リンパ液、リンパ管の構造、機能胸管	講義
第 5 回	循環器系の病態生理 機能が障害されたときの影響を知る。	1. チアノーゼ 2. 起立性低血圧 3. うっ血性心不全 4. 急性心不全 5. 高血圧	講義
第 6 回	心臓の疾患の病態と診断・検査・治療	1. 先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症） 2. 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群；心筋梗塞）冠状動脈造影検査、大動脈バルーンパンピング 3. 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症） 4. 心不全（左心不全、右心不全）スワンガンツカテーテル検査 5. 心タンポナーデ	講義
第 7 回		1. 不整脈（上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈 2. 不整脈（徐脈性不整脈）ペースメーカー治療 3. 炎症性疾患（感染性心内膜炎、心筋炎）	講義
第 8 回	血管系の疾患の病態と診断・検査・治療	1. 大動脈瘤、大動脈解離 2. 閉塞性動脈硬化症 3. 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症	講義
第 9 回	血圧異常の病態と診断・検査・治療	1. 動脈硬化症 2. 本態性高血圧 3. 二次性高血圧 4. 起立性低血圧	講義
第 10 回	ショックの病態と診断・治療	1. 心源性ショック 2. 出血性ショック 3. 血流分布異常性ショック	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 40 時間中 27 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点。機能病態学Ⅰ（呼吸機能）50 点と合計して 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅰの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ： 基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅰ、成人看護学援助論Ⅰ	1 年次～2 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学③循環器、医学書院

授業要項

受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。
実務経験の内容	循環器内科医師 慈愛会いづろ今村病院　循環器内科部長

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅱ (消化器外科疾患系)	単位数	2 単位
時期	1 年後期	時間数	40 時間(内 8 時間)	講師名	上之園 芳一
科目概要		機能病態学Ⅱは、消化器、内分泌器官の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、消化・吸収機能、内分泌・代謝機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(消化器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(消化器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（消化・吸収機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 消化・吸収機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・消化・吸収機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(内分泌・代謝)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(内分泌)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（内分泌・代謝）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・内分泌・代謝機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	上部消化管の疾患の病態と診断・検査・治療	1. 炎症性疾患 逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症 2. 潰瘍性疾患 胃潰瘍、十二指腸潰瘍（潰瘍食事療法）	講義
第 2 回		3. 腫瘍 食道がん、胃がん	講義
第 3 回	下部消化管の疾患の病態と診断・検査・治療	1. 炎症性疾患 潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻 2. イレウス	講義
第 4 回		1. 腫瘍 大腸ポリープ、結腸癌、直腸がん 手術療法と術後管理 2. 排便障害（便秘・下痢）	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 40 時間中 27 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 20 点配点。機能病態学Ⅱ（消化機能）40 点、(内分泌・代謝機能）40 点と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅱの単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅱ、成人看護学援助論Ⅱ	1年次～ 2年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤消化器、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1年次～2年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	消化器外科医師　今村総合病院副院長兼消化器外科主任部長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅱ (消化機能)	単位数	2 単位
時期	1 年次後期	時間数	40 時間(内 14 時間)	講師名	松山 日実子
科目概要		機能病態学Ⅱは、消化器、内分泌器官の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、消化・吸収機能、内分泌・代謝機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(消化機能)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(消化器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（消化機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 消化・吸収機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。(16H) ・消化・吸収機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(内分泌・代謝)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(内分泌)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（内分泌・代謝）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・内分泌・代謝機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回 第 2 回	栄養の消化と吸収 ・口・咽頭・食道の構造と機能 ・腹部消化管の構造と機能	1. 口の構造と機能 2. 咽頭と食道の構造と機能 3. 胃の構造と機能 4. 小腸の構造と機能 5. 栄養素の消化と吸収 6. 大腸の構造と機能	講義
第 3 回	・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	1. 膵臓の構造と機能 2. 肝臓と胆嚢の構造と機能 3. 腹膜と腸間膜の構造と機能 腹膜と内臓の位置関係	講義
第 4 回	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・検査・治療 ・炎症性疾患の病態と治療	1. 炎症性疾患 2. 肝炎（急性、慢性)、胆嚢炎、膵炎 インターフェロン療法、膵炎生活指導 3. 脂肪肝、アルコール性肝炎	講義
第 5 回	・肝硬変の病態と治療	1. 肝硬変 肝生検、肝動脈塞栓療法、 食道静脈瘤の病態、硬化療法	講義

授業要項

第 6 回	・腫瘍の病態と治療	1. 腫瘍 肝がん、胆のうがん、胆管癌、膵癌 肝切除術、胆嚢摘出術、膵摘出術の術後管理	講義
第 7 回	・脂肪肝、胆石症の病態と治療	1. 胆石症 2. 胆道ドレナージ療法	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 40 時間中 27 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 40 点配点。機能病態学Ⅱ（消化器外科疾患系）20 点、（内分泌・代謝機能）40 点と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅱの単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅱ、成人看護学援助論Ⅱ	1 年次～ 2 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤消化器、医学書院
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。
実務経験の内容	看護師　今村総合病院　臨床看護教員 専任教員経験 10 年以上あり

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅱ (内分泌・代謝機能)	単位数	2 単位
時期	1 年次後期	時間数	40 時間(内 18 時間)	講師名	石牟礼 ゆかり
科目概要		機能病態学Ⅱは、消化器、内分泌器官の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、消化・吸収機能、内分泌・代謝機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(消化機能)の構造と生理機能について習得する。(10H) ・人体の構造(消化器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（消化機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 消化・吸収機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。(16H) ・消化・吸収機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(内分泌・代謝)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(内分泌)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（内分泌・代謝）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・内分泌・代謝機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	内分泌機能の調節 ・全身の内分泌の機能	1.　内分泌とホルモン 2.　ホルモンの構造と作用機序 3.　視床下部―下垂体の機能とホルモン 4.　甲状腺と副甲状腺の構造、ホルモン	講義
第 2 回	・ホルモン分泌の調整	1. 膵臓の構造と機能 2. 副腎の構造と機能 3. 性腺の構造と機能 4. 負のフィードバック、正のフィードバック	講義
第 3 回	内分泌系の疾患の病態と診断・検査・治療 ・視床下部、下垂体疾患	1.　下垂体ホルモンの検査 5. 視床下部―下垂体前葉系疾患 6. 視床下部―下垂体後葉系疾患 7. 下垂体腫瘍	講義
第 4 回	・甲状腺疾患 ・副甲状腺疾患	1. 甲状腺ホルモンの検査 2. 甲状腺機能亢進症 3. 甲状腺機能低下症 4. 甲状腺炎 5. 甲状腺がん 副甲状腺（上皮小体）疾患	講義
第 5 回	・副腎皮質・髄質疾患	1. 副腎皮質・髄質の働きとその異常	講義

授業要項

		2. 副腎の疾患 副腎のホルモンの検査	
第 6 回	代謝異常の疾患の病態と診断・検査・治療 ・糖尿病の診断・治療	1. 糖尿病の分類（1 型、2 型） 2. 診断 3. 治療（食事療法）	講義
第 7 回		1. 治療（運動療法） 2. 治療（薬物療法）	講義
第 8 回	・糖尿病合併症	1. 3 大合併症（腎症、網膜症、神経症） 2. 大血管合併症 3. 急性合併症 妊娠合併症	講義
第 9 回	・脂質異常症他	1. 脂質異常症 2. 肥満 高尿酸血症	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 40 時間中 27 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 40 点配点。機能病態学Ⅱ（消化外科疾患系）20 点、（消化機能）40 点と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅱの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅱ、成人看護学援助論Ⅱ	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑥内分泌・代謝、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	看護師　糖尿病療養指導者 代謝・内分泌系の看護師経験有	

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅲ （脳・神経機能）	単位数	1単位
時期	1年次前～後期	時間数	30時間(内16時間)	講師名	納 光弘
科目概要		機能病態学Ⅲは、脳・神経、運動器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、脳・神経機能、運動機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(脳・神経)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(脳・神経)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（脳・神経機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 脳・神経機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・脳・神経機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(運動器:骨格・筋)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(運動器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（運動器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 運動器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理､治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・運動器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	情報の受容と処理　P385～ ・神経系の構造と機能	1. 神経細胞と支持細胞 2. ニューロンでの興奮の伝導 神経系の構造	講義
第2回	・脳の構造と機能　P397 ・脳神経の構造と機能 P414 ・脊髄の構造と機能 ・脊髄神経の構造と機能	1. 大脳の構造、機能 2. 視床、視床下部の構造、機能 3. 中脳、橋、延髄の構造、機能 4. 小脳の構造、機能 5. 脳神経の主な支配域、機能 6. 脊髄の構造、機能 7. 脊髄神経の主な支配域、機能 8. 脳の高次脳 9. 運動機能と下行伝導路	講義 ワーク
第3回	中枢神経系の疾患の病態と診断・検査・治療 ・脳血管障害	1. 脳内出血 2. クモ膜下出血 3. 脳梗塞 4. もやもや病	講義
第4回	・頭蓋内圧亢進症	1. 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 2. 脳圧の異常による障害 3. 脳腫瘍	講義

授業要項

第 5 回	・変性疾患 ・認知症	1. パーキンソン病 筋委縮性側索硬化症（ＡＬＳ） 2. アルツハイマー型認知症 3. 血管性認知症 レビー小体型認知症	講義
第 6 回	・脊髄損傷 ・機能性疾患	1. 脊髄損傷 2. 重症筋無力症 3. てんかん	講義
第 7 回	抹消神経系の疾患の病態と診断・検査・治療	1. ギランバレー症候群 2. 顔面神経麻痺 3. 自律神経失調症 4. 圧迫性神経障害	講義
第 8 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅲ30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点。機能病態学Ⅲ（運動機能）と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅲの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅳ、成人看護学援助論Ⅲ	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑦脳神経、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	脳神経内科医　公益財団法人慈愛会会長 元鹿児島大学脳神経内科教授・医学部長	

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　●　密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅲ (運動機能)	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間(内14時間)	講師名	海江田 英泰
科目概要		機能病態学Ⅲは、脳・神経、運動器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、脳・神経機能、運動機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(脳・神経)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(脳・神経)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（脳・神経機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 脳・神経機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・脳・神経機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(運動器:骨格・筋)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(運動器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（運動器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 運動器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・運動器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 第2回	身体の支持と機能 ・骨格の構造と機能 ・骨格筋の構造と機能	1. 骨の形態と構造、骨の組織、骨の発生と成長 骨の生理的機能 2. 骨格筋（筋の構造、作用、神経支配） 3. 体幹の骨格と筋（脊柱、胸郭、背部、胸部、腹部） 4. 上肢の骨格と筋 上肢の運動機能 5. 下肢の骨格と筋 下肢の運動機能 6. 頭頚部の骨格と筋 頭部の骨格と筋、頸部の筋 7. 筋の収縮（骨格筋の収縮機構）	講義
第3回	骨・関節の疾患の病態と診断・検査・治療	1. 骨折の病態、診断、治療 分類、症状、よくみられる症状、大腿頸部骨折 2. 脱臼（肩関節） 3. ねん挫と打撲	講義
第4回		1. 骨粗鬆症 2. 腫瘍（骨肉腫） 3. 先天性疾患（先天性股関節脱臼、内反足）	講義
第5回		1. 変形性関節症 2. 慢性関節リウマチ	講義
第6回		1. 腰痛症 椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症	講義

授業要項

		2. 炎症性疾患 3. 骨・骨髄炎、関節炎	
第 7 回	運動機能障害疾患の診断に必要な検査	1. 関節可動域測定 2. 徒手筋力テスト 3. ミエログラフィー	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅲ30 時間中 18 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点。機能病態学Ⅲ（脳・神経機能）と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅲの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ： 基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅳ、成人看護学援助論Ⅲ	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能①解剖生理学、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑩運動器、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	整形外科医師　今村総合病院整形外科医師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅳ (腎・泌尿器機能)	単位数	2単位
時期	2年次前期	時間数	40時間(内16時間)	講師名	中川 昌之
科目概要		機能病態学Ⅳは、腎・泌尿器、血液・皮膚の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、腎排泄機能、身体防御機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(腎・泌尿器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(腎・泌尿器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（腎・排泄機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 腎・排泄機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・腎・泌尿器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(身体防御)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(血液)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（血液）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 身体防御機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・身体防御機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	体液の調節の尿の生成 ・腎臓の構造と機能	1. 腎臓の構造と機能（腎臓の構造、腎臓の機能） 2. 糸球体の構造と機能(糸球体の組織構造、糸球体ろ過) 3. 尿細管の構造と機能(尿細管の組織構造、尿細管の機能	講義
第2回	・体液量の調節 （糸球体濾過機能に関係するホルモン）	1. 傍糸球体装置（レニン一アンギオテンシン一アルドステロン系） 2. 抗利尿ホルモンの作用 3. クリアランスと糸球体濾過 腎臓から分泌される生理活性物質（エリスロポエチン、ビタミンDの活性化）	講義
第3回	排尿路の構造と機能	1. 排尿路の構造、機能（尿管、膀胱、尿道） 2. 尿の貯蔵と排尿（尿の輸送と貯蔵、排尿の機序、尿の成分と性状） 尿・排尿の異常	講義
第4回	腎疾患の病態と診断・検査・治療 ・腎疾患の治療	1. 血液透析療法 血液透析の原理、バスキュラーアクセス 内シャント形成術 2. 血液透析患者にみられる合併症 透析導入時合併症、慢性合併症	講義

授業要項

		3. 腹膜透析 腹腔カテーテルの造設と腹膜透析液 腹膜透析の実施法（CAPD,IPD） 4. 持続血液透析濾過法（CHDF） 5. 腎移植 組織適合試験、 移植手術、手術と免疫抑制療法	
第5回	・疾患の理解 腎不全とAKI・CKD	1. 急性腎不全（ARF） 2. 急性腎障害（AKI） 3. 慢性腎不全（CRF） 慢性腎臓病（CKD）	講義
第6回	・ネフローゼ症候群 ・腎炎	1. ネフローゼ症候群 2. 糸球体腎炎：急性糸球体腎炎、 慢性糸球体腎炎のタイプと治療	講義
第7回	泌尿器系疾患の病態と診断・検査・治療 治療と処置	1. 経尿道的操作及び内視鏡検査 術前処置、器具を用いる検査 2. 尿流動態検査（ウロダイナミックスタディ） 3. 生検 4. 尿路感染症の治療 5. 手術療法：尿路変更術 6. 泌尿器がんの治療 排尿管理:清潔間欠導尿	講義
第8回	疾患の理解	1. 尿路の通過障害と機能障害 2. 尿路結石症 3. 尿路・性器の腫瘍 腎がん、膀胱がん 尿道がん、前立腺がん	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅳ40時間中27時間以上の出席があること。 2. 筆記試験40点配点。機能病態学Ⅲ（身体防御機能：血液）30点と（皮膚アレルギー）30点を合計し100点満点。合計60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅳの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅲ・Ⅴ、成人看護学援助論Ⅲ	1年次～ 2年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑧腎・泌尿器
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1年次～2年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくる

授業要項

	のか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 　ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。
実務経験の内容	泌尿器科医

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅳ (身体防御：血液機能)	単位数	2単位
時期	2年次前期	時間数	40時間(内14時間)	講師名	徳永 雅仁 他
科目概要		機能病態学Ⅳは、腎・泌尿器、血液・皮膚の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、腎排泄機能、身体防御機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(腎・泌尿器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(腎・泌尿器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（腎・排泄機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 腎・排泄機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・腎・泌尿器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(身体防御)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(血液)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（血液）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 身体防御機能障害（血液疾患）をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・身体防御機能障害（血液疾患）時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	血液の成分と機能 ・止血機構 ・血液型	1. 血液の組成と機能 2. 赤血球（数、ヘモグロビン、ヘマトクリット） 赤血球の新生、破壊、貧血 3. 白血球（顆粒球、リンパ球、単球） 4. 血小板 5. 血漿タンパク質 6. 血液の凝固 7. 血液型（ABO式、Rh式）	講義
第2回	生体の防御機構 ・免疫系（特異的生体防御反応）	1. 免疫系の細胞 2. 抗原と抗体 3. 補体 4. 液性免疫、細胞性免疫 5. アレルギー反応 組織適合性抗原（HLA）	講義
第3回	血液・造血器の疾患の病態と診断・検査・治療 ・血液・造血器総論 ・貧血	1. 造血のしくみ、血液像の特徴および機能（復習） 2. 血液疾患の検査（骨髄穿刺） 3. 鉄欠乏性貧血 4. 巨赤芽球性貧血	講義
第4回	・出血性疾患	1. 血栓性血小板減少性紫斑病（TTP） 2. 免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）	講義

授業要項

		3. 播種性血管内凝固（DIC）	
第 5 回	・主な治療	1. 造血幹細胞移植 2. 化学療法	講義
第 6 回	・悪性リンパ症	1. 悪性リンパ腫の病態、診断、治療 （総論、症例） 2. 多発性骨髄腫の病態、診断、治療	講義
第 7 回	・白血病	1. 白血病の病態、診断、治療 （総論、AML,ALL,CML,CLL） 2. ATL の病態、診断、治療	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅳ40 時間中 27 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 30 点配点。機能病態学Ⅲ（腎・泌尿器機能）40 点、(身体防御：皮膚・アレルギー）30 点と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅳの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅴ、成人看護学援助論Ⅳ	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学④血液・造血器、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	血液内科医師　今村総合病院血液内科 日本内科学会認定医　日本血液学会専門医	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅳ (皮膚・アレルギー)	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	40時間(内10時間)	講師名	米倉 健太郎
科目概要		機能病態学Ⅳは、腎・泌尿器、血液・皮膚の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、腎排泄機能、身体防御機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(腎・泌尿器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(腎・泌尿器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（腎・排泄機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 腎・排泄機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・腎・泌尿器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(身体防御)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(皮膚機能)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（皮膚機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 身体防御機能(皮膚・アレルギー)障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・身体防御機（皮膚機能）障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	皮膚・アレルギー疾患の病態と診断・検査・治療	1. 皮膚の構造と機能 免疫機能、保湿作用、体温調節作用 知覚作用、分泌・排泄作用 2. 症状と治療検査 発疹、掻痒 アレルギー検査 3. 病原微生物の検査	講義
第2回	・皮膚疾患の治療・処置	1. 手術療法 2. 全身療法、外用療法 3. 光線療法、レーザー療法 4. 電気外科、凍結療法、ケミカルピーリング	講義
第3回	・疾患の理解	1. 表在性皮膚疾患 湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、紅斑症 2. 上皮系腫瘍 3. 感染症 4. 熱傷 5. アナフィラキシーショック 花粉症	講義

授業要項

第4回 第5回	自己免疫疾患の病態と診断・治療	1. 全身性エリテマトーデス（SLE） 2. 強皮症 3. 関節リウマチ 4. シェーグレン症候群 5. 上記疾患の診断に必要な検査、治療 6. 免疫グロブリン等免疫学的検査 7. 薬物療法（ステロイド療法 8. 症状と病態 関節痛、レイノー現象、発熱、蛋白尿、筋力低下	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅳ40時間中27時間以上の出席があること。 2. 筆記試験30点配点。機能病態学Ⅲ（腎・泌尿器）40点と（身体防御血液・造血器）30点と合計し100点満点。合計60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅳの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅲ、成人看護学援助論Ⅳ	1年次～ 2年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑫皮膚	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1年次～2年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	皮膚科医　今村総合病院皮膚科部長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅴ (感覚器：眼機能)	単位数	1単位
時期	2年次後期	時間数	30時間(内6時間)	講師名	土居 範仁
科目概要		機能病態学Ⅴは、感覚器（眼・耳)、歯・口腔、女性生殖器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、感覚器（眼・耳）機能、歯科・口腔機能、女性生殖機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(感覚器：眼)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(感覚器：眼)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（感覚器：眼機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 感覚器：眼の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・感覚器：眼の機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(女性・生殖器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(女性・生殖器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（女性・生殖器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 女性・生殖器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・女性・生殖器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	眼疾患の病態と診断・検査・治療 ・眼の構造と機能 ・症状とその病態生理	1. 眼球：角膜・強膜、ぶどう膜、網膜、水晶体、硝子体、前房、後房 2. 視神経・視路 3. 眼球付属器 4. 視機能に関連した症状:視力障碍、視野異常、色覚異常 視機能に関連しない症状:充血、流涙、眼脂、羞明、異物感、掻痒感、眼痛 5. 機能の障害 屈折の異常、調節の異常、色覚の異常、弱視	講義
第2回	・検査と主な治療処置	1. 診察と検査 視力検査、眼圧測定、瞳孔検査、視野検査 2. 主な治療処置：点眼法、洗眼法、涙管ブジー、光凝固、屈折矯正、視能矯正、手術	講義
第3回	・疾患の理解と治療	1. 部位別の異常と治療 眼瞼の疾患、結膜の疾患、角膜の疾患 網膜・硝子体の疾患 硝子体手術と管理 白内障手術と管理 緑内障手術	講義

授業要項

		2. 全身疾患との関連	
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅴ30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 25 点配点。機能病態学Ⅴ（感覚器：耳鼻咽喉の機能）25 点、（歯・口腔の機能）25 点、（女性・生殖器の機能）25 点と合計して 100 点満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術、老年看護学援助論、成人看護学援助論	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑬眼	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	眼科医　今村総合病院眼科統括部長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅴ (感覚器：耳鼻咽喉機能)	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間(内8時間)	講師名	吉家 清貴
科目概要		機能病態学Ⅴは、感覚器（眼・耳)、歯・口腔、女性生殖器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、感覚器（眼・耳）機能、歯科・口腔機能、女性生殖機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(感覚器：耳鼻咽喉)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(感覚器：耳鼻咽喉)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（耳鼻咽喉機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 感覚器：耳鼻咽喉の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・感覚器：耳鼻咽喉の機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(女性・生殖器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(女性・生殖器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（女性・生殖器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 女性・生殖器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・女性・生殖器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	耳鼻咽頭疾患の病態と診断・検査・治療 ・耳鼻咽頭・頸部の構造と機能	1. 耳の構造と機能、聴覚、平衡覚 2. 鼻の構造と機能 3. 口腔と唾液腺の構造と機能 4. 咽頭の構造と機能 5. 喉頭の構造と機能	講義
第2回	・症状と病態生理 ・主な検査	1. 耳にあらわれる症状と病態生理：平衡感覚障害 伝音性難聴と感音性難聴 2. 鼻にあらわれる症状と病態生理 3. 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理 喉頭にあらわれる症状と病態生理 4. 診察と診断の流れ 5. 主な検査：聴力検査	講義
第3回 第4回	・疾患の理解と治療	1. 耳疾患：中耳炎、メニエール病他 鼻疾患：鼻腔疾患、副鼻腔疾患、流行性耳下腺炎 2. 口腔・咽喉頭疾患：口内炎、舌癌 咽頭炎、扁桃腺炎、咽頭がん 4. 気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害 5. 手術療法:副鼻腔手術、鼓室形成術	講義
	終講試験		筆記試験

授業要項

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅴ30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 25 点配点。機能病態学Ⅴ（感覚器：眼機能）25 点、（歯・口腔機能）25 点、（女性・生殖器機能）25 点と合計して 100 点満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、 基礎看護技術、成人看護学援助論、老年看護援助論	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑭耳鼻咽喉、医学書院	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	医師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅴ （歯・口腔機能）	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間(内8時間)	講師名	坂元 亮一
科目概要		機能病態学Ⅴは、感覚器（眼・耳）、歯・口腔、女性生殖器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、感覚器（眼・耳）機能、歯科・口腔機能、女性生殖機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(歯・口腔)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(歯・口腔)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（歯・口腔機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 歯・口腔機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・歯・口腔機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(女性・生殖器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(女性・生殖器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（女性・生殖器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 女性・生殖器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・女性・生殖器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	歯・口腔外科疾患の病態と診断・検査・治療 ・歯・口腔の構造と機能	1. 歯科・口腔の看護を学ぶにあたって 2. 歯科・口腔器官 歯及び歯周組織 口唇及び頬部 口蓋、舌 額および額関節	講義
第2回	・症状と病態生理 ・検査と治療・処置	1. 主な症状と病態生理 腫脹、口腔出血 歯の欠損、 口臭、口臭症 2. 額口腔機能障害診察と診断の流れ 検査：口腔内検査、画像検査 歯科・口腔外科的検査	講義
第3回 第4回	・疾患の理解 ・口腔ケアの基本	1. 歯の異常と疾患:齲歯、齲歯の治療 2. 歯周組織の疾患：歯周病、治療 3. 口腔粘膜の疾患 4. 口腔領域の悪性疾患 5. 歯と顎骨の外傷 6. 口腔領域の先天異常及び発育異常 7. 小児の治療、高齢者の治療	講義

授業要項

		8. 口腔ケアの方法	演習
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅴ30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 25 点配点。機能病態学Ⅴ（感覚器：眼機能）25 点（感覚器：耳鼻咽喉機能）25 点、（女性・生殖器機能）25 点と合計して 100 点満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅴの単位を取得できる	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅱ、	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑮歯・口腔	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	歯科医師　今村総合病院歯科口腔外科部長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅴ (女性・生殖器機能)	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間(内8時間)	講師名	比良 高明
科目概要		機能病態学Ⅴは、感覚器（眼・耳)、歯・口腔、女性生殖器の構造と機能を病態学につなげて学習する。 人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、これらの知識をもとに、感覚器（眼・耳）機能、歯科・口腔機能、女性生殖機能障害に伴う疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の各器官・系統(感覚器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(感覚器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（感覚器機能）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 2. 感覚器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理､治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・感覚器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。 3. 人体の各器官・系統(女性・生殖器)の構造と生理機能について習得する。 ・人体の構造(女性・生殖器)について説明できる。 ・人体の各器官・系統（女性・生殖器）の生理機能について説明できる。 ・生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて述べることができる。 4. 女性・生殖器機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、治療の関連について学び、これらの治療に伴う看護を繋げ説明できる。 ・女性・生殖器機能障害時の病態生理を述べることができる。 ・代表疾患の治療を理解し、看護の視点を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	女性生殖器の構造と機能	1. 女性生殖器の構造 2. 女性生殖器の機能 性周期と性ホルモン、月経周期とホルモン動態 妊娠の成立、妊娠の診断	講義
第2回	症状と病態生理 診察と主な検査・処置	1. 主な症状と病態生理 出血、帯下 疼痛、発熱 外陰部掻痒感、排尿障害 2. 診察と主な検査、処置 自律神経症状、リンパ浮腫理学的検査 病理検査 画像検査 内視鏡検査 治療・処置 膣洗浄、ダグラス窩穿刺	講義
第3回	女性生殖器系疾患の病態と診断・検査・治療 ・臓器別疾患	1. 外陰の疾患 2. 膣の疾患 3. 子宮の疾患と手術 複式単純子宮全摘出術、子宮全摘出術 4. 卵管の疾患	講義

授業要項

第 4 回	・機能的疾患 ・性感染症	1. 月経異常とホルモン療法 2. 避妊 3. 更年期障害 4. 不妊症 5. 性感染症 性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペス、コンジローマ、膣トリコモナス症、カンジダ	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅴ30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 25 点配点。機能病態学Ⅴ（感覚器：眼機能）25 点、（感覚器：耳鼻咽喉機能）25 点、（歯・口腔機能）25 点と合計して 100 点満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、基礎看護技術Ⅲ、母性看護学援助論、成人看護学援助論	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑨女性生殖器	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、人体の正常な各機能の構造と機能を学び、それらの機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療について代表疾患を通して学んでいきます。 また、各機能別の視点を基礎看護学の看護技術や成人看護学援助論へと連動させて学びます。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	産婦人科医	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅵ （小児特有の疾患）	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間(内16時間)	講師名	溝田 美智代
科目概要		機能病態学Ⅵは、これまでの学習を基盤にして、健康問題を抱えている小児特有の疾患と治療、精神領域の疾患と治療について学び小児看護学援助論、精神看護学援助論に活かす。 小児特有の様々な病態を系統立てて学び、小児と家族の生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、精神科領域の様々な病態を系統立てて学び、精神科療養に必要な対象の生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 小児に特徴的な健康障害の疾患と治療について述べることができる。 2. 小児に特徴的な疾患と治療を学び、必要な看護について視点をまとめることができる。 3. 精神領域の疾患と治療について述べることができる。 4. 精神領域の疾患と治療について学び、必要な看護について視点をまとめることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	染色体異常・遺伝病 新生児・低出生体重児の疾患	1. 先天異常 2. 乳幼児突然死症候群	講義
第2回	消化器疾患 腎泌尿器科疾患	1. 腸重積症 2. ネフローゼ	講義
第3回	代謝・内分泌・	1. 新生児マススクリーニング 2. 糖尿病	講義
第4回	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ疾患・膠原病	1. アトピー性皮膚炎 2. 気管支喘息	講義
第5回	循環器疾患 血液疾患・悪性新生物	1. ファロー四徴症 2. 急性リンパ球性白血病	講義
第6回	神経・筋疾患・精神科領域	1. 熱性痙攣・てんかん	講義
第7回	感染症 呼吸器疾患	♦小児感染症・学校感染症	講義
第8回	運動器・皮膚・眼・耳鼻科疾患 終講試験　まとめ	先天性股関節脱臼	筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅵ30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験50点配点。機能病態学Ⅵ（精神科領域の疾患）と合計し100点満点。合計60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅵの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：機能生理学、病理総論、看護薬理学、臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1年次
	専門分野Ⅰ：　小児看護学概論、小児看護学援助論、	1年次～ 2年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　小児看護学②　小児臨床看護各論
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、小児看護の基本となる疾患の理解と施設や在宅、外来における看護をイメージできることで、小児看護学実習につなげることを目指しています。疾病回復を支えるには、どのような看護援助が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。
実務経験の内容	小児科医師　今村総合病院小児科主任部長

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	機能病態学Ⅵ (精神科領域の疾患)	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間(内14時間)	講師名	福田 恭哉 他
科目概要		機能病態学Ⅵは、これまでの学習を基盤にして、健康問題を抱えている小児特有の疾患と治療、精神領域の疾患と治療について学び小児看護学援助論、精神看護学援助論に活かす。 小児特有の様々な病態を系統立てて学び、小児と家族の生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。 さらに、精神科領域の様々な病態を系統立てて学び、精神科療養に必要な対象の生活を支える看護援助を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 小児に特徴的な健康障害の疾患と治療について述べることができる。 2. 小児に特徴的な疾患と治療を学び、必要な看護について視点をまとめることができる。 3. 精神科領域の疾患と治療について述べることができる。 4. 精神科領域の疾患と治療について学び、必要な看護について視点をまとめることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	精神症状	1. 精神症状についての理解	講義
第2回	神経発達障害	1. 知的能力障害の症状・治療・検査 2. 自閉スペクトラム障害の症状・治療・検査 注意欠如・多動性障害の症状・治療・検査	講義
第3回	気分障害(単極性・双極性) 不安障害	1. 気分障害の症状、治療、検査 不安症状、不安症状の治療 2. 強迫性障害による症状、治療	講義
第4回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 統合失調症 統合失調症感情障害 妄想性障害 てんかん	1. 摂食障害による症状、治療 2. 睡眠障害による症状、治療 3. パーソナリティ障害による症状、治療 1. 統合失調症・統合失調症感情障害・妄想性障害の症状、治療、検査 2. てんかんの症状、治療、検査	講義
第5回	神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害	1. 急性ストレス障害（ＡＳＤ)の症状、治療 2. 心的外傷後ストレス障害（ＰＴＳＤ）の症状、治療 3. 適応障害の症状、治療 4. 解離性障害の症状、治療 身体表現性障害の症状、治療	講義
第6回	精神作用物質使用による精神・行動の障害	1. アルコール症の症状・治療・検査 2. アヘン類、大麻類、睡眠薬・抗不安薬・鎮痛薬などの乱用、大麻使用による精神症状・治療・検査	講義
第7回	器質性精神障害	1. アルツハイマー型認知症の症状・治療・検査 2. レビー小体型認知症の症状・治療・検査 3. 前頭側頭型認知症の症状・治療・検査 4. 脳血管性認知症の症状・治療・検査	講義
	終講試験		筆記試験

授業要項

単位認定の方法	1. 機能病態学Ⅵ30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点満点、機能病態学Ⅵ（小児特有の疾患）50 点と合計し 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは機能病態学Ⅵの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学、機能病態学Ⅲ（脳神経）、病理総論、看護薬理学	1 年次
	専門分野Ⅰ：　基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」、精神看護学概論、精神看護学援助論	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　精神看護学①　精神看護の基礎	
受講上のアドバイス	機能病態学はⅠ～Ⅵで構成しており、1 年次～2 年次にかけて学習します。この科目は、精神症状、精神疾患、精神障害による講義を 7 回にわたって学習します。精神に障害を抱えている対象に看護を行なうには、上記の内容を理解することが重要になります。本科目で学ぶ内容は今後、精神看護学援助論を学んでいく内容と関連が深いため、理解を深めながら授業に参加しましょう。 ある疾病をもった対象の看護を適切に行うには。看護援助の知識に加えその対象の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。本授業で学ぶ学習を実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげましょう。	
実務経験の内容	精神科医師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	病態総論	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間	講師名	坂江 清弘
科目概要		機能的に人体を捉え、その機能の不調がなぜ起こり、どのように現れるのかを学習する。臨床場面での対象の病態を理解するための基礎とする。 生体で起こる種々の病気について、その原因、成り立ち、経過および転帰などその本質を理解する。それとともに、そこに提示される病理的な医学用語の正しい意味と使い方を学び取る。また、循環障害・炎症・腫瘍など解剖・病理見学等の演習を取り入れて学習する。			
科目目標		1. 人体の正常な機能が異常をきたし、調整機能が破綻して起きる身体機能の状態を述べることができる。 1）細胞の障害について述べることができる。 2）生体の障害について述べることができる。 2. 代表的な疾患の病理学的状態について述べることができる。 3. 病理見学の演習を通して、学びをまとめることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	病理学総論 ・看護において病理学を学ぶ意義 ・細胞の障害	1. 病気とは 2. 病理学とは 3. 医療における病理学の役割 4. 看護において病理学を学ぶ意義 5. 病気の原因：内因、外因、公害病 6. 病気の分類と病理学の学び方 7. 萎縮、変性、肥大 8. 壊死（ネクローシス）とアポトーシス	講義
第2回	・生体の障害 循環障害、臓器不全	1. 虚血 2. 充血 3. うっ血、側副循環 4. 出血、 5. 血栓症、塞栓症、梗塞 6. ショック 7. 浮腫	講義
第3回	・生体の障害 炎症、免疫	1. 炎症とは、炎症の各型、創傷と治癒 2. 免疫と免疫不全 3. 免疫に関与する細胞 4. 液性免疫と細胞性免疫 5. 免疫不全症	講義
第4回	・生体の障害 アレルギーと自己免疫疾患	1. アレルギー Ⅰ型（即時型）、Ⅱ型（細胞障害型）、 Ⅲ型（免疫複合型）Ⅳ型（遅延型） 2. 自己免疫疾患	講義
第5回	・生体の障害 移植と再生医療	1. 移植と再生医療 2. 移植と拒絶反応 臓器移植	講義
第6回	・生体の障害 代謝異常	1. 脂質代謝障害 肥満、動脈硬化、脂肪肝、脂質異常症 2. タンパク質代謝障害	講義

授業要項

		高アンモニア血症、アミロイドーシス 〇糖代謝異常病態は機能病態学Ⅱで詳しく学ぶため省く 3. その他の代謝異常 痛風、黄疸、結石	
第 7 回	・生体の障害 老化と死	1. 個体の老化と老年症候群 2. 加齢に伴う諸臓器の変化 3. 個体の死と終末期医療 死の三徴候、死体の検案と解剖 4. 脳死と植物状態 脳死とその判定基準、遷延性意識障害（植物状態） 5. 尊厳死と緩和医療 尊厳死と安楽死	講義
第 8 回	・生体の障害 先天異常、遺伝子異常	1. 遺伝の生物学 2. 染色体異常による疾患 常染色体異常症、性染色体異常症 〇先天性疾患、胎児の異常については、機能病態学Ⅵで学ぶ	講義
第 9 回	・生体の異常 腫瘍	1. 腫瘍とは何か 2. 腫瘍の分類 3. 悪性腫瘍の広がりと影響 腫瘍の増殖、腫瘍の浸潤、腫瘍の広がり（リンパ行性転移、血行性転移、播種） がんの進行度（全身的にみた進行度、TNM 分類） 4. 腫瘍発生の病理 5. 腫瘍の発生因子	講義
第 10 回 ～ 第 12 回	病理学各論 代表的な疾患の病理学的状態	1. 循環器系の疾患 2. 血液・造血器系の疾患 3. 呼吸器系の疾患 4. 消化器系の疾患 5. 腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患 6. 内分泌系の疾患 7. 脳・神経・筋肉系の疾患 8. 骨・関節系の疾患 9. 眼・耳・皮膚の疾患 （各機能病態学へつなぐ）	講義
第 13 回 第 14 回	病理診断の実際 （解剖臓器見学）	1. 病理診断の意義 2. 細胞診断 3. 生検診断 4. 術中迅速診断 5. 病理解剖 6. 病理診断と看護の接点 7. 解剖臓器見学後の学び	見学演習
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義
単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点。60 点以上を合格とする。		

授業要項

	3. 上記の条件を満たしたものは病態総論の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：生命のしくみ	1年次前期
	専門分野基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅰ～Ⅵ 臨床判断Ⅰ、看護薬理学、感染症と微生物学	1年次～ 2年次
	専門分野：各看護学、実習	2年次～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　病理学、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業、病態総論は、基礎医学を構成する学問の一つであり、文字の通り人間の“病気の理（ことわり）”を考える学問です。つまり、病気の原因、病気の発症、進展の過程患者に対する影響などを学んでいきます。将来、看護師として働いていくためには、多くの病気について知識を身につける必要があります。 病態総論を勉強していく中で、様々な病理学の専用用語が出てきます。それらを丸暗記ではなく、一つひとつ理解して覚えていくことが大切です。そして関連してくる機能病態学や看護学にしっかりつなげられるように学習しましょう。	
実務経験の内容	医師　前今村総合病院臨床検査部部長、前病理診断部医師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	看護薬理学	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	南 英樹 他
科目概要		医療安全の立場からも、臨床での薬剤に関する知識の修得は看護師にとって重要である。薬剤の人体への影響を学び、薬物療法における対象の安全を確保し、責任を持って看護援助を行うための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 薬力学、薬物動態、薬理作用、薬効の個人差、薬理作用の有益性と危険性、薬と法律について述べることができる。 2. 主な治療薬の作用、機序、適応、有害事象を理解し、看護における観察や使用上の留意点を述べることができる。 3. 薬物管理の基本知識と注意事項、薬剤の職業性被ばくについて説明できる。 4. 演習を通して、患者に必要な薬剤の管理について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態他
第1回	薬理学の基礎知識	1. 薬理学とは 2. 薬物動態(第2章「薬物の投与経路」P25～ ①薬物の投与経路 ②薬物の吸収 ③薬物の代謝と排泄 3. 薬が作用する仕組み：薬力学（第2章P16～ 4. 薬理作用と副作用(有害事象)(第2章P50～	講義 （薬剤師）
第2回	抗感染症薬の作用のしくみと主な薬剤､副作用(有害事象)	1. 感染症治療に関する基礎事項(P66～ ①抗感染症薬の作用のしくみと有害事象をつなげる。 2. 感染症に用いられる主な抗菌薬・抗真菌薬 ①βラクタム系抗菌薬 ②アミノグリコシド系抗菌薬 ③テトラサイクリン系抗菌薬 ④マクロライド系抗菌薬 ⑤合成化学療法薬 3. 観察のポイント、指導のポイント	講義 （薬剤師）
第3回	抗がん薬の作用のしくみと主な薬剤、副作用（有害事象）	1. がん治療に関する基礎事項（P96～ ①抗がん作用のしくみ ②抗がん薬の有害作用 2. 抗がん薬の種類と有害作用 ①アルキル化薬 ②代謝拮抗薬 ③抗生物質 ④食物アルカロイド ⑤性ホルモンおよび性ホルモン拮抗薬　他 3. 観察のポイント、指導のポイント	講義 （薬剤師）
第4回	強心薬、抗不整脈薬の作用のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. 心不全治療薬に関する基礎事項（P201～ 2. 心不全治療薬の種類と作用 3. 心不全治療薬の有害事象と観察 4. 抗不整脈の種類と作用(P204～ 5. 抗不整脈薬の有害事象と観察	講義 （薬剤師）

授業要項

第5回	狭心症治療薬の作用のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象) 抗血栓薬の作用のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. 狭心症治療薬に関する基礎事項 (P197～ 2. 狭心症治療薬の分類、各治療薬の作用点 3. 狭心症治療薬の有害作用と観察 4. 抗血液凝固薬、血栓溶解薬および抗血小板薬(P217～、P219～の基礎事項 5. 血液凝固の仕組み、抗血液凝固薬の種類 6. 抗血液凝固薬の有害作用と観察	講義 (薬剤師)
第6回	降圧薬、昇圧薬作用のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象) 利尿薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. 降圧薬治療に関する基礎事項 (P190～ 2. 血圧低下に関する調節機構 3. 降圧薬の分類、代償反応と有害作用、観察 4. 利尿薬治療に関する基礎事項 5. 腎臓の利尿機能と利尿薬の作用点 (P209～ 6. 利尿薬の種類、有害作用と観察	講義 (薬剤師)
第7回	消化性潰瘍治療薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象) 下剤のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象) 消炎鎮痛薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. 消化性治療薬の作用点(P235～ 2. 消化性治療薬の種類と有害作用、観察 3. 下剤と止瀉薬の作用、有害作用 (P239～ 4. 炎症の発生機序の基づく抗炎症薬の作用点 (P126～ 5. 消炎鎮痛薬の種類と有害作用、観察 ①ステロイド性抗炎症薬 ②非ステロイド性抗炎症薬 6. 解熱、鎮痛薬	講義 (薬剤師)
第8回	抗アレルギー薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象) 副腎皮質ステロイド薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. アレルギー反応の理解 2. 主な抗アレルギー薬のしくみと作用、種類 3. 投与時の看護のポイント 4. 副腎皮質ステロイドの生理作用 5. 副腎皮質ステロイド薬の有害作用、観察 6. 投与時の看護のポイント	講義 (薬剤師)
第9回	糖尿病治療薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. 糖尿病治療薬の作用点(P251～ 2. 経口血糖降下薬の種類と有害作用、観察 ①インスリン分泌促進薬 ②インスリン抵抗性改善薬 ③糖吸収・排泄調整薬 3. インスリン製剤の種類、投与法 4. 投与時の看護のポイント	講義 (薬剤師)
第10回	中枢神経作用薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象) 麻薬のしくみと主な薬剤、副作用(有害事象)	1. 中枢神経系の組織機構 (P158～ 2. 中枢神経系に作用する薬、有害作用 ①全身麻酔薬 ②吸入麻酔、静脈麻酔 3. 抗不安薬 4. 麻薬性鎮痛薬の作用機序 5. モルヒネの効果発現のしくみ 6. 有害作用、中毒症状の観察、看護のポイント	講義 (薬剤師)
第11回	薬物療法における看護師の役割	1. 薬物療法における看護師の役割 (医療事故について調べ学習)	グループ学習 専任教員
第12回 第13回	薬物療法における看護の実際	1. 患者の薬物療法における看護 病態(機能が障害された状態)について理解し、	グループ学習

授業要項

		治療薬の種類と薬理作用、有害作用と観察、指導のポイントについて説明する。 (降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、糖尿病治療薬　等) ＊既習の機能病態学Ⅰ・Ⅱの範囲で学習	
第 14 回	薬物療法における看護の実際	発表、まとめ	グループ学習
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 80 点満点とし、演習 20 点(専任教員担当)と合計 100 点満点。合計 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護薬理学の単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：生命のしくみ	1 年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、病態総論、機能病態学Ⅰ～Ⅵ 感染症と微生物、看護栄養学	1 年次～ 2 年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅴ「与薬の技術」、保健指導技術 :成人看護学援助論、老年看護援助論、実習 ：看護の統合と実践「医療安全」等	1 年次後期～ 3 年次
	看護の統合と実践　医療安全「医療事故対策」「事故分析」等	3 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。 授業終了後は、テキストの各ゼミナールにて復習。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学、医学書院 参考文献　系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　医学書院
受講上のアドバイス	現代の医療には薬物療法が不可欠である。患者に接する時間が多い看護師は、薬物の作用や副作用、投与するときの注意点などの理解が必要であり、かつ医療事故防止にも努めなければならない。看護を行う上で、最低限知っておきたい薬物一般に共通する知識や薬物の使用目的や作用、有害作用・禁忌などを学習し、臨床の場で薬物療法がどのように実施されているのか、どのような問題があり、どんな点に気をつければよいのかを学ぶ講義である。看護薬理学を習得することは全ての専門科目の理解を助けることにつながる。専門科目全てにおいて、薬物の作用・副作用についての基礎知識は関連しており、薬物療法と薬物の作用・副作用を理解するためには機能生理学総論や各機能病態学などの基礎知識の理解と応用が必要である。受講にあたっては、講義前にこれらの基礎科目の復習と薬理学の教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習を行う必要がある。 また、本授業では重要医薬品に焦点を当て、体系づけて学習を進めていく。薬物の人体へのはたらきを理解し看護の視点で知識が取得できるよう事例や演習を通して学ぶ。
実務経験の内容	薬剤師　松本調剤薬局薬剤師 看護師　専任教員

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	微生物と感染症 （微生物）	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間（20時間）	講師名	吉家 清貴
科目概要		感染を引き起こす微生物とはどのようなものか、どのような病気を起こすのか、それに対してどのように対処すべきかについて学ぶ。具体的には、微生物という生命体を理解した上で、感染症の症状、治療について学ぶ。また、生体の重要な防御機構である免疫学、その応用、感染予防方法の原理を理解し、院内感染制御や感染症の対策や予防を、明確な根拠を持って実践できる基礎を身につける。			
科目目標		1. 感染症の原因となる微生物について説明できる。 2. 感染源・感染経路について説明できる。 3. 感染症の症状、経過、治療について説明ができる。 4. 感染症の対策、予防について説明できる。 5. 感染症に対する生体防御機能について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 第2回	微生物の概要 主な微生物の性質	1. 寄生虫 2. 原虫 3. 真菌 4. 細菌 5. ウイルス 6. プリオン	講義
第3回	感染症の経過	感染と感染症 1. 微生物感染の経過 2. 症状と治療	講義
第3回 第4回	感染に対する生体防御	自然免疫 皮膚、粘膜、抗菌物質、顆粒球、マクロファージ 獲得免疫 Tリンパ球、Bリンパ球	講義
第5回	感染症に関する法律	感染症予防法と微生物の分類 グループ学習テーマを提示	講義
第6回 第7回	滅菌と消毒 感染症対策	1. 滅菌・消毒の意義と定義 2. 滅菌法 3. 消毒と消毒薬 4. 標準予防策と個別の予防策	講義
第8回	感染症の検査	微生物の検出、培養 免疫学的検査、遺伝子検出	講義
第9回	グループ学習発表	発表と解説	グループ学習
第10回	国家試験問題供覧	感染症、滅菌、予防に関する問題提示	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 微生物と感染症30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験配点70点。微生物と感染症(感染症)30点と合計し100点満点。合計60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは微生物と感染症の単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	基礎分野：生命のしくみ	1年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、病態総論、機能病態学Ⅰ～Ⅵ 看護薬理学、看護栄養学	1年次～ 2年次
	専門分野：基礎看護学「看護共通基本技術」「看護技術Ⅴ:与薬」	1年次前期～ 2年次前期
	専門分野：成人看護学援助論Ⅳ（身体防御機能障害にある患者の看護）	2年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。 講義前に復習の時間を設け、ミニテストを実施する。	
使用テキスト 参考文献等	「病気がみえる　６　免疫・膠原病・感染症」医療情報科学研究所　編　メディックメディア 系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、地球環境を保つ微生物や有用微生物、病原微生物など生まれた時から付き合う微生物を知り、病原微生物が私達にどのような病気をおこすのか、それに対してどのように対処すべきか、感染症の仕組みと予防、治療について学びます。微生物学の知識は、看護を行う上で有用です。看護に活かせられるようしっかり学習しましょう。	
実務経験の内容	医師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	微生物と感染症 （感染症）	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間（10時間）	講師名	有馬 丈洋 他
科目概要		感染を引き起こす微生物とはどのようなものか、どのような病気を起こすのか、それに対してどのように対処すべきかについて学ぶ。具体的には、微生物という生命体を理解した上で、感染症の症状、治療について学ぶ。また、生体の重要な防御機構である免疫学、その応用、感染予防方法の原理を理解し、院内感染制御や感染症の対策や予防を、明確な根拠を持って実践できる基礎を身につける。			
科目目標		1. 感染症の原因となる微生物について説明できる。 2. 感染源・感染経路について説明できる。 3. 感染症の症状、経過、治療について説明ができる。 4. 感染症の対策、予防について説明できる。 5. 感染症に対する生体防御機能について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	感染症の検査と診断	1. 感染症診断の原則　P252～ 2. 検査・診断・治療の流れ 3. 治療：感染症治療の原則 ・抗菌薬 ・抗真菌薬 ・抗ウイルス薬	講義
第2回	感染症の病態生理と症状	1. さまざまなレベルにおける感染症 2. 敗血症と敗血症ショック 3. 感染症で見られる症状（気道の症状、胸痛、腹痛、感染性心内膜炎、皮疹、筋・骨症状、発熱、不明熱	講義
第3回 第4回	主な感染症の病態、診断、治療	1. HIV感染症と日和見感染症 2. 多剤耐性菌感染症 3. 結核 4. MRSA 5. インフルエンザ 6. 食中毒（腸管出血性大腸菌感染症、ノロウイルス感染症）	講義
第5回	感染症患者の看護	1.　アウトブレークへの対応 2.　サーベランス 3.　感染管理の実際	講義 （感染管理認定看護師）
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 微生物と感染症30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験配点30点。微生物と感染症（微生物）70点と合計して100点満点。合計60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは微生物と感染症の単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：生命のしくみ	1年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、病態総論、機能病態学Ⅰ～Ⅵ 看護薬理学、看護栄養学	1年次～ 2年次
	専門分野：基礎看護学「看護共通基本技術」「看護技術Ⅴ:与薬」	1年次～

授業要項

		2 年次
	専門分野 : 成人看護学援助論Ⅳ（身体防御機能障害にある患者の看護）	2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症、医学書院.	
受講上のアドバイス	この授業は、地球環境を保つ微生物や有用微生物、病原微生物など生まれた時から付き合う微生物を知り、病原微生物が私達にどのような病気をおこすのか、それに対してどのように対処すべきか、感染症の仕組みと予防、治療について学びます。微生物学の知識は、看護を行う上で有用です。看護に活かせられるようしっかり学習しましょう。 この授業は、微生物と感染症を学んだ上で、引き続き受講していきます。	
実務経験の内容	医師　今村総合病院感染症医長　、今村総合病院看護部長　感染管理認定看護師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	臨床判断Ⅱ	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	20時間	講師名	飯田 かずよ
科目概要		専門基礎分野で学ぶ機能病態学、病態総論、看護薬理学、看護栄養学を統合し、代表的な機能障害について、機能から検査・治療までを関連付けて理解し、必要な看護を導く基盤をつくる。学習者の主体的な学びを支援し、臨床判断能力の基盤を養う。			
科目目標		1. 人の生活行動に関心をもち、各機能障害を説明できる。 2. 各疾患への気づきを高め、各機能の障害された状態と身体に現れる症状、検査、必要な治療を関連づけて説明できる。 3. 各疾患の機能維持、回復に向けた看護援助を考察できる。 4. 演習を通して協働学習の意義を深め、今後の看護援助に活かすことができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	学習導入	・看護における臨床推論 ・臨床判断のための推論思考	講義
第2回	演習の進め方	・演習オリエンテーション（グループ編成まで） ・事前学習の提示 （各自で解剖生理・病態・診断・検査・治療について）	講義
第3回	事例を通して、事前学習を活かして各疾患への気づきを明確にし障害された状態と症状、検査、治療を関連づける	1. 呼吸機能に関連する疾患 ①慢性閉塞性肺疾患	PBL
第4回		②肺がん	
第5回		2. 循環機能に関連する疾患 ①虚血性心疾患（心筋梗塞）	
第6回		②心不全	
第7回		3. 栄養・代謝機能障害に関連する疾患 ①胃がん	
第8回		②糖尿病	
第9回		4. 脳神経に関連する疾患 脳梗塞	
第10回		5. 運動機能に関連する疾患 大腿頸部骨折	

単位認定の方法	1. 20時間中14時間以上の出席があること。 2. 演習への取組みと学習内容を重視し評価する。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは臨床判断Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：生命のしくみ	1年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅰ～Ⅵ、病態総論、看護栄養学、看護薬理学、	1年次～2年次
	専門分野：フィジカルアセスメントⅡ、成人看護学援助論に繋ぐ	2年次

授業要項

	各科目臨地実習	2 年次～
事前・事後学習	演習課題に必要な知識の整理を行ない、活用できるようにすること。 また、演習で学習した成果物は、クラスで共有し、今後の学習や実習に活用できるようにすること。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、健康障害のある患者の看護について、科学的根拠をもって実践できるようになるための重要な科目です。1 年次に学習した基礎科目や専門基礎分野（特に機能病態学Ⅰ～Ⅳ）、看護薬理学、看護栄養学、病態総論の学習を結集し、2 年次の 4 月最初に取り組みます。みなさんの主体的・能動的学習によって、学びが深まり、知識の定着を目指します。 そして、この学びはその先に学ぶ成人看護学援助論へと繋いでいきます。実習でのアセスメントに必要となる基礎知識となるよう積極的に学びましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	社会福祉Ⅰ	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	15時間	講師名	久留須 直也
科目概要		「社会福祉とは何か」という点を含め、現代社会における社会福祉の動向や理念をマクロ的視点から整理する。その後、医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助・障害者福祉・児童家庭福祉などのミクロ的視点で社会福祉の法制度や課題についても整理していく。			
科目目標		1. 社会保障・社会福祉が私達の身近な生活の中に深く関わり、生活を支えているものであるということを理解する 2. 社会保障・社会福祉の基本的知識・理解を深める 3. 社会保障・社会福祉の法律や制度の仕組みについて理解する 4. 看護と社会福祉の関係性を理解する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	1. 現代社会の変化 2. 社会保障・社会福祉の動向	講　義
第2回	医療保障（医療保険）	1. 医療保障制度の構造と体系 2. 健康保険と国民健康保険 3. 高齢者医療制度 4. 保険診療のしくみ（出来高払い・DPC） 5. 公費負担医療 6. 国民医療費	講　義
第3回	介護保障（介護保険）①	1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2. 介護保険制度の概要 ・介護保険制度利用のプロセス	講　義
第4回	介護保障（介護保険）②	1. 介護保険制度の概要 ・介護保険制度のサービス ・地域包括ケアシステム ・地域包括支援センター	講　義
第5回	所得保障（年金保険制度・社会手当･労働保険･労災）	1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度	講　義
第6回	公的扶助（生活保護制度）	1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2. 生活保護制度のしくみ	講　義
第7回	障害者福祉	1. 障害者の定義 2. 障害者総合支援法	講　義
第8回	児童家庭福祉	1. 児童の定義 2. 保育施策	講　義
第9回 60分	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 授業時間の3分の2以上（10時間以上）出席していない者は定期試験の受験資格は認めない。 2. 定期試験80%、学習態度及び授業への意欲20%の結果を含めて評価し、60点以上を合格とする。（本評価基準は本試験・再試験・追試験時に適用する。） 3. 上記の条件を満たしたものは社会福祉Ⅰの単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1 年次
	専門基礎分野：公衆衛生学、総合保健医療倫Ⅰ	2 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅱ、関係法規、総合保健医療論Ⅱ	3 年次
	各看護学概論および地域・在宅看護論に活用	1 年次～ 2 年次
事前・事後学習	1.授業計画を参考に、予定される講義内容について、テキスト及び資料集の該当部分を事前に読み込み、予習をしておくこと。 2.上記 1 において、わからない用語などがあれば、事前に調べておくこと。 3.講義終了後は、テキスト及び資料集の内容と講義内容を照らし合わせ、講義内容を振り返り、理解を深めること。 4.上記の予習・復習は各 2 時間程度なされるように努めること。	
使用テキスト 参考文献等	福田 素生 他著（2025)『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉』(第 25 版) 医学書院 第 1 回目の講義時に講義資料集を配布するので、毎回持参すること。	
受講上のアドバイス	質問や意見がある場合は、講義終了後や毎回実施するコメントシートを活用すること。 学生の中には、看護師養成課程において「なぜ社会福祉を学ぶ必要があるのか」と疑問に思う学生もいると思われる。しかし、看護師は疾病だけをみるのではなく、1 人の人間をみる必要がある。1 人の人間にはそれぞれの生活があり、疾病が原因ではない様々な困難に直面している者もいる。それらの困難を解決するためには、自身の力で解決につなげることができる者もいるが、自身の力だけではどうすることもできない者もいる。そのような場合に活用される可能性が高いのが「社会福祉」である。 本講義を受講することで、看護師養成教育でなぜ社会福祉を学ぶ必要があるのかを理解してもらいたい。	
実務経験の内容	医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として医療機関（急性期）での勤務経験がある。	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	社会福祉Ⅱ	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	15時間	講師名	浜辺 恵里香
科目概要		社会保障・社会福祉制度の意義や社会資源の活用方法を理解した上で、地域包括ケアシステムの理解を深める。また、事例を通して入退院支援の実際を学び、地域での暮らしを支える支援について理解する。			
科目目標		1. 地域包括ケアシステムを理解し。社会生活のなかで社会保障・社会福祉や社会資源がどのように活用されているか説明できる。 2. 入退院支援の方法について学び、事例学習を通して、住み慣れた地域へ戻ることの支援について考察できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	鹿児島県における地域包括ケアシステム構築について	1. 鹿児島の高齢化の現状・特徴 2. 鹿児島県の介護保険事業状況 3. 地域包括ケアシステムとは 4. 地域支援事業 5. 地域包括ケアシステム構築の推進するために 『看護職への期待』 “療養の場を「医療機関から暮らしの場へ」移行”	講義
第2回	対人援助技術 面接技法演習	1. 対人援助技術 ①対人支援において必要な支援者のスキル ②対人援助職におけるバイステックの7原則 2. 面接技術 ①患者の物語を知る。 ②ニーズを知る。	講義 演習
第3回	入退院支援の実際 「緊急重篤な状態から回復することの支援」 「住み慣れた地域へ戻ることの支援」	1. 入院支援の実際 2. 安心・安全な医療・看護につなぐために 3. 必要な連携 4. 暮らしにつなぐための退院支援の実際 5. 退院支援が必要とされる背景 6. 退院支援が必要な患者 7. 退院支援が必要な患者 8. 退院困難な要因 9. 退院支援のポイント ＊演習課題の提示	講義
第4回 ～ 第7回	入退院支援の実際 「緊急重篤な状態から回復することの支援」 「住み慣れた地域へ戻ることの支援」	1. 事例の患者に必要な退院支援を考える 2. 協働学習 3. 発表とまとめ	グループ学習
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験50点、演習取組50点の100点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは社会福祉Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1年次後期

授業要項

	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ	1年次後期
	専門基礎分野：公衆衛生学、総合保健医療論Ⅰ	2年次前期
	専門基礎分野：綜合保健医療論Ⅱ	3年次
	専門分野：地域・在宅看護論及び各看護学援助論、実習 臨地実習：看護の統合と実践Ⅰ（チーム医療）実習	1年次 ～3年次
事前・事後学習	社会福祉Ⅰ、総合保健医療論Ⅰの学習内容を整理して臨むこと。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉、医学書院	
受講上のアドバイス	地域包括ケアシステムの構築が進み、療養の場が医療機関から自宅・グループホーム・介護施設など暮らしの場に移行していくとき、患者と家族が安心して、また前向きな気持ちを持って、暮らしの場に戻っていけることが大事になります。そのためには、看護職は可能な限り自立して日常生活を送れるようにすること、また、早期に退院できるように支援することが役目となります。入退院支援の重要性に気づき、社会資源を有効活用して支援できる方法について具体的に考えていきましょう。 また、この授業の学びは、各看護学実習へと繋ぎます。そして、3年次の看護の統合と実践Ⅰ（チーム医療）実習の場での入退院支援の実際で統合していきます。	
実務経験の内容	看護師、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）、訪問看護師資格 今村総合病院副看護師長　地域連携室で入退院支援の実務に従事している。	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	関係法規	単位数	1単位
時期	3年次前～後期	時間数	15時間	講師名	二石 祐太
科目概要		各法令の看護との関係や看護職の職務に必要な法令について学び、看護職としての義務と責任を果たすことのできる能力を養う。			
科目目標		1. 看護師の業務範囲と専門職の責任について法の観点から述べることができる。 2. 各法令の意味を看護との関連で説明できる。 3. 各科目で学んできた法規について統合することができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	（導入） 看護師と働く上で知っておくべき基本的な法律 法の概念	1. 法の概念 2. 保健師助産師看護師法（前半） ・目的、定義、業務、研修、医療過誤	講義
第2回	看護法 医事法	1. 保健師助産師看護師法（後半） ・目的、定義、業務、 2. 看護師の人材確保に関する法律 3. 医師法	講義
第3回	医事法	1. 医療法 2. 医療を支える法　P107	講義
第4回	労働関係法規	1. 労働基準法 2. 労働安全衛生法 3. 労働者災害補償保険法 4. 雇用保険法 5. 育児休業、介護休業等の法 6. 適正な労働の確保に関する法	講義
第5回	薬事関連法規 保健衛生法規	1. 医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律 2. 麻薬・毒物などの法 3. 共通保健法 4. 感染症に関する法 5. 環境衛生法規	講義
第6回	社会保険法 福祉法	1. 医療・介護の費用保障 健康保険法、国民健康保険法等 2. 年金法 3. 社会福祉法 4. 生活保護法	講義
第7回	 重要な看護関係法令 まとめ	1. 児童福祉法他 2. 老人福祉法 3. 障害者基本法	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点満点。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは関係法規の単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1 年次
	専門基礎分野：臨床薬理学、微生物と感染症、公衆衛生学、社会福祉Ⅰ、総合保健医療論Ⅰ	1 年次～2 年次
	専門分野：各看護学概論、看護の統合と実践「医療安全」「看護管理」	1 年次～3 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令、医学書院	
受講上のアドバイス	看護に携わる者は、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令の理解が必要である。この授業では、看護の仕事が、実は様々な法律によって規定されていることを学ぶ。また、保健医療に関する法規や制度の理解を通して、看護師の責任と義務について学ぶ。授業回数が少なく、法令はたくさんあるため 1 回の授業の情報量は多くなる。よって理解を深めるためには、予習と復習をしっかり行って欲しい。ニュースを見る、新聞を読む習慣をつけ、医療と法律に関連する情報にも関心を持って欲しい。	
実務経験の内容	弁護士　福元法律事務所弁護士	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力		連携・協働する力
	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門基礎分野		科目	公衆衛生学	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間	講師名	吉住 嘉代子
科目概要		保健活動の動向及び組織的保健活動を知り、人々の健康を支援する意義と方法を理解する。また、公衆衛生の活動対象や対策、法規を学び、人々の暮らしを支える健康づくりと疾病予防に貢献できる力を養う。			
科目目標		1. 人々の健康を保持・増進させるための保健・医療・福祉の現状について説明できる。 2. 保健活動の動向及び組織的保健活動について説明できる。 3. 生活習慣に関連した疾病の種類、病態の予防について説明できる。 4. ライフステージに応じた健康管理と環境・生活習慣改善における患者支援や保健指導を述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	公衆衛生の重要性	1. 公衆衛生のテキストから、その重要性に気づく。 2. 「１・２・３次予防」の理解	講話
第2回	公衆衛生の特性	1. みんなの健康 2. 公衆衛生とはなにか 3. 日本国憲法のなかの公衆衛生 4. 日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権 5. プライマリヘルスケア（PHC） 6. ヘルスプロモーション ①オタワ憲章―健康は手段か	講義
第3回	公衆衛生の活動対象 公衆衛生のしくみ	1. 自分の生活と健康に関係する社会集団 2. 看護職の公的責任と活動対象 ①看護職は「みんな」の権利をまもる専門職 ②万国共通の看護職の公的責任 3. 社会集団をとらえる視座 ①ハイリスクとポピュレーションの複眼 4. 地域保健法と政策・施策・事業 5. 医療計画、健康日本21 6. 国と地方自治体の役割 ①国レベル　②地方自治体レベル ③保健所と保健センター 7. 住民との協働 ①住民組織・自助グループ・サポートグループ ②NPO・民間セクター ③民生委員・母子保健推進員・健康推進員	講義
第4回	集団の健康をとらえるための手法	1. 疾患の発生状況を把握する ①有病率　②罹患率　③受領率 ④健康障害と母集団 2. 健康状態や医療水準を把握する ①平均余命、平均寿命、健康寿命 ②死亡率　　③死因 3. 健康指標の基礎資料	講義
第5回	環境と保健	1. 地球規模の環境と健康 ①地球温暖化　②オゾン層の破壊	講義

授業要項

		③水質汚濁　④大気汚染　⑤土壌汚染 2. 身のまわりの環境と健康 ①室内環境の安全確保　②食品の安全確保 ③家庭用品の安全確保　④ごみ・廃棄物問題	
第 6 回	感染症と予防対策 ＊微生物と感染症関連	1. 感染症の流行とわが国の感染症予防対策 ①検疫　③予防接種 2. 公衆衛生上の重要な感染症とその対策 ①新型インフルエンザ　②結核 ③エイズ、HIV 感染症　④食中毒	講義
第 7 回	母子保健 ＊母性看護学概論関連	1. 実際の市町村、保健所での活動について ①母体保護のための母子保健活動 ・妊娠届および母子健康手帳の交付 ・妊産婦保健指導・訪問指導 ②育児支援のための母子保健活動 ・乳幼児保健指導・訪問指導 ・乳幼児健康診査・育児支援 ③児童虐待防止のための母子保健活動	講義
第 8 回	成人保健 ＊成人看護学概論関連	1. 成人保健の活動理念 ①疾病予防　②ヘルスプロモーション 2. 健康づくり対策の変遷 ①健康日本 21（第二次） 3. 健康診断・検診 4. 生活習慣病対策 ①生活習慣病の現状と対策 ②特定健康診査・特定保健指導 5. がん対策 6. 健康教育 7. 家族のライフステージに応じた健康課題と健康づくり	講義
第 9 回	高齢者保健 ＊老年看護学概論関連	1.　高齢者保健の課題 ①小家族化･孤立化対策―単独世帯や夫婦のみの世帯の増加 ②介護予防　③認知症の人々の支援 ④介護者の健康、虐待予防 2.　地域コミュニティによる支えとは	講義
第 10 回	精神保健 ＊精神看護学概論関連	1. 精神保健の活動理念 2. 地域生活を支えるためのしくみ ①精神の健康に困難を有する人の相談機関 ②地域での生活を支える制度 3. 精神科医療の動向 4. 自殺予防対策 ①自殺の現状　②自殺の予防	講義
第 11 回	歯科保健 障害者保健・難病保健	1. 各ライフステージにおける歯科・口腔保健 ①学童期の齲蝕予防 2. 障害・難病とは 3. 障害者保健・難病保健活動に関する法律 4. 障害者保健・難病保健の地域支援システム	講義

授業要項

第 12 回	学校保健	1. 学校保健とその構造 ①学校保健とは　②学校保健の対象 ③学校保健の構造 ・保健教育　・保健管理 ・保健組織活動 2. 現代の子どもの健康課題 3. 健康診断 4. 心の問題などのある児童生徒への対応 ①いじめ　②不登校 5. 特別な支援を必要とする子供たち	講義
第 13 回	産業保健	1. 職場における健康 2. 日本の産業保健関連法令の変遷 3. 労働基準法に基づく労働災害の補償と予防 4. 労働安全衛生法に基づく職場での健康管理 5. 労働安全衛生法に基づく健康管理の実際 6. 職場の健康管理体制 ①職場の健康管理を担う人々 ②労働衛生管理の３管理と５領域 ③職場の労働衛生管理体制 7. 産業保健活動の実際 ①一次予防活動　②二次予防活動 ③三次予防活動 ④個別支援から集団・組織支援活動へ 8. 働き方改革	講義
第 14 回	健康危機管理・災害保健	1. 健康危機管理 2. 災害保健 ①災害の定義　②災害の種類 ③災害対策に関する制度 ・災害対策の法体系 ・災害時の保健・医療・福祉システム 3. 災害時の保健活動 4. 災害時に特別な配慮を必要とする人々の支援	講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 まとめ

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは公衆衛生学の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：文化人類学、家族社会学、健康と活動	1 年次
	専門基礎分野:機能生理学総論及び機能形態学、看護栄養学、微生物と感染症、関係法規、社会福祉Ⅰ、総合保健医療論Ⅰ	1 年次
	専門分野:各看護学概論、災害看護	1 年次後期～ 3 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。既習の学びを活かすこと。 事後課題はその都度提示。	
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　公衆衛生、医学書院	

授業要項

参考文献等	国民衛生の動向、厚生労働統計協会 参考図書：系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令、医学書院
受講上のアドバイス	受講生の皆さんは、『公衆衛生』という名前からして難しい科目ではないかと思うのではないでしょうか。公衆衛生には、病気の人、弱者が、そのハンディキャップにかかわらず、人間としての誇りを持って生きていけるような社会システムにする「よき社会」への理想の扉を開く力があるという公衆衛生の専門家のメッセージがあります。「よき社会」に向かって何を学ぶのか興味を持って欲しいです。国民の健康に関する諸施策、各自治体の住民の健康を守る体制づくり、世界的な感染症リスクや気候変動からの公衆衛生課題について、一緒に学習していきましょう。 難しいかもしれませんが、国家試験にも多く出題される科目です。事前・事後学習も行って下さい。
実務経験の内容	保健師

修得する能力（DP）との関連

● 密接に対応

	人間を理解する力		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	総合保健医療論Ⅰ	単位数	1単位
時期	2年次後期	時間数	15時間	講師名	帆北 修一
科目概要		総合保健医療論Ⅰでは、人の生きること、死ぬことを考え生命の価値を深める。医療と社会を幅広く理解し、医療者が経済学を学ぶ意義を学ぶ。これらの基礎知識を通して看護職として医療の実践に係る心構えを身につける。			
科目目標		1. 慈愛の心で、生命を尊ぶ心、死を悼む心について考察する。 2. 医学の歴史、科学としての医学について述べることができる。 3. 保健・医療・介護―切れ目のないサポート実現を学び、現代の医療を述べることができる。 4. 現在の医療にかかわる諸問題について考えることができる。 5. 社会全体の視点に立ち、転換を迫られる医療政策について関心を持つことができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	イントロダクション 生きることと死ぬこと	1. 生命を尊ぶ心 2. 健やかに生きる 3. おいてこそ人生 4. おだやかに死ぬことを考える	講義
第2回	医学と医療	1. 温故知新―医学の歴史に学ぶ 2. エビデンスに基づく医療	講義
第3回	保健・医療・介護―切れ目のないサポートの実現	1. 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2. 社会保障制度：医療保険、介護保険を重点に	講義
第4回	保健・医療・介護―切れ目のないサポートの実現	1. 我が国の医療システム 2. 救急医療・集中医療 3. チーム医療	講義
第5回	医療と社会	1. 医の倫理 2. 医療安全 3. 医療情報	講義
第6回	医療経済学と医療政策	1. 医療者が経済学を学ぶ意義 2. 医療サービスの特殊性 3. 医療の質評価と情報公開	講義
第7回	医療経済学と医療政策	1. 転換を迫られる医療政策 2. 国民医療費 3. 診療報酬改定の意義 4. 急性期医療の集約化 5. 医療サービスの費用対効果分析 6. 医療者がもつべきコスト意識	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点配点。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは総合保健医療論Ⅰの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：慈愛の心、文化人類学、家族社会学	1年次

授業要項

	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ、公衆衛生学	1年次後期～ 2年次前期
	専門基礎分野：社会福祉Ⅱ、関係法規、総合保健医療論Ⅱ	3年次
	専門分野：看護の統合と実践　「医療安全」「看護管理・国際看護」 各看護学概論　等	2年次～ 3年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門基礎分野　医療概論、医学書院 参考図書：系統看護学講座　別巻　総合医療論、医学書院	
受講上のアドバイス	求められる看護師像は、社会の在り方や人々の意識を反映して時代と共に変遷する。この授業では、保健・医療の現場で問われている課題を取り上げ、医療・看護の問題をより深く理解できるように進めていく。また、授業を通してよい看護とはどのような看護か、よい看護師にはどのような資質が必要かなど、つねに振り返る必要性を考えて欲しい。 授業内容の理解を深めるためには、予習と復習をしっかり行って欲しい。ニュースを見る、新聞を読む習慣をつけ、社会のニーズや医療・看護問題に関連する情報にも関心を持って欲しい。	
実務経験の内容	医師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

	人間を理解する力	●	**連携・協働する力**
	看護を実践する力	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門基礎分野		科目	総合保健医療論Ⅱ	単位数	1単位
時期	3年次前～後期	時間数	20時間	講師名	櫻美 尚美 他
科目概要		地域包括ケア・地域共生社会の実現のために必要な多職連携教育、多職連携実践の必要性を理解する。また、演習を通し他の職種の特性を活かしながら、多様な専門職と連携・協働し、対象のニーズに応えていく能力を養う。			
科目目標		1. チーム医療について学びを深め、それぞれの職種の専門性を述べることができる。 2. 具体的事例の検討から、各専門職との連携協働のあり方の実際を考察する。 3. 多職種連携を推進するために自らの目指す職種においてできることを探求する。 4. 協働学習をとおして、看護職の専門性を追求するための学習課題を述べることができる。 ＊1 年次の看護学概論で様々な医療職について調べ、多職種連携に関心をもつ学習を行なう。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 ～ 第3回	チーム医療とは	1. チーム医療の背景、真のチーム医療とは 2. 多職種連携に必要な技術 3. 院内多職種連携の実際 「院内急変・救急対応チームの活動」 「リエゾンチーム/認知症ケアチームの活動」 ＊看護師の立場でチーム医療をどう展開しているか	講義 認定看護師
第4回 ～ 第8回	事例検討を通して専門職連携を深める。	1. 各職種の専門性に気づき、それぞれの視点でケアを検討する。(協働学習) 2. 入院中のケアの実際 3. 退院に向けたケアや支援の実際 4. ケースカンファレンス（体験）	シミュレーション学習
第9回 第10回	専門職連携実践におけるこれからの展望 「看護の専門性を発揮するために」	1. 看護の統合と実践実習(チーム医療実習)や看護統合と実践実習（プレナース実習）を終えての学びの統合	講義 まとめ

単位認定の方法	1. 20時間中14時間以上の出席があること。 2. 課題取組、演習を評価し100点満点。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは総合保健医療論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：慈愛の心、家族社会学他	1年次
	専門基礎分野Ⅰ：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、総合保健医療論Ⅰ	1年次～ 3年次
	専門分野：看護学概論他各看護学、看護の統合と実践「看護管理・国際看護」他	1年次～ 3年次
	臨地実習での学び	1年次～ 3年次

事前・事後学習	医療専門職についてのこれまでの学びの整理は必要。課題はその都度提示
使用テキスト 参考文献等	なし。各自テキスト及び文検を入手

授業要項

受講上のアドバイス	多職種連携（チーム医療）の目的は、専門職種の積極的な活用、連携による医療の質の向上及び効率的な医療サービスを提供することにあります。そのためには、コミュニケーションや情報の共有、チームマネジメントが必要です。看護師には、この 3 つのスキルが求められます。講義や演習を通して専門職連携実践について学びを深めます。また、授業の学びを実習に繋げ実習で多くの専門職とかかわりましょう。 実習後は、これらの学びを統合し看護専門職としての役割を明確にし、これからの実践につなげる能力を身につけていきます。
実務経験の内容	看護師　専任教員　看護師臨床経験 10 年以上 認定看護師

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

	人間を理解する力	●	**連携・協働する力**
	看護を実践する力	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	看護学概論	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間	講師名	久徳 美鈴
科目概要		看護を志した人たちが看護の基本的な考え方にふれるなかで看護への関心を高め、自分なりの看護を創造していく基礎となる科目である。 看護の対象である人間や健康、人間と相互作用する環境や社会、文化について考えることを通して、看護の考え方を深め、理論に裏打ちされた科学的根拠に基づいた看護、専門職の責任について学びを深めていく。			
科目目標		1. 看護の意義と役割について考え、自己の考えを述べることができる。 2. 看護する上で人に関心を寄せることの重要性とケアリングについて述べることができる。 3. 看護の対象である人間の身体的、精神的、社会的、文化的側面とその特性を理解し、説明できる。 4. 看護の目的と基本的責務について説明できる。 5. 環境や社会とともに変化し拡大する看護の役割と多職種との連携・協働の必要性について説明できる。 6. 看護理論をふまえ、科学的看護を探求する姿勢の重要性を説明できる。 7. 自ら学び続ける看護職者としての自覚を高め、主体的な学習姿勢を身につけることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護への導入、イントロダクション 看護を学ぶにあたって	1. 本校の基礎看護学の科目ガイダンス（各科目の発展、学習の方法等） 2. あなたはなぜ看護師を目指したのか 3. 看護師とは何をする職業なのだろうか 4. 看護師の本来的役割と看護独自の機能 5. 看護を学ぶものとして目指すべき姿 「聞いてください、看護師さん」ルース・ジョンストン 〇授業を通して感じたこと、これからの学び（課題）	講義 協働学習 （シンクペアシェア）
第2回	看護実践に必要な諸概念 （重要概念:看護）	1. 看護とは何か 看護の概念的定義と普遍性 看護の目的、看護の機能 看護の対象 2. 看護(Nursing)とケア（care）ケアリング(caring) 3. 看護活動の場　：役割機能の拡大 ・療養生活から生活そのものへ ・グローバル社会へ ・災害医療の担い手 4. 本校が重視する看護の考え方 〇看護とは何か:自分の言葉で表現しよう	協働学習 講義
第3回 第4回	看護の対象である人間の理解（重要概念:人間）	<u>看護の対象である「人間」の理解を深める</u> 1. 本校の「人間の考え方」を知る。 2. 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 ・身体的側面の理解;人のもつ自然治癒力 3. 人間の心理行動の基本的理論の学習 ・ストレス理論、コーピングの理解 ・さまざまな危機理論 星野さんの自伝「愛、深き淵より」病みの軌跡	講義 協働学習 グループワーク（本校の看護の主要概念から考える） 調べ学習

授業要項

		4. 人間のもつ基本的欲求 ・マズローのニード論 ・ヘンダーソンの基本的ニード：自己の欲求について考える。 5. 生涯発達し続ける存在としての理解 ・発達とは、 ・ハヴィガーストによる発達理論 ・エリクソンによる発達理論 6. 人間の暮らしの理解 ・生活とは、暮らしとは、人間を全人的に理解するということ 7. 本校が重視する人間の考え方 〇人間の理解について深めたこと	
第5回	人々の生活と健康 （重要概念:健康） 健康・病気の捉え方	1. 健康とは、健康の概念 2. 人々の健康を支える概念と広がり ・プライマリーヘルスケア ・ヘルスプロモーション 3. 障害とは　ICFの考え方 ノーマライゼーション	講義
第6回	看護職の倫理綱領と看護学生としての倫理 （実習に向けて） 「看護の基本的責務」	1. 倫理とは、看護職の倫理綱領 2. 看護学生としての倫理 〇これからの学びにあたっての倫理行動を考えてくる。（事前課題）	講義
第7回	健康、環境の考え方の広がり （重要概念：健康、環境）	1. 国民の健康状態を知る。健康状態の変遷 2. 本校が重視する健康の考え方 3. 人間と環境 4. 環境が健康に及ぼす影響 5. 本校が重視する環境の考え方 〇オオカミに育てられた少女（課題）	講義
第8回 第9回	看護実践と看護活動の場	1. 看護実践とその質保証 2. 看護実践の看護師の思考 ・看護過程 ・臨床判断 3. 看護実践の原則 4. 臨床判断能力とは 〇学生とベテラン看護師の思考の違い・・事例から考える 5. 地域包括ケアにおける看護活動の場 6. 健康レベルの看護 急性期・回復期・慢性期・終末期にある人の理解と働きかけの特徴 看護の展開 7. 看護の継続性と連携	講義
第10回	看護実践のための理論的根拠①	1. 看護理論とは何か 2. 各理論家は看護をどう位置付けているか 3. 各理論家の看護の捉え方の特徴 ・ナイチンゲール ・ヘンダーソン	講義 協働学習

授業要項

		・オレム ・ロイ ・ペプロー　他 〇村田さんの事例をニードに沿ってまとめてくる	
第 11 回	看護実践のための理論的根拠② ヴァージニアヘンダーソンの看護（本校の看護基盤）	1. 看護実践に理論を活用する 2. 看護実践の理論的展開の具体的方法 1）ナイチンゲール:環境分析 2）ヘンダーソン：基本的ニード分析 3）オレム：セルフケアへの支援	協働学習
第 12 回 補講 1 回 第 13 回 第 14 回	看護実践のための理論的根拠③ 地域包括ケアの中での看護実践	1. これまで学習した看護理論、看護の基礎概念を統合し、看護を創造しよう。 1）「人間」「健康」「環境」「看護」の概念化 2）事例の患者の暮らしを支える看護 3）健康障害（急性期の看護） 4）回復期の看護 5）その人らしい暮らし維持の看護 2. 看護の理論的根拠に基づき、考え工夫し、看護を導く	演習 グループディスカッション ポスターツアーにて発表、共有
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 協働学習への主体的参加、レポート、筆記試験等を総合して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護学概論の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：論理的思考の基礎、慈愛の心、コミュニケーション論、心理学、教育学、文化人類学、家族社会学、健康と活動	1 年次
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学、臨床判断Ⅰ・Ⅱ 社会福祉Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生学、総合保健医療論	1 年次
	専門分野：看護倫理他すべての科目	1 年次後期～
	臨地実習：すべての科目	

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事前、事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　看護学概論　医学書院 看護覚え書―看護であること看護でないこと一、日本看護協会出版社 看護職の基本的責務　2023 年度版　日本看護協会出版社 看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
受講上のアドバイス	この科目は、看護についての基本的な考え方を学び、「慈愛の心で人に関心を寄せる力」「主体的に思考し学習する力」「考えを他者と共有する力」を養い、看護専門職者としての基盤を身につける科目である。看護とは何か？を探求し続けるために学生自身の心を動かす授業を考えている。 講義・個人学習・グループワーク・ＰＢＬ学習など、様々な学習形態を通して主体的に学習に参加し、他者の多様な考え方を柔軟に受け入れながら、更に自身の思考を深化させることを目指してほしい。
実務経験の内容	看護師　専任教員　認定看護管理者

授業要項

	看護師経験 40 年以上　専任教員経験 10 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感	●	時代の変化に対応する力
●	人間関係を築く力	●	研鑽し探求する力

授業の工夫

・ケアの本質を本校の教育理念である「慈愛の心」であることを土台に学ぶ。常に患者に寄り添う心を育てるために、なるべく臨床で出会う患者をイメージさせながら学習が深まるように工夫している。

・特に本校のディプロマポリシーである「人間を理解する力」を重視し、本校の「人間」の概念を深く考える機会とする

・看護学概論は、看護を学ぶ上での出発点、学生にとって「看護とは何か」を捉えさせるために、「芸術（アート）の視点」「（科学的）サイエンスの視点」をしっかりと根付かせる。患者に心を寄せ、ニードをふまえてケアを創造するためには、基本的な技術を発展させること、また、サイエンスの視点で看護を実践する必要性（看護理論を看護実践に活用する）、土台の学習。ヘンダーソンの看護理論を実践につなげる学習を強化

・学びが深まるよう講義、グループワーク、課題への取組みの工夫。授業のまとめはＰＢＬ学習により看護を自分たちでまとめ考え、互いに学び合うプロセス迄を実施。

・概論での学びは全ての看護学への発展の基盤である。これから学習する教科目全体をとおして、人間観、看護観を養うことを期待している。

授業要項

専門分野		科目	看護倫理	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	15時間	講師名	櫻美 尚美
科目概要		基礎分野の倫理学を基に、複雑な社会で生きる人々の多様な医療ニーズや価値観を理解し、看護の原点である患者にとって「善い看護とはなにか」を様々な場面において考え抜く、看護専門職者としての姿勢を養う科目である。 事例を通して倫理的感受性を養うとともに、全ての看護ケアに内包されている看護倫理の本質について考えを深め、これからの看護実践の基盤とする。			
科目目標		1. 看護職が倫理を学ぶ意義について説明できる。 2. 医療、看護においての倫理の歴史的経緯を述べることができる。 3. 立場や価値観が人々の考えや行動に及ぼす影響について考えを述べることができる。 4. 倫理的問題にはどのようなものがあるのか述べることができる。 5. 看護職が専門職としてどのような倫理規定を持ち、どのように活用するのかを述べることができる。 6. 倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように取り組むのか説明できる。 7. 看護師としての義務と責任について考えることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護場面における倫理	1. 事例を通して考える看護倫理の原則	グループワーク
第2回	看護実践における倫理的課題への取組	1. 事例の検討;立ち場や価値観の違いによっておこるジレンマ・・対応 （意思決定支援、守秘義務に関するジレンマ） 2. 看護の対象を支える看護職者の姿勢とは 3. 共有、発表	グループワーク演習
第3回	看護実践における倫理的問題への取組	1. 倫理カンファレンスの意義 事例の検討を通して 2. 倫理的問題へのアプローチ法：フレームワークについて 1)倫理原則に沿った検討 2)Ｊonsenらの症例検討シート（４分割法）	グループワーク 講義
第4回	看護実践場面での倫理的感受性を磨く	1. 事例の検討 Ｊonsenらの症例検討シート（４分割法）を用いた看護倫理カンファレンス 2. 私たちが考える善い看護とは	協働学習
第5回 第6回 第7回	看護実践場面での倫理的感受性を磨く	1. 実習で倫理的感受性を高めるため取組、方法 1)倫理的感受性とは：「善い看護とは」 課題に気づく力 2)倫理カンファレンスの意義 3)倫理カンファレンスの進め方 2. 倫理カンファレンスの実際	講義 協働学習
第8回 1時間	終講まとめ	1. 看護倫理原則 2. 全ての看護に内包されている看護倫理 3. 善い看護を実践するための看護職者の姿勢とは 4. 看護倫理の学習を通して考える自己の行動課題	講義

授業要項

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点、グループワーク等への取組、発言、レポート、出席状況、授業態度等を合わせて 100 満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護倫理の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、倫理学	1 年次前期
	専門基礎分野：関係法規	3 年次
	専門分野：看護学概論（1 年次)、看護研究（3 年次）	1 年次 ～3 年次
	各臨地実習での倫理カンファレンス	2 年次～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　看護倫理、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、本校のディプロマポリシーである高い倫理観をもつ学生を育てる科目です。1 年次で学習する倫理学や看護学概論の学習を基盤にしています。 専門職としての倫理は、講義を受ければ完遂するものではなく、多段階で学んでいく必要があります。倫理学で「倫理」に関心をもち、この科目で看護倫理を専門的に学習し、この学びを現場で学んでいくことが大切です。そのプロセスの中で常に「善い看護」とはについて追求していきましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　専任教員経験 10 年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**	●	**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	看護共通基本技術 （感染防止の技術）	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	45時間（内22時間）	講師名	大磯 陽子
科目概要		看護場面に共通する科学的根拠に基づいた基本的技術を習得し、安全、安楽、自立/自律に配慮した看護を実践できる基礎的能力を養う科目である。			
科目目標		1. 看護における安全について説明できる。 2. 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術について科学的根拠に基づいた技術を習得する。 3. 記録・報告の必要性を述べることができる。 4. 感染防止の技術について科学的根拠に基づいた技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護技術概論	1. 看護技術とは 2. 看護技術の範囲 1)日常生活援助技術 2)診療補助技術 3. 技術を構成する3つの柱 4. 医療を受ける対象にとって基盤となる安全・安楽 5. 看護技術の習得法:技術から技能へ	講義
第2回	感染防止における看護師の責務と役割	1. 感染防止の基本的知識、感染の成立 2. 感染防止対策の基本 （スタンダードプリコーション）	講義
第3回 第4回	感染防止の技術①	1. 標準予防策に基づく手洗い 2. 感染防護用具（手袋・ゴーグル・エプロン・ガウンの選択・着脱）	実技
第5回	安全の技術	1. 安全確保の基本的知識 2. 安全文化の醸成 1)ハインリッヒの法則、スイスチーズモデル 2)インシデントレポート、アクシデントレポートの意義と活用 3. 看護現場で起こりやすい事故 1)日常生活援助技術のリスクに気づく	講義/グループワーク
第6回	看護現場の事故と対策	1. 実習中に起こりやすい事故 2. KYT（危険予知）トレーニング 3. 転倒事故と具体的対策 4. 実際の事故事例の分析(インシデントレポートの実際)	グループワーク 演習
第7回 第8回	感染経路別防止策	1. 感染経路別防止策 1）接触予防策　2）飛沫予防策　3）空気予防策 2. 滅菌法、消毒法、洗浄法	講義
第9回	感染防止の技術②	1. 無菌操作 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 針刺し防止策	講義
第10回 第11回	感染防止の技術②	1. 滅菌用品の取り扱い 2. 滅菌ガウン・滅菌手袋の着脱 3. 感染性廃棄物の取り扱い 4. 無菌操作	実技

授業要項

単位認定の方法	1. 看護共通基本技術 45 時間中 30 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点（レポート点５点)。 看護共通基本技術(感染防止の技術) 50 点、(コミュニケーション・看護記録)50 点と合わせて 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護共通基本技術の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：コミュニケーション論、看護における情報科学Ⅰ 看護における情報科学Ⅱ	1 年次～ 3 年次
	専門基礎分野：感染症と微生物	1 年次後期
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠ、基礎看護技術各論	1 年次
	専門分野：看護過程の基礎　　他各看護学	2 年次
	専門分野：看護の統合と実践「医療安全」	3 年次
	臨地実習へつなぐ	
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術ⅠⅡ、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。特に看護技術を提供する上で感染防止も含めた安全の確保は重要です。また、この講義では、看護師として知っておかなければならない「看護記録」の意義/種類・書き方についても学んでいきます。これから実習で経験する「実習記録」にも共通する内容です。また、コミュニケーション技術は、看護師に必要な人間関係を成立させるための重要な学習ですので積極的に学んでいきましょう。	
実務経験の内容	看護師、専任教員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	看護共通基本技術 （コミュニケーション・看護記録）	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	45時間(内23時間)	講師名	佐野 聡美
科目概要		看護場面に共通する科学的根拠に基づいた基本的技術を習得し、安全、安楽、自立/自律に配慮した看護を実践できる基礎的能力を養う科目である。			
科目目標		1. 看護における安全について説明できる。 2. 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術について科学的根拠に基づいた技術を習得する。 3. 記録・報告の必要性を述べることができる。 4. 感染防止の技術について科学的根拠に基づいた技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	1. 看護・医療におけるコミュニケーションの目的 2. 看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 3. 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性 4. 構成要素と成立過程 5. ミスコミュニケーション	講義
第2回	関係構築のためのコミュニケーションの基本	1. 接近的コミュニケーションの原理 2. 接近的行動の前提となる基本的態度 3. 接近的行動と非接近的行動 4. 相手との距離・位置・視線がコミュニケーションに及ぼす影響	講義/演習
第3回	効果的なコミュニケーションの実際	1. 看護における傾聴 2. 情報収集の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス 5. コミュニケーション障害への対応	講義
第4回 第5回	コミュニケーション演習 場面の再構成 ＊客観的に自己のコミュニケーションを振り返る	1. 患者-看護師のコミュニケーション場面の体験（傾聴、共感、受容） 2. プロセスレコ―ドの意義と方法 3. コミュニケーション場面の再構成 4. 自己のコミュニケーションの傾向と課題、強みに気付く。	講義/演習 グループワーク
第6回 第7回 第8回	看護における記録・報告	1. 看護記録の法的位置づけ 2. 看護記録の目的と意義 3. 看護記録記載基準 4. 看護記録の構成要素（看護基礎情報、看護計画、経過記録、要約:サマリー） ＊看護記録の内容と目的を知り、実際、書いてみる。 5. 看護計画を書く 6. 経過記録を書く（ＳＯＡＰ記録、フォーカス記録） 7. フローシートを書く	講義 演習
第9回 第10回	看護における報告の意義	1. 報告の目的 2. SBARを用いた報告の実際 臨地場面での報告の事例を用いて	講義/演習
第11回	看護記録の電子化	1. 看護記録の電子化:電子カルテの3原則 2. 看護記録の取り扱い	講義

授業要項

	実習記録の取り扱い	3. 実習記録の取り扱い;基本的ルール:学生便覧 4. 守秘義務とセキュリティの確保	
第 12 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 看護共通基本技術 45 時間中 30 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 50 点配点。 看護共通基本技術(感染防止の技術) 50 点、(コミュニケーション・看護記録)50 点と合わせて 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護共通基本技術の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：コミュニケーション論、看護における情報科学Ⅰ 看護における情報科学Ⅱ	1 年次～ 3 年次
	専門基礎分野：感染症と微生物	1 年次後期
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠ、基礎看護技術各論	1 年次
	専門分野：看護過程の基礎　　他各看護学	2 年次
	専門分野：看護の統合と実践「医療安全」	3 年次
	臨地実習	

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術ⅠⅡ、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。特に看護技術を提供する上で感染防止も含めた安全の確保は重要です。また、この講義では、看護師として知っておかなければならない「看護記録」の意義/種類・書き方についても学んでいきます。これから実習で経験する「実習記録」にも共通する内容です。また、コミュニケーション技術は、看護師に必要な人間関係を成立させるための重要な学習ですので積極的に学んでいきましょう
実務経験の内容	看護師、専任教員、基礎看護学担当

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	フィジカルアセスメントⅠ	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	15時間	講師名	高木 里子
科目概要		医療の場における看護師の判断力は強く求められており、その基礎となるフィジカルアセスメント技術を習得し、看護の観察力と判断力の基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 症状や訴えから対象の状態をアセスメントし、観察する内容を説明できる。 2. バイタルサインの意義と必要性を理解し、確実なバイタルサイン測定の技術を習得できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	観察に関する基本的知識	1. フィジカルアセスメントの目的・意義 2. 観察に関する基礎知識 3. 主観的情報である症状(徴候)から解釈できる事法の概念	講義
第2回	フィジカルアセスメントに必要な技術	1. フィジカルアセスメントに必要な技術（視診、触診、聴診、打診） 2. バイタルサインの意味とアセスメント	講義
第3回	体温測定とアセスメント 脈拍測定とアセスメント	1. バイタルサインの観察とアセスメント 2. 体温測定法 3. 体温のアセスメント 4. 脈拍測定法 5. 脈拍のアセスメント	講義
第4回	呼吸測定とアセスメント 血圧測定とアセスメント	1. 呼吸測定法 2. 呼吸のアセスメント 3. 血圧測定法 4. 血圧のアセスメント	講義
第5回	バイタルサイン測定	・臥床患者のバイタルサイン測定	実技
第6回			実技
第7回		・シミュレーターを用いた呼吸音、腸蠕動音の聴取	実技
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点満点。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものはフィジカルアセスメントⅠの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：生命のしくみ	1年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論	1年次前期
	専門分野：フィジカルアセスメントⅡ、看護過程の基礎	2年次
	臨地実習	1年次後期～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学「2」基礎看護技術Ⅰ，医学書院 フィジカルアセスメント，医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院

授業要項

受講上のアドバイス	1. 学生同士でフィジカルアセスメント技術を用いて演習する。 2. 学生同士でバイタルサイン測定を行い、測定技術を習得する。 3. 夏季休暇の課題で異年齢の人達（家族や友人）のバイタルサイン測定を行い、年齢や状態によるバイタルサインの値の変化や特徴を理解し、アセスメントする際の知識を広げ、確実な技術習得とする。 4. バイタルサインの演習後は基礎実習１－２までに、教員へ技術の確認をしてもらうこと。
実務経験の内容	助産師、専任教員

修得する能力（DP）との関連

● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	フィジカルアセスメントⅡ	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間	講師名	櫻美 尚美
科目概要		1年次に学習したフィジカルアセスメントⅠを基盤にさらに看護師として必要な臨床推論、臨床判断ができるための能力を養う科目である。			
科目目標		1. 身体に現れる症状・兆候から原因を推測し、アセスメントの視点を述べることができる。 2. 系統別のフィジカルアセスメントの目的、方法を述べることができる。 3. 得られた情報から、患者の状況をアセスメントし、緊急度、重症度が推測でき、必要なケアを説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	症状・兆候からのアセスメント 「息苦しい」	1. フィジカルアセスメントとは（復習） 2. 問診により原因を推測し、緊急度を見抜く 3. 考えられる疾患は？ 4. 関連するフィジカルアセスメント	講義 GW
第2回	身体機能別のアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント	＊基本技術の振り返り（ＤＶＤ） 1. 視診による呼吸の観察 2. 触診による呼吸の観察 3. 呼吸音の聴取、異常呼吸音の性質と種類を捉える	講義 実技
第3回	「胸が痛い」	1. 問診により原因を推測し、緊急度を見抜く 2. 考えられる疾患は？ 3. 関連するフィジカルアセスメント	講義 GW
第4回	循環系のフィジカルアセスメント	1. 末梢循環不全を評価する 2. 心音を聴取する 4. 心不全のサインを見逃さない	講義 実技
第5回	「口から血が出た」 「便に血が混じった」	1. 問診により原因を推測し、緊急度を見抜く 2. 考えられる疾患は？ 3. 関連するフィジカルアセスメント	講義 GW
第6回	消化器系のフィジカルアセスメント	1. 口から食べ物を摂取できるか評価する 2. 咽頭反射 3. 腹部のアセスメント、腹部の視診、 4. 腸蠕動音の聴取、亢進、減少のアセスメント	講義 実技
第7回	「頭が痛い」 「しゃべりにくい」 「身体が思ったように動かせない」	1. 問診により原因を推測し、緊急度を見抜く 2. 考えられる疾患は？ 3. 関連するフィジカルアセスメント	講義 GW
第8回	中枢神経系のフィジカルアセスメント	1. 意識状態を測る 2. 呼吸パターンを確認する 3. 瞳孔及び対光反射を確認する 4. 脳幹反応をみる 高次脳機能を評価する	講義 実技

授業要項

第 9 回	運動系のフィジカルアセスメント	1. ADL・歩行を観察する 2. 可動域を測定する	講義 実技
第 10 回 ～ 第 14 回	フィジカルアセスメント技術の統合 事例の患者のフィジカルアセスメント	＊学びを統合して事例の患者さんを観察し､アセスメントし看護を導こう	シミュレーション学習
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 まとめ

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 60 点、出席状況、授業態度等を含む課題取組点 40 点で 100 満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものはフィジカルアセスメントⅡの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：生命のしくみ	1 年次前期
	専門基礎分野：機能生理学総論、病態総論、機能病態学各論	1 年次
	専門基礎分野：臨床判断Ⅰ Ⅱ	1 年次後期～ 2 年次
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠ、基礎看護技術 看護過程の基礎及び各看護学援助論	1 年次～ 2 年次

事前・事後学習	授業に臨む前に、1 年次に学習した臨床判断Ⅰの内容や各機能病態学で学習した内容は活用します。整理しておくこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学「2」基礎看護技術Ⅰ，医学書院 フィジカルアセスメント，医学書院（ナーストレーナー）
受講上のアドバイス	この科目は､1 年次のフィジカルアセスメントⅠの基本技術をもとに､全身のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を身につけて行きます。実際の患者さんに起こりうる症状・兆候から何が考えられ、そのためにはどんな観察が必要なのか考えて実施できるようになりましょう。この学習が皆さんの臨床判断能力を高める土台となり、実際の患者さんを見た時の判断に繋がっていくと思います。 前向きに主体的に授業や演習に臨みましょう。
実務経験の内容	看護師　専任教員　看護師臨床経験 10 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅰ （呼吸・循環）	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	佐野 ・高木
科目概要		診療補助に関する技術は、看護業務の重要な位置づけである。臨床での実践力に対応するために、根拠をもった技術習得を目指す。			
科目目標		1. 呼吸・循環を正常に維持するために、科学的根拠に基づく安全で効果的な援助技術を習得する。 2. 救急対応の考え方、急変時の対応、トリアージについて述べることができる。 3. 止血法の技術を習得する。 4. 創傷管理の基礎知識を学び、創保護、包帯法の技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	呼吸維持に関する基礎知識 ＊機能病態学Ⅰと関連	呼吸障害の及ぼす影響、主な症状、アセスメント	講義 （佐野）
第2回	呼吸障害を改善させるための看護技術の理解①	1. ネブライザーを用いた気道内加湿 2. 酸素吸入療法 （中央配管・酸素ボンベの取り扱いを含む） 3. 口腔・鼻腔吸引 4. 気管内吸引	講義 （佐野）
第3回	呼吸障害を改善させるための看護技術の実際	1. 酸素吸入療法 （中央配管・酸素ボンベの取り扱いを含む） 2. 口腔・鼻腔内吸引	デモンストレーション （佐野）
第4回 ～ 第6回	呼吸障害を改善させるための看護技術の実際	1. 酸素吸入療法 （中央配管・酸素ボンベの取り扱いを含む） 2. 超音波ネブライザーを用いた吸入療法 3. 口腔・鼻腔吸引	演習 実技 （佐野）
第7回	循環維持に関する基礎知識 ＊機能病態学Ⅰと関連	1. 循環機能に影響を及ぼす主な症状、アセスメント 2. 発熱のアセスメントと看護 ＊クーリング技術についてはここで学ぶ ＊罨法の技術は基礎看護技術Ⅴ(安楽技術)で学習 ＊浮腫、脱水、ショックは臨床判断Ⅰで学習	講義 （高木）
第8回	創傷管理に関する基礎知識	3. 創傷とその治癒過程 4. 創傷処置（創洗浄と創保護） 5. 包帯法、包帯の種類、援助の実際	講義 （高木）
第9回 第10回	包帯法の基本技術	1. 包帯法 演習	実技 （高木）
第11回 第12回	洗浄に関する看護技術	1. 胃洗浄の目的、方法、看護 2. 腸洗浄の目的、方法、看護 3. 膀胱洗浄の目的、方法、看護	講義 デモンストレーション （高木）
第13回 第14回	救命救急処置に関する技術	1. 一次救命処置 2. 二次救命処置 3. 救急法（ABC） ＊成人看護学援助論Ⅴで演習 4. 止血法の実際・・実技	講義 （高木） 実技
第15回	終講試験 まとめ		筆記試験

授業要項

			まとめ （高木）
単位認定の方法	1. 呼吸障害時の看護技術 12 時間、循環障害時の看護技術 18 時間、合計 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験（呼吸障害時の看護技術 40 点、循環障害時の看護技術 60 点）100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅰの単位を取得できる。		
関連科目	**関連科目**		**履修時期**
	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ　臨床判断Ⅰ		1 年次
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ		2 年次前期
	専門分野：成人看護学援助論Ⅱ　老年看護学援助論Ⅲ		2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ、医学書院		
受講上のアドバイス	この授業は看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。そのため、1 年次後期から学習し、各技術につなげていきます。呼吸と循環は、生命に直結する機能です。対象の呼吸・循環を正常に維持するための、安全で効果的な援助技術を積極的に学んでいきましょう。また、急性期に必要となる創傷管理や包帯法、救急救命に関する知識と止血法も学習します。		
実務経験の内容	看護師、専任教員		

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅱ （環境・食）	単位数	1単位
時期	1年次前～後期	時間数	30時間	講師名	中村・佐野
科目概要		人間の健康回復や生活の質に大きな影響を与える環境調整や食事について、看護の独自性を発揮するために、根拠に基づいた日常生活援助技術を習得し、安全、安楽、自立/自律に配慮した看護を実践できるための基礎的能力を養う。（環境調整技術、食事援助技術）			
科目目標		1. 人間にとっての環境の意味を理解し、快適な生活環境を整えるための知識と科学的根拠に基づく援助技術を習得する。 2. 健康が障害されて、生活していた環境の変更を余儀なくされた人の闘病意欲を高める環境について、安全、安楽、自立/自律の視点でニーズを充足する方法を看護の視点でアセスメントできる。 3. 人間にとっての栄養と食事の意味を理解し、栄養と食事のニーズを充足するための基本的知識を習得する。 4. 健康のレベル・食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法について、看護の視点から考え、効果的な援助方法を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	療養生活の環境に関する基礎知識	1. 環境とは（外部環境・内部環境、及ぼす影響） 2. ベッドの種類・機能・各部の名称 3. リネン類の名称	講義 （中村）
第2回 第3回	療養生活環境のアセスメントと調整・整備	病室の環境がどのように対象へ影響するか考察	シミュレーション （中村）
第4回	療養生活環境のアセスメントと調整・整備	1. 療養生活における快適な環境条件 2. 環境を整えることの看護的意味 3. 環境整備の方法	講義 デモンストレーション （中村）
第5回	ベッドメイキングの技術	1. リネン類のたたみ方 2. ワゴンへの準備の仕方	講義 実技 （中村）
第6回	ベッドメイキングの技術	1. ベッドメイキングの方法	講義 （中村）
第7回 第8回	ベッドメイキングの技術	ベッドメイキングの技術演習	実技 （中村）
第9回	ベッドメイキングの技術	臥床患者のシーツ交換	デモンストレーション 実技 （中村）
第10回	食事と栄養に関する基礎知識	1. 栄養素、食事の意義 2. 食事に関する生理的メカニズム 3. 栄養・食行動に関するアセスメント （栄養所要量、BMI、血液データ、食欲中枢、摂食・嚥下能力） 4. 非経口的栄養摂取法 （経管栄養法と中心静脈栄養法の特徴、看護）	講義 （佐野）
第11回	食事摂取の介助と口腔ケア	1. 臥床患者の食事介助の実際	講義

授業要項

		（実施方法、看護のポイント、留意点） 2. 口腔ケアの実際 （実施方法、看護のポイント、留意点）	（佐野）
第 12 回 ～ 第 13 回	食事摂取の介助と口腔ケアの実施	臥床患者の食事介助と口腔ケアの実施	実技 （佐野）
第 14 回	経鼻胃チューブの挿入	経鼻胃チューブの挿入方法・留意点	演習 （佐野）
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 まとめ （佐野）

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験　環境調整の援助技術 70 点、食の援助技術 30 点の合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：臨床判断Ⅰ　機能病態学Ⅱ	1 年次
	専門分野：看護共通基本技術　基礎看護技術Ⅳ	1 年次
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ	2 年次
	専門分野：成人看護学援助論Ⅱ　老年看護学援助論Ⅲ	2 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事前、事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ、医学書院
受講上のアドバイス	看護は環境を整えて人間の自然治癒力を引き出します。この授業では、療養生活を余儀なくされた対象の病床環境を適切に整えるための援助方法を学びます。また食事は生命を維持し、健康を保つ上で不可欠なものです。食事の意義や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解するとともに、食事介助の方法を習得します。看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術ですので、しっかり学んでいきましょう。
実務経験の内容	助産師、看護師、専任教員、基礎看護学担当

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅲ （衣・清潔援助技術）	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	45時間（内22時間）	講師名	佐野 聡美
科目概要		人間の快の欲求を満たし、健康回復への意欲や生活の質を高める身体の清潔・衣清潔、排泄援助について、看護の独自性を発揮するために根拠に基づいた日常生活援助技術を習得し、安全・安楽・自立/自律に配慮した看護を実践できるための基礎的能力を養う。（衣・清潔援助技術、排泄援助技術）			
科目目標		1. 身体の清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、清潔援助の効果と全身への影響を述べることができる。 2. 清潔に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択し、科学的根拠に基づいた清潔技術を習得する。 3. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の技術について習得する。 4. 人間の排泄の生理的メカニズムと意義を理解し、患者が健康的な生活を送る為に必要な排泄援助技術を習得する。 5. 自然排泄に課題のある患者の排泄を維持するための、安全で効果的な援助技術を習得する。（導尿、浣腸の技術）			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	清潔援助・衣生活の基礎知識	1.　身体清潔の意義と目的 ・生活の中での清潔の意義、皮膚生理機能と清潔の意義 ・看護の視点 2.　衣生活に関するニーズのアセスメント ・生活の中での衣清潔の意義 ・看護の視点	講義 グループワーク
第2回	全身清拭 臥床患者の全身清拭、寝衣交換の実際	臥床患者の全身清拭、寝衣交換・整容 ・実施方法、看護のポイント、留意点	動画 協働学習
第3回 ～ 第5回	臥床患者の全身清拭、寝衣交換の実施	臥床患者の全身清拭、寝衣交換・整容の実施 （点滴・ドレーン等を留置していない）	実技
第6回 第7回	手浴・足浴の実際	手浴・足浴の意義、効果 ・実施方法、看護のポイント、留意点	講義 実技
第8回	臥床患者の洗髪の実際	洗髪、整容の意義、効果 実施方法、看護のポイント、留意点	講義 協働学習
第9回 ～ 第11回	臥床患者の洗髪の実際	臥床患者の洗髪・整容の実施 （点滴・ドレーン等を留置していない）	実技 協働学習
	技術確認	1.　臥床患者の清拭、陰部洗浄、寝衣交換の技術確認 2.　臥床患者の洗髪の技術確認	実技
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 基礎看護技術Ⅲ清潔・衣生活援助技術と排泄援助技術合わせて45時間中30時間以上の出席があること。 2. 筆記試験（清潔・衣生活援助技術50点、排泄援助技術50点）合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅲの単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	専門基礎分野：臨床判断Ⅰ、機能病態学Ⅳ、看護栄養学	1年次後期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ、老年看護学援助論Ⅲ	2年次
	専門分野：成人看護学援助論Ⅴ	3年次前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事前・事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、医学書院	
受講上のアドバイス	身体を清潔にすることは皮膚の生理機能を円滑にするとともに、気分を爽快にして日常生活を過ごすための大切な生活行動です。それが自らできなくなると生体や精神に大きな影響を及ぼします。この授業では、対象の状態に合わせた清潔に関する基本的援助技術を学びます。	
実務経験の内容	看護師、専任教員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅲ （排泄援助技術）	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	45時間（内23時間）	講師名	落合 明子
科目概要		人間の快の欲求を満たし、健康回復への意欲や生活の質を高める清潔・衣清潔、排泄援助について看護の独自性を発揮するために、根拠に基づいた日常生活援助技術を習得し、安全、安楽、自立/自律に配慮した看護を実践できるための基礎的能力を養う。（衣・清潔援助技術、排泄援助技術）			
科目目標		1. 身体の清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、清潔援助の効果と全身への影響を述べることができる。 2. 清潔に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択し、科学的根拠に基づいた清潔技術を習得する。 3. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の技術について習得する。 4. 人間の排泄の生理的メカニズムと意義を理解し、患者が健康的な生活を送る為に必要な排泄援助技術を習得する。 5. 自然排泄に課題のある患者の排泄を維持するための、安全で効果的な援助技術を習得する。（導尿、浣腸の技術）科学的根拠に基づいた衣・清潔技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	排泄維持に関する基礎知識	1. 人にとっての排泄の意義 2. 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3. 排泄行動のアセスメント 4. 排泄物の観察 5. 自然排泄を促す援助方法	講義 協働学習
第2回	床上排泄の援助方法	1. 尿器・便器の介助 2. オムツによる排泄援助の技術・陰部洗浄の技術	講義 協働学習
第3回 ～ 第5回	排泄援助技術の実施	尿器・便器の使用 オムツ交換・陰部洗浄	実技
第6回	排泄障害時の看護	排尿障害時の看護（一時的導尿・持続的導尿） 排便障害時の看護（グリセリン浣腸・摘便）	講義 協働学習
第7回 ～ 第9回	導尿の実施 膀胱留置カテーテルの管理	一時的導尿の実施と留意点 膀胱留置カテーテルの挿入方法・留意点 持続的導尿時の管理	実技 デモンストレーション
第10回 第11回	排便障害時の看護の実施	浣腸（グリセリン浣腸） 摘便（モデル人形）	実技 デモンストレーション
第12回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 基礎看護技術Ⅲ衣・清潔援助技術と排泄援助技術合わせて45時間中30時間以上の出席があること。 2. 筆記試験（清潔・衣生活援助技術50点、排泄援助技術50点）合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅲの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期

授業要項

	専門基礎分野：機能病態学Ⅳ	2 年次前期
	専門分野：成人看護学援助論Ⅱ・Ⅲ	2 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。排泄行動は人間にとって最も重要な日常の営みといえます。疾患や障害によって排泄行動が自立できない対象の苦痛を推し量り、安全・安楽な排泄援助技術を提供するための学習内容です。	
実務経験の内容	看護師、専任教員　臨床看護経験 10 年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅳ (活動休息・安楽促進技術)	単位数	1単位
時期	1年次前～後期	時間数	30時間	講師名	納瀬・梶野
科目概要		人間の生活拡大や生活の質を左右する活動・休息、安楽促進の技術について、看護の独自性を発揮するために、根拠に基づいた日常生活援助技術を習得し、看護を実践できるための基礎的能力を養う。 （活動・休息援助技術、苦痛の緩和、安楽確保の技術）			
科目目標		1. ボディメカニクスの基本原理を理解し、援助過程において患者と看護者双方が安楽かつ安全な体位で、効率的・効果的な活動援助技術を習得する。 2. 人間にとっての睡眠・休息の意義を理解し、睡眠・休息の援助方法を説明できる。 3. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為を説明することができる。 4. 安楽促進の技術、看護者の身体ケアを通じてもたらされる安楽の技術援助を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	基本的活動の基礎知識	1. よい姿勢 2. ボディメカニクス（効率的で安楽な動きを作り出す技術） 3. 体位 4. 安全・安楽な体位、 5. 安静に伴うリスク（廃用症候群）	講義 （納瀬）
第2回	体位変換・移動	1. 仰臥位から側臥位への移動、背抜き 2. 仰臥位から長座位への移動 3. 長座位から端坐位への移動 4. 床上移動（左右への移動、上方への移動、スライディングシートを用いて行う移動）	講義 （納瀬）
第3回 第4回	体位変換・移動の実施	1. 仰臥位から側臥位への移動、背抜き 2. 仰臥位から長座位への移動 3. 長座位から端坐位への移動 4. 床上移動（左右への移動、上方への移動、スライディングシートを用いて行う移動）	実技 （納瀬）
第5回	移乗・移送	1. 端坐位から立位への移動 2. 車いすへの移乗（立位保持が可能な場合・不可能な場合） 3. 車いすでの移送 4. ストレッチャーでの移送	講義 （納瀬）
第6回 第7回	移乗・移送の実施	1. 端坐位から車いすへの移乗 2. 車いすでの移送 3. ストレッチャーでの移送 4. ＊「歩行・移動介助」は老年看護学でデモスト	実技 （納瀬）
第8回	睡眠・休息の基礎知識	1. 睡眠の種類 2. 睡眠制御のメカニズム 3. 睡眠障害のアセスメント 4. 睡眠・休息の援助	講義 （納瀬）
第9回 第10回	苦痛の緩和 安楽確保の技術	1. 体位保持の援助の基礎知識 2. さまざまな体位のポジショニングの実際	講義 実技

授業要項

	①体位保持の技術（ポジショニング）		（梶野）
第 11 回 第 12 回	安楽確保の技術 ②罨法	1. 罨法の基礎知識 2. 罨法の技術（冷罨法、温罨法） 氷嚢・氷枕、湯たんぽ・温湿布	講義 実技 （梶野）
第 13 回 第 14 回	身体ケアを通じてもたらされる安楽 ③リラクゼーション ④熱布バックケア	身体ケアを通じてもたらされる安楽 1. 安楽促進、苦痛緩和の技術 指圧、タッチング、リラクゼーション、マッサージ、香り 2. 熱布バックケア	実技 （梶野）
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義 （梶野）

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅳの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能病態学Ⅲ	1 年次
	専門分野：老年看護学援助論Ⅲ　成人看護学援助論Ⅳ	2 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。姿勢の保持、運動、日常の諸活動が心身にもたらす影響を学習し、疾病や治療などにより制限された対象に対する援助方法・休息と睡眠に関する援助方法を学びます。また安楽を促進する援助について学び、看護者の身体ケアを通じてもたらされるケアの実際を体験しさまざまな技術を駆使できる能力を身につけていきます。
実務経験の内容	看護師、専任教員

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅴ（与薬）	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	40時間（内26時間）	講師名	宮里 三智子
科目概要		診療補助に関する技術は、看護業務の重要な位置づけである。臨床での実践力に対応するために、根拠をもった技術習得を目指す。（与薬の技術、診察・検査技術）			
科目目標		1. 薬剤に伴う法的責任を理解し、薬物を正しく管理する方法を説明できる。 2. 指示された薬物を安全・適性に与薬する技術を習得する。 3. 検査の種類と検体検査の意味を述べることができる。 4. 診療に伴う看護の基本的役割を説明できる。 5. 科学的根拠に基づいた診察・検査時の援助技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	与薬に関する基礎知識	1. 薬物の基本的性質 2. 各与薬方法と体内における吸収 経口与薬、注射による与薬、その他の与薬（点眼、吸入、点眼、経皮与薬、直腸内与薬） 3. 与薬時の看護の役割	講義
第2回	与薬の具体的援助方法の実際	1. 経口薬（バッカル錠、内服薬、舌下錠）の投与 2. 経皮・外用薬の投与（点眼・点耳） 3. 直腸内与薬 ＊グループ演習も実施	デモンストレーション 実技
第3回 第4回	注射による与薬方法の実際	1. 注射の基礎知識 2. 注射による与薬の留意点 3. 安全な注射の実施法（皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射の方法）	講義 デモンストレーション 動画視聴
第5回 第6回	注射の実施①	1. 皮下注射 2. 筋肉内注射	実技
第7回 第8回	輸血管理	1. 輸血技術の基礎知識 2. 血液製剤の取扱いの留意点 3. 援助の実際	講義 実技
第9回 ～ 第11回	注射の実施②	1. 静脈内注射 2. 点滴静脈内注射	実技
第12回	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	1. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い時の留意点、観察項目 ＊実際の取扱いについては、「ME 機器取り扱い」「医療安全」で演習する	講義 グループワーク
第13回	終講試験・まとめ	「与薬の技術」「診察・検査の技術」2単元の終講試験まとめ	筆記試験

単位認定の方法	1. 与薬技術26時間と診察・検査14時間、合計40時間中28時間以上の出席があること。 2. 筆記試験（与薬の技術60点、診察・検査の技術40点）100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅴの単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	専門基礎分野：看護薬理学、臨床判断Ⅰ	1年次後期
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠ	1年次前期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ　フィジカルアセスメントⅡ	2年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は看護実践の中でリスクの高い薬物療法時の看護について学習する。演習時は注射針を扱うので十分に注意して臨むこと。	
実務経験の内容	看護師、専任教員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	基礎看護技術Ⅴ （診察・検査）	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	40時間（内14時間）	講師名	梶野 恵美子
科目概要		診療補助に関する技術は、看護業務の重要な位置づけである。臨床での実践力に対応するために、根拠をもった技術習得を目指す。（与薬の技術、診察・検査技術）			
科目目標		1. 薬剤に伴う法的責任を理解し、薬物を正しく管理する方法を説明できる。 2. 指示された薬物を安全・適性に与薬する技術を習得する。 3. 検査の種類と検体検査の意味を述べることができる。 4. 診療に伴う看護の基本的役割を説明できる。 5. 科学的根拠に基づいた診察・検査時の援助技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	診察・検査の基礎知識	1. 診察・検査の目的と意義 2. 診察・検査時の看護師の役割 3. 検体検査の種類と検査データの考え方	講義
第2回	身体計測	1. 身体計測の意義と方法	講義 実技
第3回	検体検査の方法①	1. 尿・便・喀痰検査 2. 血液検査 3. 検体の取り扱い	講義
第4回	検体検査の方法②	1. 静脈血採血の目的、必要性、技術、 2. 注射器具の取り扱い 3. 簡易血糖検査 4. 針刺し事故時の対応	講義 デモンストレーション 協働学習
第5回 第6回	静脈血採血の実施 検尿の実施	1. 静脈血採血 2. 検尿 3. 検体（尿・血液）の取り扱い	実技
第7回	侵襲を伴う検査の看護	1. 検査（侵襲）時の看護（骨髄穿刺、腰椎穿刺、胸腔穿刺、腹腔穿刺時の看護）	講義 デモンストレーション
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 基礎看護技術Ⅴ与薬技術26時間と診察・検査14時間、合計40時間中28時間以上の出席があること。 2. 筆記試験（与薬技術60点、診察・検査40点）合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅴの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅰ	1年次後期
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠ	1年次後期
	専門基礎分野：臨床判断Ⅱ 専門分野：フィジカルアセスメントⅡ	2年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ、医学書院

授業要項

受講上のアドバイス	診療補助に関する技術について、診察・検査の方法や看護師の役割について学びます。採血の演習時は、血管や神経の走行など解剖生理を理解した上で臨むこと。また採血針を扱うため取り扱いには十分注意しましょう。
実務経験の内容	看護師、専任教員

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	保健指導技術	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	石牟礼 ゆかり
科目概要		看護活動の場は地域へと広がり、あらゆる健康状態の人々を対象に、一人ひとりの健康に対する考え方を尊重し、生活の質を含めて継続的な支援が求められる。この科目は、人々の健康に関する考え方や価値観を尊重しながら、その人に会った目標設定と保健行動を促すために、看護における教育的な働きかけを学ぶ。教育・指導の基礎的な知識と根拠をもった技術の習得を目指す。			
科目目標		1.看護における保健指導の目的と意義を述べることができる。 2.さまざまな場で行われる保健指導と基本的な考え方について説明できる。 3.指導過程の実際を体験し、指導技術を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	健康教育と看護の役割	1.セルフケアの概念と教育 2.看護師の役割としての学習支援 関連する主要法令と基準・規定 ヘルスプロモーションと健康教育 3.学習理論 4.看護の学習支援の目的と対象者 5.看護の学習支援の場	講義
第2回	学習支援の実際	1.教育の方法 2.学習支援の進め方 3.教材 4.指導のプロセスに影響を及ぼす因子 5.わかりやすい説明の仕方	講義
第3回	学習支援の具体的内容の理解	1.テーマの設定 2.目標の設定、目標達成するための教育内容の設定 3.指導の展開計画（導入・展開・まとめ） 4.実施、評価 5.演習オリエンテーション	講義 個人ワーク
第4回 第5回	指導技術の展開、演習の実際:「集団指導」の取組 指導案・指導計画の作成	1.「集団を対象とした学習支援」に各グループで取り組む:25分の健康教育を実施する 2.テーマごとに作成(例) ①母親同士の仲間づくりも視野に入れた育児教育 乳児の事故防止 ②小学1年生を対象にした健康教育 インフルエンザ予防 ③中学生を対象にした健康教育 喫煙・飲酒と健康、心の健康 ④労働者の生活改善を視野に入れた健康教育 生活習慣病予防 ⑤いつまでも生き生きと住み慣れた地域での暮らしを視野に入れた介護予防教室 認知症予防、骨粗しょう症予防	GW
第6回 第7回	教材づくりリハーサル	1.指導目標達成のための教材づくり	演習
第8回 第9回	健康教育の実施、評価	1.各グループの健康教育の実施、評価 25分の健康教育を模擬集団に実施	実技

授業要項

第 10 回		2. 評価	
第 11 回 第 12 回	指導技術の展開:「個別指導」の取組	1.　「個人を対象とした学習支援」に各グループで取り組む:20 分の健康教育を実施する(慢性期疾患の患者) 2. 対象に必要な学習支援を考える（指導アセスメント） 3. 指導過程:発達段階や社会的背景を考慮した目標の設定、教育内容の設定、教材の工夫	演習
第 13 回 第 14 回	個別指導の実際、評価	1. 個別指導の実施、評価	実技
第 15 回	終講試験　まとめ	1. 筆記試験 2. まとめ	筆記試験 まとめ

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 演習成果含む筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは保健指導技術の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：コミュケーション論、教育学	1 年次
	専門分野：看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論	1 年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅱ、母性看護学実習等で実践	2 年次～ 3 年次
事前・事後学習	各看護学概論の学びと統合しながら学ぶ。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学Ⅰ　医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、看護師に必要な健康支援能力を身につけるための基礎的な知識や技術を学んでいきます。これからは病気で療養する人々への教育支援だけでなく地域で暮らす人々の健康支援も求められています。この授業は、学生の主体的・創造的学習をねらいます。指導過程について具体的に学び、対象のニーズをとらえた健康教育が実践できるよう頑張りましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　　専任教員経験 10 年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	看護過程の基礎	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	30時間	講師名	中村 栄子
科目概要		ヘンダーソンの看護理論をもとに、問題解決のプロセスとしての看護過程の展開方法を学び、論理的・科学的根拠に基づいて看護実践できるための基礎的能力を身につける。			
科目目標		1. 看護を科学的・創造的に実践するための方法について、ヘンダーソン看護理論をもとに理解し活用することができる。 2. 看護過程の構成要素がわかり、展開に必要なプロセス（思考技術）を習得する。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 第2回	看護過程の基礎となる看護の考え方	1. 看護とは何か 2. 看護過程と何か「５つのステップ」 3. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 4. 課題解決に有効な基礎知識 ～これまでの学習をつなぐ～ ☆事前課題 ヘンダーソン看護理論を再度読み解く「主要概念について」	講義
第3回	ヘンダーソン看護論に基づく看護過程学習の進め方	1. ヘンダーソン理論の看護過程 2. 「人間」「環境」「健康」「看護」と看護過程の各ステップへの考え方	講義
第4回 ～ 第6回	看護過程の実際１ 「看護に必要な情報とは」	1. 看護に必要な情報とは 2. AML 患者の事例を用いて患者さんからどんな情報を集めていくか 3. 看護情報の種類（主観的情報、客観的情報） 4. 患者の全体像把握するために 当校のデータベースシートの枠組み「ヘンダーソンとゴードンを活用した枠組み」を活用する	講義 演習
第7回 ～ 第9回	看護過程の実際２ 「アセスメントプロセス」	1. アセスメントとは（情報の持つ意味を解釈する） 2. ①充足・未充足の判断　②未充足ニードの要因分析　③成り行き　④看護援助の方向性を導く 3. アセスメント訓練 未充足ニードの誘因分析の方法 「体力」「意思力」「知識」に着目する 4. 看護問題の抽出まで ☆夏休み課題 事例の情報整理及びＡ～L までのアセスメント	講義 演習
第10回 ～ 第11回	看護過程の実際３ 「全体像の把握」 看護関連図の作成	1. 看護関連図に全体像を示す過程 2. 作成のポイント	講義 演習
第12回	看護過程の実際３ 「問題リストの作成」 「優先順位の決定」	1. 問題リスト作成の目的、記載方法 看護問題の整理(未充足問題と原因・誘因の整理) 2. 看護問題の優先度の決定の方法	講義 演習
第12回 第13回	看護過程の実際４ 「計画立案」 看護目標の設定と計画	1. 期待される成果、目標の設定 2. 看護計画の立案 看護問題の原因・誘因を解決するプランを導く	講義 演習

授業要項

第 14 回	看護過程の実際５ 実施と評価	1. 実施 計画の実施と実施記録 2. 評価（日々の評価と看護要約の意味）	演習
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 課題（紙上事例を用いた看護過程の展開）評価 50 点、筆記試験 50 点、合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護過程の基礎の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：心理学、コミュニケーション論	1 年次前期
	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ～Ⅵ、看護薬理学、看護栄養学、 社会福祉Ⅰ、臨床判断ⅠⅡ	1 年次前期 ～ 2 年次前期
	専門分野：看護学概論、フィジカルアセスメントⅠⅡ 基礎看護技術Ⅰ～Ⅴ、保健指導技術 成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ 老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 臨地実習：基礎看護学実習Ⅱ、成人・老年看護学実習（Ⅰ～Ⅲ）	1 年次～ 2 年次 2 年次後期～ 3 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ、医学書院（使用） 分かりやすい看護過程　黒田裕子（参考） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（参考）
受講上のアドバイス	この授業は、看護実践を科学的に行うための思考過程を学ぶ。看護学概論などで学習した看護、人間、健康、環境などの主要概念の理解が必要です。また、身体的な健康状態を判断するためには、機能病態学などの知識や看護学概論、フィジカルアセスメントなどの学びを統合させていく力が必要です。 この授業で学び取る看護実践プロセスを活用して基礎看護学Ⅱ実習でしっかりと基盤づくりを行ないます。実習で受け持つ患者の事例を活用しながら進めて行きます。関心をもち自主的に学んでもらいたい。
実務経験の内容	助産師、専任教員　専任教員経験 10 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	看護研究	単位数	1単位
時期	3年次前～後期	時間数	30時間	講師名	中村 栄子
科目概要		看護実践における批判的吟味をすることの重要性や看護研究の意義、方法を理解し、看護の専門性や独自性を追及する姿勢を養う			
科目目標		1. 看護実践における研究の意義、方法を理解する。 2. 自己の看護実践を振り返り、質の高い看護を追及する姿勢と基礎的実践力を身につける。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護実践における看護研究の意義	看護研究とは 看護研究の意義 看護研究の流れ(テーマ決定～発表までのプロセス)	講義
第2回	看護研究のはじめ方と研究デザイン	リサーチクエスチョンを探す 研究デザインの選択(質的研究と量的研究)	講義 GW
第3回	文献検索の意義と実際	文献レビューとその目的 文献検索の方法と実際(Web検索演習)	講義 演習
第4回	研究における倫理的配慮とデータの収集・分析	研究倫理とは 研究の倫理的配慮 データ収集・分析(質的データ・量的データ)	講義
第5回	研究計画書の作成	研究計画書とは 研究計画書の書式と書き方 仮のリサーチクエスチョンにもとづいて、研究計画書を作成する(GW)	講義 演習(GW)
第6回	論文のまとめ方	研究成果の公表方法 論文のまとめ方 発表方法	講義
第7回 ～ 第8回	文献クリティークの実践	文献クリティークの目的と方法 文献クリティークの実践(GW)と発表 (課題の文献をもとに実践する)	講義 演習(GW)
第9回	「研究力をつける」 ケースレポートの意義と進め方 研究計画書の作成	ケースレポートの意義 ケースレポートの進め方 テーマの決定と計画書作成の進め方 自己のテーマの決定と計画書作成 (夏季休暇前までに済ませる) ＊夏季休暇中にケースレポートの作成を進める	講義
第10回	ケースレポートの作成	自己のテーマをもとにケースレポートを書く	個人ワーク
第11回	ケースレポートのクリティーク	ケースレポートのクリティークの実践 自己のケースレポートの修正	GW 個人ワーク
第12回	発表用原稿作成	発表用原稿作成 発表の練習	個人ワーク GW
第13回 ～ 第14回	ケースレポート発表	ケースレポートの発表 発表後の自己評価・他者評価	発表
第15回	終講試験　まとめ	終講試験 まとめ	筆記試験

授業要項

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 40 点、課題（ケースレポート）60 点合わせて 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護研究の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：看護における情報科学Ⅰ　論理的思考の基礎	1 年次前期
	専門分野：　看護過程の基礎	2 年次前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院 やさしく学ぶ看護理論　日総研	
受講上のアドバイス	この授業は看護実践における看護研究の必要性や方法を理解し、実際に実習で受け持たせて頂いた対象のケーススタディを行います。この一連の過程を通して看護師として必要な研究的視点を学び、看護の専門性や独自性を追求する姿勢を養う重要な授業です。	
実務経験の内容	助産師、専任教員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**		**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	地域と暮らし	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	15時間	講師名	飯田 かずよ
科目概要		学生の身近にある人々の暮らしから看護の学びを始める科目である。 文化人類学で学ぶ多様な文化の中で育まれる価値観を持つ人間の理解をふまえ、人々の暮らしの基盤に地域があることを、体験を通して学習する。更に、地域の一員としての自己を再認識し、地域住民の一員としての自己の責務や役割について考える科目とする。			
科目目標		1. 自分が日常を営むことや暮らすこととは何か考え、地域の特性を再確認することができる。 2. そこで暮らす人々の住まい方や生活上の工夫、健康について知り、述べることができる。 3. そこで暮らし生活する人々にとって地域の一員として大切にしている事や生き方に触れ、述べることができる。 4. 地域の概念、捉え方について、自己の考えを述べることができる。 5. 地域で生活する一員としての自己の責務や役割について考え、述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	暮らしとは 人々の暮らしの理解と看護	・自分達の暮らしとは、暮らしを構成するもの ・暮らしの中で自分が大切にしていること ・暮らしが脅かされる状況とは ・家族と暮らし	グループワーク
第2回	暮らしと地域	・自分の地域の大切な文化（人々の住まい方や生活上の工夫、健康の考え方等） ・自分の暮らしに影響をあたえていること、地域の文化 ・暮らしを支える看護の役割	講義 グループワーク
第3回	地域で求められる看護	・地域・在宅看護の対象 ・健康な暮らしの支援 ・予防とヘルスリテラシー ・セルフケアを引き出す支援 ・自助、互助、公助、共助の考え方	講義 グループワーク
第4.5回	地域とは 暮らしと地域 システムとしての地域・家族	・地域とは、地域の概念 ・地域の多様性 ・システム論 ・地域のホメオスタシス	講義 グループワーク
【夏季課題】	自分の住む地域の紹介と看護の役割	自分の住む地域について、地域の紹介マップを作ってみよう。	PBL学習
第6.7回	暮らしや地域の文化の中で育まれる価値観	【課題】自分の住む地域の紹介と看護の役割 ・地域の特性が人々の暮らしや健康に与える影響 ・地域の文化、生活の知恵、考え方、地域への愛着 ・文化の中で育まれる人々の価値観	発表 グループワーク
第8回 1時間	まとめ 終講レポート	・授業を通しての学び ・地域での暮らしを支える看護 ・地域の一員としての自己の役割	レポート作成

授業要項

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. ＰＢＬ学習やレポートで 100 点満点。60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは「地域と暮らし」の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心　文化人類学	1 年次前期
	基礎分野：家族社会学	1 年次後期
	専門分野：地域・在宅看護論の各科目へつなぐ	1 年次後期～
事前・事後学習		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤　医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では、自分の住む地域や学校周辺について調べ、地域の文化や特性、強みを知り、発表会での共有を通して、文化の中で育まれる人々の多様な価値観を実体験し考えを深めてほしい。 また、地域に住む一人として自己を認識し住民の一人としての責務と役割を考えてほしい。	
実務経験の内容	看護師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	家族看護	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	15時間	講師名	中窪 尊子
科目概要		基礎分野の家族社会学での学習をふまえ、理論や家族モデルを活用しながら家族全体を看護ケアの対象として位置づけ、家族の発達課題や全体像を捉える方法を学ぶ。 更に、家族の主体性を尊重しながら、家族のセルフケア能力やエンパワーメントを最大限に引き出す基本的な援助方法について学ぶ。			
科目目標		1. 家族を看護の対象として位置づけ、家族全体を看護することの意味と必要性を説明することができる。 2. ジェノグラム・エコマップの作成を通じて、家族アセスメントモデルに基づいた家族構造や　家族の機能を述べることができる。 3. 家族機能の変化に対する家族のセルフケア能力を知り、家族が成長する存在であると述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	家族を看護するということ	看護の対象としての家族 家族のとらえ方 家族を看護するということ	講義
第2回	家族を看護するということ	家族の力を把握し、理解する方法 1）ジェノグラムを用いた家族の把握 2）エコマップを用いた家族を支える資源の理解 3)家族のセルフケア能力	講義 GW
第3回	家族の病気体験を理解する	家族員の病気体験の理解 家族の苦悩・情緒的反応 家族の生活への影響・療養マネジメント 家族のニーズ	講義
第4回	家族との援助関係	援助関係とは 看護者に求められる基本的姿勢 家族とのコミュニケーションにおける留意点	講義
第5回	家族への看護アプローチ	家族のセルフケア支援 家族の役割調整 家族関係の調整・強化、家族内コミュニケーションの活性化	講義
第6回	家族への看護アプローチ	家族の対処行動や対処能力の強化	講義
第7回	家族看護における看護者の責務	社会資源の活用 家族看護における看護者としての責務と役割	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること 2. 筆記試験80点、演習課題20点で100点満点、60点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは家族看護学の単位を取得できる

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：慈愛の心、コミュニケーション論、文化人類学	1年次前期
	基礎分野：家族社会学	1年次後期

授業要項

	専門分野：暮らしを支える看護Ⅰ	1年次後期
事前・事後学習	その都度指示します。事前にテキストを読んで臨んでください。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　家族看護学　医学書院	
受講上のアドバイス	この授業では、看護の対象としての家族について学び、家族をケアする意味や方法を学んでいきます。講師の臨床での家族看護の経験や事例から多くの学びが得られると思います。また、家族を理解するための演習（ジェノグラムやエコマップの作成）や家族のエンパワーメントを最大限に引き出す支援などの講義を通して、家族への看護を深めていきましょう。	
実務経験の内容	看護師　緩和ケア認定看護師　いづろ今村病院副看護部長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	暮らしを支える看護Ⅰ	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	35時間	講師名	飯田 かずよ
科目概要		1年次の地域と暮らしの学習や看護学概論を基盤に、僻地・島しょで暮らす人々とのコミュニケーションや医療の実際の体験を通して、地域で生活、暮らしていく中での地域資源について理解を深める科目とする。更に、地域の人々の健康の維持、「未病」のための支援の必要性や課題について考え、看護者としての役割や活動の場、方法を学ぶ。			
科目目標		1. 地域包括ケアの概念、考え方を述べることができる。 2. その土地や地域の特性が、生活する人々の健康や生活への支援方法へ影響があることを述べることができる。 3. 僻地・島しょ医療の医療保健福祉や地域包括ケアシステムの実際を知り、述べることができる。 4. 地域での看護職の役割や活動の実際に触れ、地域での暮らす人々との関わりや支援を述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 第2回	多様な地域	鹿児島県内の地域 地域における地域包括ケアシステムとは	講義
第3回	僻地・島しょ医療について	僻地・島しょ地域の生活と医療について調べ学習	講義 グループワーク
第4回 ～ 第11回	僻地・島しょ医療について 地域体験	僻地・島嶼医療について地域体験演習　2日間 ・地域の人々の暮らしと地域の特性、価値観 ・地域の文化と生活者としての健康観 ・地域の特性と人々の暮らしを支援する地域の資源の調べ学習（GW） ・地域包括ケアマップの作製 ＊地域の人々とのコミュニケーションや僻地･島しょの医療福祉職を含む地域の方々との交流や地域調べ学習を通して、学びを深める	地域体験実習 地域住民とのコミュニケーション 協働学習
第12回 第13回	演習での学びの共有	地域の暮らしと地域包括ケアの実際（発表会）	発表
第14回		地域包括ケアの実際を通しての学び　看護の役割	まとめ
第15回 第16回	地域・在宅看護の対象者	地域・在宅看護の対象者 暮らしと健康	協働学習 講義
第17回	地域における看護師の役割	暮らしを支える看護者の役割	協働学習 まとめ
第18回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 35時間中24時間以上の出席があること。 2. 筆記試験50点、僻地・島しょ演習課題50点で100満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは暮らしをささえる看護Ⅰの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1年次全期

授業要項

	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ（1年次)、総合保健医療論Ⅰ	2年次後期
	専門基礎分野：綜合保健医療論Ⅱ	3年次
	専門分野：地域・在宅看護論「地域と暮らし」「家族看護学」	1年次
	臨地実習：基礎看護学Ⅰ―1（看護の場を知る実習）	1年次前期
事前・事後学習	1年次前期で学んだ看護の場を知る実習や地域と暮らしの学びを整理する 地域・島しょ調べ学習（事前準備） 事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　在宅看護論　医学書院 参考文献	
受講上のアドバイス	この授業では、へき地や島しょでの体験活動を通して、地域の健康を支援する地域包括ケアシステムの実際について理解を深めます。事前に自分の体験する島しょや地域をしっかり調べ特徴を理解した上で臨みましょう。 　また、地域で活躍する看護職の考え方や役割、活動の実際にふれ、地域における看護職の役割について深く考えてほしい。 　1 年次前期で学んだ看護の場を知る実習や地域と暮らしの学びを土台にして学びましょう。	
実務経験の内容	専任教員　地域・在宅看護論担当　看護師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	暮らしを支える看護Ⅱ	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	15時間	講師名	森重 サユリ
科目概要		「暮らしを支える看護Ⅰ」での経験や地域の人々との関わりを通じて、地域の特性に応じた看護者の役割や活動の重要性を理解し、あらゆる場において対象者の「生きる」ことを支える看護活動の基本を学習する。 あらゆる場での看護活動の現状を理解し、利用者・家族の権利や意志を尊重する訪問看護師としての使命を習得する。更に、地域包括ケアシステムの一員としての価値観や感性を育む。			
科目目標		1. 在宅看護の変遷とその背景について述べることができる。 2. 在宅看護の特徴、対象者、活動の場を説明できる。 3. 利用者やその家族を支える地域包括ケアシステムや社会資源の活用の方法を説明できる。 4. 在宅という環境において、療養する利用者の「生きること」を支える看護を探求する姿勢の重要性を述べることができる。 5. 訪問看護師としての使命や療養生活支援の専門家としての誇りや自律性を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	在宅療養の支援	1. 保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史 2. 在宅療養の支援 在宅看護の提供方法 療養の場の移行 在宅看護の基本となるもの 3. 在宅療養における連携の特徴	講義
第2回 第3回	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用①	１．訪問看護制度	講義
第4回	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用②	１.介護保険制度 資源の活用を学ぶ。	講義
第5回	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用③	1. 障害者基本法 2. 障害者総合支援法 関連する法律：児童福祉法、身体障害者福祉法、精神保健福祉法、知的障害者福祉法、難病法	講義
第6回	訪問看護倫理綱領①	1. 訪問看護の対象者の権利 2. 訪問看護師の使命、「療養生活支援の専門家」としての誇りと自律性	講義
第7回	訪問看護倫理綱領②	1. 訪問看護師としてのチームケア 2. 地域共生社会	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

事例を活用し具体的に

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは暮らしを支える看護Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ	1年次後期

授業要項

	専門分野：看護学概論、看護倫理	1年次前期～ 2年次前期
	専門分野：地域と暮らし、家族看護他地域・在宅看護論の科目	1年次～ 3年次前期
	臨地実習：在宅療養支援実習Ⅰ	2年次後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、「暮らしを支える看護Ⅰ」での学習を基に、あらゆる場で人の「生きる」ことを支える看護活動の基本や訪問看護師の役割や使命を学んでいきます。 この授業を通して、地域包括ケアシステムの一員としての価値観や感性を身につけられるようしっかりと授業に臨んでください。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　訪問看護師経験	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	在宅療養を支える看護Ⅰ	単位数	1単位
時期	2年次後期	時間数	20時間	講師名	森重・飯田
科目概要		在宅で療養する利用者に対する具体的な看護実践の方法を理解し在宅ケアチームの中の看護者として「つなぐ」支援の必要性を学習する。 地域で看護活動する上で社会情勢の動向に合わせ、あらゆる場で生活する利用者の権利を守り、意志決定支援に携わる専門職者としての基礎的知識の習得を目指す科目である。 更に、高齢社会での在宅療養の現状を事例によってイメージし、在宅療養支援実習Ⅰへつなげる。			
科目目標		1. 在宅看護の対象者の権利を理解し述べることができる。 2. 地域包括ケアシステムや在宅ケアチームの一員としての役割や活動について述べることができる。 3. 利用者や家族の意志決定に関わる情報提供の仕方や支援方法を説明できる。 4. 地域の利用者が安心して暮らせるために多職種が連携協働し支援していくための方法を述べることができる。 5. 在宅で療養する利用者やその家族への支援を「つなぐ」専門職の一員としての活動の必要性を述べるこができる。 6. 地域で求められる看護実践の実際をイメージし述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	在宅看護における権利保障①	1. 個人の尊厳 2. 権利擁護 3. 意思決定支援	講義
第2回	在宅看護における権利保障②	4. 個人情報の保護 5. 成年後見制度 6. 虐待の防止	講義
第3回 第4回	ケアマネジメントと社会資源の活用	1. ケアマネジメントの要素、機能、過程 2.社会資源(フォーマル､インフォーマルなサービス)	講義 演習
第5回	地域における多職種連携	1. 地域における多職種連携 2. 医師との連携 3. 地域の社会資源との連携（地域包括ケア会議） 4. ネットワークづくり	講義
第6回 ～ 第9回	高齢の利用者への在宅看護の展開	1. 在宅看護過程展開のポイント 2. 高齢者の在宅看護の実際（視覚教材） 3. 高齢者の在宅看護の展開（GW） （高齢者の特徴、老々介護、権利保障、各制度の活用）	講義及び演習
第10回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 20時間中14時間以上の出席があること。 2. 筆記試験100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは在宅療養を支える看護Ⅰの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ、総合保健医療論Ⅰ	1年次後期～

授業要項

		2年後期
	専門分野：看護学概論、看護倫理	1年次前期～ 2年前期
	専門分野：地域と暮らし、家族看護他地域・在宅看護論の科目	1年次～ 3年次前期
	臨地実習：在宅療養支援実習Ⅰ	2年次後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、在宅で療養する対象への看護実践の基礎的知識や看護を展開する方法などを学んでいきます。実習のイメージが持てるよう実際に介護支援専門員の方の講義もあります。また、視覚教材を活用して在宅で療養する対象への看護が理解できるよう進めて行きます。 実習で学びが統合できるよう積極的に学んでください。	
実務経験の内容	専任教員　地域・在宅看護論担当　看護師 ケアマネジャー	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	在宅療養を支える看護Ⅱ	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	30時間	講師名	飯田・森重
科目概要		様々な疾患や障害により、在宅療養支援が必要な療養者と家族に対して日常生活を支える看護技術や医療的ケアにおける看護技術等の在宅看護の方法を理解する。 対象及び家族の生活の仕方や価値観に思いを寄せ、その人らしく暮らすことを支えるチームとしての自律性が理解できる。また、在宅終末期、看取りの援助の実際や多職種との連携、利用者・家族と取り巻くチーム支援の方法を深める。			
科目目標		1. 訪問看護に関わる基本技術を述べることができる。 2. 在宅看護過程の特徴を理解し、利用者やその家族の意向、価値観に寄り添った援助の必要性を述べることができる。 3. 事例を通して在宅看護実践での工夫や個別性､自立/自律に向けた援助や家族への支援を述べることができる。 4. 演習やＧＷを通じて在宅療養を続ける利用者、家族への支援に対する自己の考えを深め述べることができる。 5. 在宅における終末期、看取りの支援の援助について考え、在宅看護への感性を高めることができる。 6. 授業全体を通して地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能・役割を説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	訪問看護技術	1. 訪問看護導入時の支援 2. 訪問の手順と倫理、心構え、リスクマネジメント 3. 在宅療養における看護過程の特徴 ・療養者・家族の価値観や思いの尊重 ・ＩＣＦを用いた情報の統合	講義 （飯田）
第2回	在宅療養生活を支える基本的な技術	1. 在宅療養を支えるコミュニケーションの基本 2. 在宅におけるフィジカルアセスメントの基本 3. 在宅療養環境調整の基本 4. 生活リハビリテーションの基本 5. 在宅における感染防止の基本	講義 （飯田）
第3・4回	日常生活を支える看護技術	1. 在宅の場における食生活の支援 2. 在宅療養の場における排泄の基本 3. 清潔と更衣ケアの技術と実際	講義 （演習） （森重）
第5回	医療的ケアが必要な対象の看護	1. 医療ケアの原理原則 2. 在宅経管栄養法の看護 3. 在宅における輸液管理の実際 4. 気管カニューレ管理の実際	講義 （森重）
第6回	在宅看護の実際（演習）	1. HOT療法とＨＭＶの在宅看護 2. 福祉機器の理解	講義 （森重）
第7回 第8回	事例で学ぶ在宅看護の実際（家族支援含む）	4. 在宅酸素療法（ＨＯＴ）を受ける対象の看護 5. ＡＬＳの療養者の看護	演習 （森重）
第9回 第10・11回	在宅で終末を迎える療養者と家族の看護	1．在宅におけるターミナルケアの基本 ・症状マネジメント ・医療・介護チームの連携 ・家族ケア	講義 シミュレーション （飯田）

授業要項

		・麻薬の管理 ・自然死を迎える療養者のケア	
第 12 回	在宅療養を支える災害対策	1. 在宅療養における災害対策 2. 訪問看護師による災害時対応	演習 （森重）
第 13 回 第 14 回	地域で生活する精神障害を抱える療養者の支援	1. 精神訪問看護の実際 2. 事例の患者への支援実際	講義 （森重）
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義（森重）

単位認定の方法	1. 20 時間中 14 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは在宅療養を支える看護Ⅰの単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：文化人類学、家族社会学	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ、総合保健医療論Ⅰ	1 年次後期～ 2 年前期
	専門分野：看護学概論、看護倫理	1 年次前期～ 2 年前期
	専門分野：地域と暮らし、家族看護他地域・在宅看護論の科目	1 年次～ 3 年次前期
	臨地実習：在宅療養支援実習Ⅱ	2 年次後期

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、生活モデルかつ地域完結型を見据えた、次世代の看護職が育てられるよう、在宅看護ならではの技術に焦点を当て学んでいきます。講義は実際、訪問看護師として実践されている看護師の講義です。先生の経験豊富な事例や体験を通じて学びます。在宅看護の実践がリアルに学べると思います。 地域への関心を高め、看護の感性を磨きましょう。
実務経験の内容	専任教員　地域・在宅看護論担当　看護師　訪問看護師経験有

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学概論	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	納瀬 綾
科目概要		成人期にある人の特徴と発達課題、成人期に有用な概念、健康に影響する因子や健康の段階における基本的な看護の役割について学び、その人にとっての最適な健康を促進・維持させるための看護について学ぶ。さらに、1年次の保健指導技術の学びをもとに、我が国の人口動態や成人期の対象者の保健をふまえ、患者教育の実際を学ぶ。			
科目目標		1. 成人の生物学的、心理学的、生活形態的特徴を学び、成人期の対象を総合的に述べることができる。 2. 成人期にある対象の健康に影響する因子と健康を保持・増進するための看護の役割を述べることができる。 3. 健康の段階に応じた対象・家族の身体的・心理的・社会的変化を学び、各期の問題点や援助の特徴を説明することができる。 4. 病期の経過に伴う看護の役割、方法を述べることができる。 5. 健康を保持増進させるための健康教育・患者教育について考察できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	成人看護学の基本的な考え方 成人の生活、成人を取り巻く環境	1. 成人看護学の対象 2. 成人看護学と他看護学との関連、全体構築 「成人（おとな）とはなにか」「成人であるということ」 3. 社会状況の変化 4. 生活様式、家族形態と機能	講義
第2回	成人期の発達課題の特徴①	1. 青年期・壮年期・向老期の身体的・心理的・社会的特徴	講義 GW
第3回	成人期の発達課題の特徴②	2. 青年期・壮年期・向老期にある人の健康問題	講義 GW
第4回	成人保健の意義、動向	1. 成人保健を学ぶ意義 2. 成人保健の学習目標 3. 成人保健の動向 4. 人口動態、静態	講義
第5回	成人における健康の保持・増進や疾病予防①	1. 「生活習慣に関連する健康問題」 ①健康問題と推移 ②生活習慣の是正	講義
第6回	成人における健康の保持・増進や疾病予防②	1.「職業に関連する健康問題」 ①就業条件と環境と疾病との関係 ②職業疾患の要因と健康診断の受診状況 2. 「ストレスに関連する健康問題」 ①ストレス関連疾患の要因 ②ストレス対処法	講義
第7回	成人における教育指導	1. 大人の学びの特徴 2. 成人教育学の概念 3. 事例を用いて個別の指導を考える	講義
第8回	経過別とは	1. 経過別看護の考え方 2. 急性期、回復期（リハビリテーション）、慢性期、終末期とは	講義

授業要項

	急性期にある患者と家族の特徴と看護	3. 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 4. 急性期における看護の基本 ①危機的状態への精神的支援（危機理論、ストレスコーピング） ②治療の緊急性と優先度 ③治療選択・意思決定への支援 ④代理意思決定支援	
第 9 回	急性期身体侵襲 救急看護・クリティカルケア	1. 急性期における身体への侵襲と回復過程 2. 救急看護・クリティカルケアの基本と重要性	講義
第 10 回	回復期（リハビリテーション）とは	1. 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 2. 回復期（リハビリテーション）看護の基本 ①リハビリテーション（定義、看護の役割、機能障害と分類） ②セルフケア能力の獲得（セルフケア理論） 3. 障害受容過程と看護 ①チームアプローチと社会資源の活用	講義
第 11 回	慢性期とは①	1. 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 ①慢性疾患の特徴 ②慢性疾患と共にある生活 ③病みの軌跡	講義
第 12 回	慢性期とは②	1. 慢性期看護の基本 ①セルフケア・自己管理を支える看護（ｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄ） ②アドビランスや主体性の尊重 ③社会支援への看護	講義
第 13 回	終末期にある患者および緩和を必要とする患者と家族への看護	1. 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 ①全人的苦痛 ②死の三徴候 2. 終末期看護の基本 ③QOL の考え方 ④エンド・オブ・ライフ・ケア	講義
第 14 回	がん患者と家族への看護	1. がん患者の抱える苦痛 2. がん患者の治療と看護 3. がん患者の社会参加への支援	講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学概論の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：家族看護学、文化人類学、慈愛の心	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ、公衆衛生学	1 年次後期～ 2 年次前期
	専門基礎分野:総合保健医療論Ⅰ	2 年次後期
	専門分野：基礎看護学「保健指導技術」	1 年次後期

授業要項

	専門分野：成人看護学各援助論及び成人看護学実習各論へ活かす	2 年次～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、多様な社会的役割を担う成人期にある対象に関心を持ち、成人期の持つ多様な健康問題を理解していきます。また、看護に必要な有用な概念等学び、対象や家族のニードに応えられる能力を身につけていきます。 さらに、この授業は、1 年次に学習する保健指導技術や成人看護学援助論の基礎をつくる科目でもあります。学習を積極的に行い、臨地実習へ繋げていきましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　看護師臨床経験 10 年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅰ ～呼吸機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内16時間）	講師名	越口 晋伍
科目概要		生命に直結する、呼吸・循環機能の障害の特徴と急激な健康破綻が生じた対象の状態変化に合わせて早期に対応できるための看護の方法について学ぶ。			
科目目標		1. 呼吸機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 循環機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	呼吸機能障害の原因と障害と程度のアセスメント	1. 酸素化障害 2. 換気障害 3. 呼吸運動障害 4. 生命・生活への影響「呼吸障害のある患者の看護」「呼吸障害とケア」	講義 GW
第2回	検査・処置を受ける患者の看護①	1. 動脈血ガス分析 2. 呼吸機能検査 3. 胸腔穿刺 4. 肺生検 5. 気管支鏡検査	講義
第3回 第4回	検査・治療を受ける患者の看護②	1. 体位ドレナージの実際 2. 胸腔ドレーンの看護	演習
第5回	治療を受ける患者の看護③	1. 非侵襲的陽圧換気 2. 侵襲的陽圧換気「人工呼吸療法」「人工呼吸器を装着する患者の看護」	講義
第6回	病期や機能障害に応じた看護①	1. 気管支喘息患者の看護 2. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義
第7回	病期や機能障害に応じた看護②	1. 肺炎患者の看護 2. 肺がんの看護 （肺葉切除を受ける患者の看護）	講義
第8回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅰの「呼吸機能障害看護」「循環機能障害看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 「呼吸機能障害看護」50点、「循環機能障害看護」50点、で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅰの単位を取得できる。

関連科目		履修時期
関連科目	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅰ「呼吸機能」、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ、看護栄養学	1年次～ 2年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅰ「呼吸・循環を整える技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅰ「急性期の看護実践」等	3年次

事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅰ、臨床判断Ⅱ、基礎看護学Ⅰの「呼吸」に関する学習内容は

授業要項

	整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学②　呼吸器、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、1 年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅰ「呼吸機能と病態」、臨床判断Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ「呼吸・循環を整える技術」をふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。また、本授業は臨床の集中ケア認定看護師が行います。 臨床看護を学ぶ機会です。疑問に思ったことは積極的に質問してください。
実務経験の内容	看護師　集中ケア認定看護師

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅰ ～循環機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内14時間）	講師名	福元 優一
科目概要		生命に直結する、呼吸・循環機能の障害の特徴と急激な健康破綻が生じた対象の状態変化に合わせて早期に対応できるための看護の方法について学ぶ。			
科目目標		1. 呼吸機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 循環機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	循環障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護	1. ポンプ機能障害 2. 刺激伝導系 3. 血管・リンパ障害 4. 浮腫・脱水 5. 生命・生活への影響	講義
第2回	検査・処置を受ける患者への看護①	1. 心電図アセスメントと装着時の看護 2. 心エコー検査	講義
第3回	検査・処置を受ける患者への看護②	1. 血管造影検査の看護 2. 心臓カテーテル検査時の看護	講義
第4回	治療を受ける患者の看護①	1. ペースメーカー埋め込み患者の看護 2. 大動脈内バルーンパンピングの看護	講義
第5回	治療を受ける患者の看護②	1. 開心術を受ける患者の看護 冠動脈バイパス術、PCI、弁置換術、植え込み式除細動器、血栓溶解	講義
第6回	病期や機能障害に応じた看護①	1. 心不全患者の看護 2. 虚血性心疾患患者の看護	講義
第7回	病期や機能障害に応じた看護②	1. 下肢動脈閉そく症の看護 2. 不整脈患者の看護	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅰの「呼吸機能障害看護」「循環機能障害看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 終講試験50点配点。成人看護学援助論Ⅰは「呼吸機能障害看護」50点、「循環機能障害看護」50点、で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは、成人看護学援助論Ⅰの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅰ「循環機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1年次～2年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅰ「呼吸・循環を整える技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅰ「急性期の看護実践」	3年次

事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅰ、臨床判断Ⅱ、基礎看護学Ⅰの「循環」に関する学習内容は整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学③、循環器、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、1年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅰ「呼吸機能と病態、基礎看護技術Ⅰ「呼吸・循環を整える技術」をふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。
実務経験の内容	看護師　看護教員養成研修修了者 今村総合病院副看護師長　手術室、外科等臨床看護師経験

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅱ ～消化・栄養機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内18時間）	講師名	宝地 舞子
科目概要		生涯にわたり、疾病コントロールが必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。			
科目目標		1. 消化・吸収機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 栄養代謝機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 3. 糖代謝機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 4. 内分泌機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	消化吸収障害を持つ患者の看護 ・胃・十二指腸潰瘍の患者の検査・治療・看護	1. 消化器疾患の医療の動向と看護 2. 消化器系の構造と機能の復習 3. 胃・十二指腸潰瘍の機序の復習 4. 上部消化管内視鏡を受ける患者の看護 5. 上部消化管造影検査を受ける患者の看護 6. 胃・十二指腸潰瘍患者の生活指導	講義
第2回	・急性・慢性膵炎患者の検査・治療・看護	1. 膵臓の構造・機能の復習 2. 急性・慢性膵炎の機序の復習 3. 急性膵炎患者の看護（急性期・回復期） 4. 慢性膵炎患者の生活指導	講義
第3回	・潰瘍性大腸炎・クローン病の患者の治療･検査･看護①	1. 炎症性腸疾患（IBD）の機序の復習 2. 潰瘍性大腸炎とクローン病の比較 3. 下部消化管内視鏡検査を受ける患者の看護 4. 中心静脈栄養法を受ける患者の看護 5. 経腸栄養法を受ける患者の看護 6. 潰瘍性大腸炎の患者の生活指導	講義
第4回	・潰瘍性大腸炎・クローン病の患者の治療･検査･看護② ・イレウスの患者の治療・検査・看護	1. クローン病の患者の生活指導（急性期・寛解期） 2. 吐血・下血時の看護 3. 食生活・便通・ストレス・薬物療法 4. 腸閉塞（イレウス）の機序の復習 5. 嘔気・嘔吐時の看護 6. イレウスチューブ挿入中患者の看護	講義
第5回	栄養代謝機能障害をもつ対象の原因と障害の程度のアセスメント	1. 栄養代謝機能の役割と障害 2. 栄養機能障害の把握と看護 3. 栄養代謝障害がもたらす生命・生活への影響 4. 黄疸・腹水の看護 5. 低たんぱく血漿の看護 6. 肝性脳症	講義
第6回	栄養代謝障害をもつ対象への検査・処置の看護	1. 肝生検 2. 超音波検査 3. 内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP） 4. 肝動脈血管造影	講義

授業要項

		5. ICG 検査・チャイルドピュースコア	
第 7 回	栄養代謝障害をもつ対象への治療における看護	1. インターフェロン治療の看護 2. 胆嚢炎患者の看護 3. 経皮的胆管ドレナージの看護 4. 肝動脈塞栓術の看護 5. 食道静脈瘤内視鏡治療の看護	講義
第 8 回	栄養代謝障害をもつ対象への病期や機能障害に応じた看護①	1. 急性肝炎・慢性肝炎患者の看護 2. 肝硬変の患者の看護	講義
第 9 回	栄養代謝障害をもつ対象への病期や機能障害に応じた看護②	1. 肝臓がん患者の看護 2. 肝臓切除・エタノール注入療法・経皮的ラジオ波焼灼療法・マイクロ波凝固壊死療法・肝動脈塞栓療法（TAE）・化学療法（動注　含む）・肝移植	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅱの「消化・栄養機能障害看護」「糖代謝・内分泌看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 60 点配点。成人看護学援助論Ⅱは「消化・栄養機能障害看護」60 点、「糖代謝・内分泌看護」40 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅱ「消化吸収機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1 年次～2 年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅱ「食事援助技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1 年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅱ「慢性的な変化にある対象の看護実践」等に繋ぐ	2 年次後期

事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅱ「消化・吸収機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤　消化器　、医学書院 成人看護学⑥　内分泌・代謝、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、1 年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅱの消化吸収機能や栄養代謝機能と病態、臨床判断Ⅱ、基礎看護技術Ⅱ「食事援助技術」をふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。
実務経験の内容	看護師　看護教員養成研修修了者 いづろ今村病院　　消化器内科等臨床看護師経験

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅱ ～糖代謝・内分泌機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内12時間）	講師名	石牟礼 ゆかり
科目概要		生涯にわたり、疾病コントロールが必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。			
科目目標		1. 消化・吸収機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 栄養代謝機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 3. 糖代謝機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 4. 内分泌機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	糖代謝機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護	血糖調整機能の役割と障害 血糖調整機能障害がもたらす生命・生活への影響	講義
第2回	糖代謝機能障害をもつ対象の検査・処置の看護	1. 糖負荷試験（OGTT） 2. 自己血糖測定（SMBG） 3. 尿糖測定 4. 自己血糖測定　演習	講義 演習
第3回	糖代謝機能障害をもつ対象の治療の看護	1. 食事・運動療法 2. 糖尿病経口薬による治療 3. インスリン補充療法	講義
第4回	病期や機能障害に応じた看護	1. １型糖尿病の看護 2. ２型糖尿病の看護 3. 患者教育 4. 合併症に伴う看護（フットケア、シックディ）	講義
第5回	内分泌機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護及び検査時の看護	1. 甲状腺機能の役割と障害 2. 生命・生活への影響 3. ホルモン負荷試験 4. ホルモン血中・尿中測定	講義
第6回	内分泌機能障害をもつ対象の治療の看護 及び病期や機能障害に応じた看護	1. 甲状腺ホルモン療法 2. 甲状腺摘出術の看護 3. 甲状腺機能亢進症の看護	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅱの「消化・栄養機能障害看護」「糖代謝・内分泌看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 終講試験40点配点。成人看護学援助論Ⅱは「消化・栄養機能障害看護」60点、「糖代謝・内分泌看護」40点で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅱ「糖代謝・内分泌機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、Ⅱ	1年次～2年次

授業要項

	専門分野：基礎看護技術Ⅱ「食事援助技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅱ「慢性的な変化にある対象の看護実践」等に繋ぐ	2年次後期
事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅱ「糖代謝・内分泌機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤　消化器　、医学書院 系統看護学講座　専門分野成人看護学⑥　内分泌・代謝、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、1 年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅱの糖代謝機能や内分泌機能と病態、臨床判断Ⅱをふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員 糖尿病内科等臨床看護師経験	

修得する能力（DP）との関連

● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅲ ～腎機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内10時間）	講師名	梅本 ゆかり
科目概要		生涯にわたり、疾病コントロールが必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。 様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
科目目標		1. 腎機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 脳・神経機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 3. 運動機能に障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	体液調節機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護①	1. 腎臓の構造と機能について復習 2. 体液調節機能障害 3. 電解質調節機能障害	講義
第2回	体液調節機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護② 検査・処置を受ける患者への看護	1. 酸塩基平衡調節機能障害 2. 静脈性尿路造影 3. 腎生検	講義
第3回	治療を受ける患者の看護	1. 腎臓疾患で食事療法を必要とする患者の看護 2. 透析療法（血液透析、腹膜透析）を受ける患者の看護 3. 急性期持続血液透析とその看護	講義
第4回	病期や機能障害に応じた看護①	1. 急性腎不全、急性腎障害患者の看護 2. 慢性腎不全、慢性腎臓病患者の看護	講義
第5回	病期や機能障害に応じた看護②	1. 腎移植を受ける患者の看護 まとめ	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅲの「腎機能障害看護」「脳・神経機能障害看護」「運動機能障害看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 終講試験30点配点。 成人看護学援助論Ⅲは「腎機能障害看護」30 点、「脳・神経機能障害看護」40点、「運動機能障害看護」30点で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅲの単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅳ「腎・排泄機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1年次～2年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅲ「排泄援助技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅱ「慢性的な変化にある対象の看護実践」等に繋ぐ	2年次後期

事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅱ「腎・排泄機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して

授業要項

	授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑧　腎・泌尿器、医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、1年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅱの腎・排泄機能や栄養代謝機能と病態、臨床判断Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ「排泄援助技術」をふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。
実務経験の内容	臨床看護師、血液透析室副師長

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅲ ～脳・神経機能障害看護～	単位数	1 単位
時期	2 年後期	時間数	30 時間（内 12 時間）	講師名	
科目概要		生涯にわたり、疾病コントロールが必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。 様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
科目目標		1. 腎機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 脳・神経機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 3. 運動機能に障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	脳・神経機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護①	1. 脳・神経疾患患者の特徴と看護 2. 脳・神経障害とは 3. 意識障害のある患者の看護 4. 運動・感覚機能障害のある患者の看護	講義
第 2 回	脳・神経機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護②	1. 言語機能障害のある患者の看護「失語症」「構音障害」 2. 高次脳機能障害のある患者の看護	講義
第 3 回	検査・処置を受ける患者の看護 治療を受ける患者の看護	1. 髄液検査 2. 脳血管造影検査 3. 開頭術を受ける患者への看護 4. 脳室ドレナージ術を受ける患者への看護 5. 脳室-腹腔（VP シャント）を受ける患者への看護 6. 脳血管内治療を受ける患者への看護	講義
第 4 回	病期や機能障害に応じた看護①	1. 脳血管障害の定義と分類 2. 急性期～回復期にある脳梗塞患者の看護	講義
第 5 回	病期や機能障害に応じた看護②	1. 急性期～回復期にある脳内出血患者の看護	講義
第 6 回	病期や機能障害に応じた看護③	1. クモ膜下出血患者の看護 2. 脳腫瘍患者の看護	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅲの「腎機能障害看護」「脳・神経機能障害看護」「運動機能障害看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 40 点配点。 成人看護学援助論Ⅲは「腎機能障害看護」30 点、「脳・神経機能障害看護」40 点、「運動機能障害看護」30 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅲの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅲ「脳・神経系機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1 年次～ 2 年次

授業要項

関連科目	専門分野：基礎看護技術Ⅰ「救急救命技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1年次
	臨地実習：成人・老年看護学Ⅱ「慢性的な変化にある対象の看護実践」等に繋ぐ	2年次後期
事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅲ「脳・神経系機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑦　脳・神経、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、1年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅱの脳・神経系機能と病態、臨床判断Ⅱをふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。	
実務経験の内容	看護師　脳卒中リハビリテーション認定看護師 今村総合病院副看護師長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅲ ～運動機能機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内8時間）	講師名	納瀬 綾
科目概要		生涯にわたり、疾病コントロールが必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。 様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
科目目標		1. 腎機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 脳・神経機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 3. 運動機能に障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	運動機能障害患者の看護の特徴 運動機能検査・処置を受ける患者への看護	1. 運動障害とは 2. 運動機能障害患者の特性 3. 運動機能障害がもたらす生命・生活への影響 4. 脊髄造影、椎間板造影の看護 5. 膝関節鏡の看護	講義 グループワーク
第2回	治療を受ける患者の看護	1. 骨折時の看護 2. ギプス装着時の看護 3. 牽引時の看護	講義
第3回	病期や機能障害に応じた看護	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護 2. 人工関節置換時の看護	講義
第4回	病期や機能障害に応じた看護	1. 関節リウマチ患者の看護 2. 脊髄損傷患者の看護	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅲの「腎機能障害看護」「脳・神経機能障害看護」「運動機能障害看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験30点配点。成人看護学援助論Ⅲは「腎機能障害看護」30点、「脳・神経機能障害看護」40点、「運動機能障害看護」30点で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅲの単位を取得できる。

関連科目		履修時期
関連科目	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅲ「運動機能:骨・筋」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1年次～2年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅳ「活動・休息技術」 フィジカルアセスメントⅠ	1年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅰ等	3年次

事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅲ「運動機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑩　運動器、医学書院

授業要項

受講上のアドバイス	この授業は、1年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅱの運動機能と病態、臨床判断Ⅱをふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。
実務経験の内容	看護師　専任教員　看護師臨床経験10年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅳ ～身体防御機能障害看護～	単位数	1単位
時期	2年次後期	時間数	30時間（内14時間）	講師名	宮里 三智子
科目概要		様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。治癒困難で余命わずかになった対象に対し、苦痛を緩和しながら生活の質を保つための医療や看護の役割を理解し深める。			
科目目標		1. 身体防御機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 治癒困難な病態にある対象の看護の特徴及び終末期医療の課題について述べることができる。 3. 終末期にある対象と家族の心身の反応をふまえて、死の受容過程における看護の役割を述べることができる。 4. 臨死期のケアについて基本的な技術を身につける。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	身体防御機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護	1. 皮膚粘膜障害 2. 免疫機能障害「血液・造血器」「アレルギー」「膠原病」 3. 骨髄機能障害「血液・造血器」	講義 GW
第2回	検査・処置を受ける患者への看護	1. 粘膜・皮膚生検 2. 骨髄穿刺時の看護	講義
第3回	治療を受ける患者の看護	1. 化学療法 2. 免疫抑制薬 3. ステロイド療法 4. 造血幹細胞移植	講義
第4回	病期や機能障害に応じた看護①	1. 急性白血病患者の看護 2. 悪性リンパ腫患者の看護	講義
第5回	病期や機能障害に応じた看護②	1. 貧血患者の看護 2. 出血性疾患患者の看護	講義
第6回	病期や機能障害に応じた看護①	1. HIV/AIDS患者の身体的、精神的、社会的苦痛と看護 2. HIV/AIDSの病期の特徴とセルフマネジメント支援 3. 病気の受容に対する看護 4. 社会の偏見 5. 抗HIV療法と服薬アドヒアランス 6. 感染経路をふまえた感染予防と教育の重要性 7. 感染予防のための国の取り組み 8. AIDS予防指針と検査機関 9. 日和見感染に対する看護	講義
第7回	病期や機能障害に応じた看護②	1. SLE 症状や治療と一生付き合っていく対象の精神的、身体的、社会的苦痛と看護 2. ボディイメージの障害 3. 増悪因子 4. SLE疾患活動判定基準 5. 病気の受容に対する看護 6. 治療に伴う日常生活への影響とセルフケアへ 7. 周囲のサポートの重要性と協力を得る姿勢	講義

授業要項

		8. 社会資源の活用	
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅳの「身体防御機能障害看護」「治癒困難な患者の看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 50 点配点。 成人看護学援助論Ⅳは「身体防御能障害看護」50 点、「治癒困難な患者の看護」50 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅳの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅳ「身体防御機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1 年次～2 年次
	専門分野：基礎看護技術Ⅲ「創傷管理技術」他 フィジカルアセスメントⅠ	1 年次
	臨地実習：成人・老年看護学実習Ⅲ「治癒困難な病態にある対象の看護実践」	3 年次
事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅳ「身体防御機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して授業に臨む。本授業で学習する内容まで自分の力でまとめ、実習や国家試験に役立てましょう。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　成人看護学④　血液・造血器、医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑪　アレルギー　膠原病　感染症,医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、1 年次の機能生理学総論や機能病態学Ⅳの身体防御機能と病態、臨床判断Ⅱをふまえて学習します。学習がつながるように積極的に学びましょう。 臨床のがん化学療法認定看護師が授業を行うので、疑問に思ったことなど積極的に質問してください。	
実務経験の内容	看護師、専任教員養成講習会終了者	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅳ ～治癒困難な患者の看護～	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間（内16時間）	講師名	川畑 博美
科目概要		様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。治癒困難で余命わずかになった対象に対し、苦痛を緩和しながら生活の質を保つための医療や看護の役割を理解し深める。			
科目目標		1. 身体防御機能障害をもつ対象の特徴と生活・生命への影響及び看護の方法を理解し述べることができる。 2. 治癒困難な病態にある対象の看護の特徴及び終末期医療の課題について述べることができる。 3. 終末期にある対象と家族の心身の反応をふまえて、死の受容過程における看護の役割を述べることができる。 4. 臨死期のケアについて基本的技術を身につける。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	ホスピス・緩和ケアについて	1. ホスピス・緩和ケアの歴史 2. 緩和ケアの目的 3. ホスピス・緩和ケアの理念 4. ホスピス緩和ケアの基本方針 5. ホスピス・緩和ケアを提供する形態 6. 日本における緩和ケアの課題	講義
第2回	対象の理解	1. 終末期とは 2. 心身の特徴 3. 療養の場の調整（退院支援活動） 4. 在宅緩和ケアの課題 5. 治療の選択-意思決定-	講義
第3回	生きること 死ぬことについて	1. アドバンス・ケア・プランニング 2. 体験学習	講義 GW
第4回	症状マネジメント	1. 疼痛の看護 2. 痛み以外の症状に対する看護 3. 精神的･社会的･スピリチュアルな苦悩に対する看護	講義
第5回	コミュニケーション・悲嘆	1. エンド・オブ・ライフにおけるコミュニケーション 2. エンド・オブ・ライフにおける意思決定とケア 3. エンド･オブ･ライフ･ケアにおけるチームコミュニケーション 4. 喪失・悲嘆・死別・服喪 5. 悲嘆のアセスメントとケア 6. 看護師自身の悲嘆とケア	講義 GW
第6回	臨死期のケア	1. 臨死期とは 2. 患者・家族が死を迎える準備を整えるために看護師がすべきこと 3. 死が近づいた時期（週～日単位） 4. 死が差し迫った時期（時間単位） 5. 死亡時 6. 臨死期にある患者の急変時の対応	講義

授業要項

第 7 回	エンゼルケア（死後のケア）	1. エンゼルケアとは 2. 知っておきたい基礎知識 3. ご家族の心を癒すエンゼルケア 4. その人らしい表情を作る看護技術（演習）	講義 演習
第 8 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅳの「身体防御機能障害看護」「治癒困難な患者の看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験配点 50 点。成人看護学援助論Ⅳは、「身体防御能障害看護」50 点、「治癒困難な患者の看護」50 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅳの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：病態総論、機能生理学総論、機能病態学Ⅳ「身体防御機能」、看護栄養学、臨床判断Ⅰ、臨床判断Ⅱ	1 年次前期～ 2 年次前期
	専門分野：基礎看護技術Ⅳ「苦痛の緩和・安楽確保の技術」他 フィジカルアセスメントⅠ	1 年次
	臨地実習：成人・老年看護学Ⅲ「治癒困難な病態にある対象の看護実践」等に繋ぐ	3 年次

事前・事後学習	既習の機能病態学Ⅳ「身体防御機能」、臨床判断Ⅱに関する学習内容は整理して授業に臨む。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　緩和ケア　医学書院
受講上のアドバイス	誰しもが避けられない死について考えるとともに、生きることの意味も考えていきましょう。終末期患者の全人的苦痛を理解し、患者とその家族に対するケアを学びましょう。
実務経験の内容	独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター　緩和ケア認定看護師

修得する能力（DP）との関連

● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅴ ～救急看護～	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	30時間（内10時間）	講師名	平川 あゆみ
科目概要		成人看護学概論で学んだ疾病の経過に伴う看護の特徴をふまえ、フィジカルアセスメント能力や判断力が求められる急性期の看護について、より具体的な学習を行い、臨床実践能力の向上を図る。			
科目目標		1. 救急看護、クリティカルケアの特徴と看護の役割を理解し、対象を全人的に捉え、述べることができる。 2. 周術期にある対象の特徴と術前・術中・術後の観察及び看護の実際を述べることができる。 3. 治療・処置の目的を理解し、効果的で安全・安楽な看護技術を習得する。 4. 術後の継続看護の必要性と退院調整及び多職種との連携について述べることができる。 5. 主な手術療法を受ける対象の看護を学び、重要臓器喪失に伴う影響と看護の役割を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	救急看護とは	1. 救急看護の概念 2. 救急看護の対象理解 3. 救急外来における看護、救急患者の家族に対する看護 4. 代理意思決定支援	講義
第2回	緊急度と重症度のアセスメント	1. 緊急度と重症度 2. 意識レベルの評価	講義
第3回	救急看護・クリティカルケアの基本	1. 心肺停止状態への処置 2. ショックへの処置 3. 急性症状の応急処置 4. 一次救命処置、二次救命処置	講義
第4回 第5回	心肺停止状態への処置	1. 一次救命の技術 AEDの使用と注意	実技
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅴ「周術期看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 終講試験30点配点。 成人看護学援助論Ⅳは「救急看護」30点、「周術期看護」70点で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅴの単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅰ「呼吸」「循環」病態総論、臨床薬理学、臨床判断Ⅰ・Ⅱ	1年次～2年次
	専門分野:基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ	1年次～2年次
	臨地実習:成人・老年看護学実習Ⅰ「急性期の看護実践」	3年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト	系統看護学講座　別巻　救急看護学，医学書院

授業要項

参考文献等	
受講上のアドバイス	急病や事故などにより急激に健康状態の悪化した人々に対する看護について、関心を寄せて主体的に学んでください。臨床の救急認定看護師が授業を行うので、疑問に思ったことなど積極的に質問してください。
実務経験の内容	看護師、救急認定看護師 今村総合病院副看護師長

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	成人看護学援助論Ⅴ ～周術期看護～	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	30時間（内20時間）	講師名	佐野 聡美
科目概要		成人看護学概論で学んだ疾病の経過に伴う看護の特徴をふまえ、フィジカルアセスメント能力や判断力が求められる急性期の看護について、より具体的な学習を行い、臨床実践能力の向上を図る。			
科目目標		1. 救急看護、クリティカルケアの特徴と看護の役割を理解し、対象を全人的に捉えることができる。 2. 周術期にある対象の特徴と術前・術中・術後の観察及び看護の実際を述べることができる。 3. 治療・処置の目的を理解し、効果的で安全・安楽な看護技術を習得する。 4. 術後の継続看護の必要性と退院調整及び多職種との連携について述べることができる。 5. 主な手術療法を受ける対象の看護を学び、重要臓器喪失に伴う影響と看護の役割を理解し述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	術前の看護	1. 周術期と周術期看護 2. 入院前から退院支援における周術期のチームアプローチ 3. 手術療法を理解し意思決定への援助 4. 術前検査から術後合併症リスクをアセスメント 5. 術後合併症予防のための援助（栄養、呼吸、循環） 6. 術前オリエンテーション 7. 術前処置 8. 不安の緩和 9. ボディイメージ変容への援助	講義
第2回	術中の看護	1. 手術開始から終了までの流れ 2. 手術方法とその影響に対する援助 3. 手術体位による影響と援助 4. 麻酔による影響と援助	講義
第3回	術後の看護	1. 侵襲から回復への生体反応 2. 疼痛管理 3. 創傷管理 4. ドレーン管理	講義 演習
第4回	術後合併症と予防の看護	1. 術後出血 2. 下肢静脈血栓、肺塞栓症 3. 呼吸器合併症 4. 術後感染、縫合不全 5. 術後イレウス 6. 術後せん妄	講義
第5回	術後の対象への観察と看護①	1. 術後の患者さんの全身を観察し、離床の方法を考えよう 2. 術後１日目の患者さんへの全身清拭の方法を考えよう	演習
第6回	術後の機能障害や生活制限への看護	1. ボディイメージ変容への支援 2. 退院指導と継続看護	講義

授業要項

		3. 早期離床の促進 4. 自己管理に向けた援助	
第 7 回	主な手術療法を受ける患者の看護①	1. 胃切除術を受ける患者の看護	講義
第 8 回	主な手術療法を受ける患者の看護②	1. 大腸切除術を受ける患者の看護	講義
第 9 回	主な手術療法を受ける患者の看護③	1. 乳房切除術を受ける患者の看護 2. 食道切除術を受ける患者の看護	講義
第 10 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 成人看護学援助論Ⅴ「周術期看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験配点 70 点。 成人看護学援助論Ⅴは「救急看護」30 点、「周術期看護」70 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学援助論Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅰ「呼吸」「循環」 病態総論、臨床薬理学、臨床判断Ⅰ・Ⅱ	1 年次～ 2 年次
	専門分野:基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ	1 年次～ 2 年次
	臨地実習:成人・老年看護学実習Ⅰ「急性期の看護実践」	3 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論、医学書院	
受講上のアドバイス	手術を受ける対象は、麻酔と手術を受けることにストレスを感じ、不安や恐怖を抱くことが推測されます。このような対象は心身ともに支えられ、元の生活に戻ることができるような援助を必要としています。病態論で学んだことを想起しながら授業に臨み、実習につなげましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	老年看護学概論	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	落合 明子
科目概要		老いて活きるその人に焦点を当て、生活歴や個々の価値観があることを認識し、老年期の特徴を身体的・精神的・社会的・文化的側面から理解する。 また、超高齢社会の様相について統計資料を基に学習し、健康に暮らし続ける多様な高齢者の活動も理解する。さらに高齢者虐待や高齢者の権利擁護について学び、老年看護における基本的な知識や態度を身につける科目である。			
科目目標		1. 老化に伴う身体的・精神的・社会的・文化的変化を知り、老年期を生きる人の特徴を説明できる。 2. 社会構造の変化と老年保健・医療・福祉の動向について説明できる。また、様々な場で活動する高齢者について知り、長い年月の生活の積み重ねがもたらす高齢者の多様性について説明できる。 3. 「住み慣れた場所で最後まで」を実現することの意義と健康寿命の延伸について説明できる。 4. 超高齢社会における倫理課題について理解し、看護師を取るべき態度について述べられる。 5. 老年看護の役割について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	老いるということ１	1. ライフサイクルから見た高齢者 2. 時代背景に関連する人生と経験の多様性、生活史 3. 多様な価値観 4. 生理的老化と病的老化	講義
第2回 第3回	老いるということ２	1. 高齢者体験/調べ学習 ＊高齢者体験スーツを着用し課題状況を体験する	演習
第4回	老いるということ３	1. 加齢と老化 2. 加齢に伴う身体的側面の変化 3. 加齢に伴う心理的側面の変化 4. 加齢に伴う社会的側面の変化 5. 高齢者の定義 ＊課題について調べ学習を行ない発表し共有	演習
第5回	老年期の発達と成熟	1. 発達と成熟 2. サクセスフルエイジング 3. スピリチュアルティ	講義
第6回	高齢社会における保健医療福祉の動向	1. 高齢者に関する保健医療福祉の変遷 2. 医療保険制度:総合保健医療論Ⅰでも学ぶ 3. 超高齢社会の現況	講義
第7回	超高齢社会の統計的輪郭	1. 高齢者と家族・高齢者の暮らし 2. 鹿児島県の高齢者の現況 3. 保健医療福祉施設及び居住施設における看護	講義
第8回	健康な高齢者	1. そのひとらしく生きがいを持って生活している高齢者の活動の場 2. 健康寿命延伸のための方法（AIの利用） ＊夏季休暇中の課題学習を共有し、健康を維持するための関わりにつなぐ。	演習

授業要項

第 9 回	地域包括ケアシステムと多職種連携	1. 高齢者の暮らしの特徴と看護の役割 2. チームアプローチ 3. 地域包括ケアシステム 4. 国際生活機能分類（ICF）	講義
第 10 回	高齢者の権利擁護１	1. エイジズムとアドボカシー 2. 高齢者虐待防止法 3. 高齢者虐待	講義
第 11 回	高齢者の権利擁護２	1. 身体拘束は是か否か ディベートをとおして、身体拘束について学ぶ。	演習
第 12 回	高齢者のヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメントの基本 2. 身体の加齢変化とアセスメント	講義
第 13 回	老年看護の役割	1. 注目すべき４つの側面 2. 老年看護の特徴	講義
第 14 回	老年看護における理論・概念の特徴	1. エンパワーメント 2. ストレングスモデル 3. ライフレビュー 4. コンフォート理論	講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 70 点、提出物 30 点の 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは老年看護学概論の単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、家族社会学、心理学、倫理学、文化人類学 専門分野：地域・在宅看護論「地域と暮らし」「家族看護」	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、関係法規、公衆衛生学、総合保健医療論Ⅰ・Ⅱに繋ぐ	1 年次後期～
	専門分野：老年看護学援助論Ⅱ・Ⅲへ　地域・在宅看護論に繋ぐ	2 年次前期～
	臨地実習：在宅療養支援実習、成人・老年看護学実習	2 年次後期～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。また授業単元ごとに課題レポートの提出をする。レポートの内容・課題提出状況は評価する。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾病論　医学書院 参考図書：国民衛生の動向
受講上のアドバイス	高齢者を理解するためには、皆さんが誕生する前の社会生活を理解することやこれからの未来がどのようになるかをイメージすることが必要です。 学習の方法としてグループ学習や、体験学習、講義を計画しています。皆さんの主体的な取り組みを大切にしています。真剣に受講して下さい。
実務経験の内容	看護師　専任教員　老年看護学担当

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	老年看護学援助論Ⅰ	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	15時間	講師名	森重 サユリ
科目概要		老年看護学概論で学んだ高齢者の背景や尊厳をふまえ、さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える基本的な看護技術について学ぶ。			
科目目標		1. 高齢者の生活を支える看護について、生活行動の側面から理解しアセスメントすることができる。 2. 高齢者の身体機能・認知機能に応じた日常生活行動を支える援助について、ヘンダーソン看護理論（ニード充足）を活用し、具体的援助について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態他
第1回	高齢者のコミュニケーションの特徴と援助	1.高齢者のコミュニケーションの特徴 2.高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 3.身体機能・認知機能・個性に応じたコミュニケーションの方法	講義
第2回	高齢者の安全な活動への援助 ・日常生活を支える基本的活動	1. 基本動作と環境のアセスメント ・高齢者の歩行、移動、姿勢保持の特徴 ・動作評価の活用 2. 高齢者に多い事故（窒息、誤嚥、溺水、転倒・転落） ・個人要因と環境要因 3. 身体機能・認知機能に応じた安全な活動の維持・拡大の支援 ・社会資源の活用	講義
第3回	高齢者の食事・食生活の特徴と援助	1. 高齢者における食生活の意義 ・高齢者に特徴的な変調（低栄養、摂食嚥下障害） 2. 食生活のアセスメント 3. 身体機能・認知機能に応じた食事と食生活の支援 ・とろみ食を体験しよう	演習
第4回	高齢者の排泄の特徴と援助	1. 高齢者の排泄ケアの基本 2. 高齢者の排泄の特徴（尿失禁、便秘、下痢） 3. 身体機能・認知機能に応じた排泄の支援	講義
第5回	高齢者の清潔と衣生活の特徴と援助	1. 清潔・衣生活の意義 2. 高齢者に生じやすい清潔、衣生活に関する健康問題 3. 清潔、衣清潔のアセスメント 4. 身体機能・認知機能に応じた排泄の支援 ・社会資源の活用	講義
第6回	高齢者の活動と休息のバランスの特徴と援助 高齢者における性＜セクシャリティ＞対応	1. 高齢者の睡眠と生活リズムの特徴 ・高齢者の特徴的な睡眠パターン 2. 生活リズムのアセスメント 3. 身体機能・認知機能に応じた活動と休息 1. 高齢者におけるセクシャリティ	講義
第7回	高齢者の社会参加と支援	1. 高齢化の現状と目指す社会の方向性 2. 地域における高齢者の社会参加	講義

授業要項

	健康の維持・増進と介護予防	3. 高齢者の健康の維持・増進	
第 8 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 2 名の担当者それぞれ 50 点の試験である。100 点満点の 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは老年看護学援助論Ⅰの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、家族社会学、心理学、倫理学、文化人類学 専門分野：地域・在宅看護論「地域と暮らし」「家族看護」 老年看護学概論	1 年次全期
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、関係法規、公衆衛生学、総合保健医療論Ⅰ・Ⅱに繋ぐ	1 年次後期～
	専門分野：老年看護学援助論Ⅱ・Ⅲへ　地域・在宅看護論に繋ぐ	2 年次前期～
	臨地実習：在宅療養支援実習、成人・老年看護学実習	2 年次後期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾病論　医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は既習の老年看護学概論や看護学概論、看護過程を活用しながら。高齢者の生活機能を整える看護について理解を深めます。高齢者の座る-立つという基本動作を基盤とする食事・排泄・清潔といった生活行為とそれらが繰り返し展開される生活リズム、更には生活を円滑に進めるために不可欠なコミュニケーションについて、具体的な援助技術を学び、事例を活用し、学んだヘンダーソン理論を活用して、ニード充足に向けた援助を考えていきます。 実習で出会う患者さんや利用者さんの看護に活かせるよう授業に臨んでください。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　訪問看護師経験有	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	老年看護学援助論Ⅱ	単位数	1単位
時期	2年次前後期	時間数	30時間	講師名	落合 明子 他
科目概要		老年看護学概論及び援助論Ⅰの学習内容と関連させ、さまざまな健康状態に応じた高齢者の看護について、各専門職の講義や演習を通して学び、基本技術を身につける。			
科目目標		1. 検査・治療を必要とする高齢者の看護について理解し述べることができる。 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護について述べることができる。 3. 健康障害のある高齢者の看護課題・具体的援助方法について述べることができる。（演習）			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	検査を受ける高齢者の看護	1. 高齢者が受けることの多い検査 2. 加齢による検査結果への影響 3. 検査を受ける高齢者への身体機能・認知機能に応じた援助	講義 （教員） 演習
第2回	薬物療法を受ける高齢者の看護	1. 加齢に伴う薬物動態の変化 2. 高齢者に特徴的な薬物有害事象 3. 高齢者の服薬行動の特徴 4. ポリファーマシー 5. 身体機能・認知機能に応じた服薬管理支援	講義 （教員）
第3回	手術を受ける高齢者の看護	1. 高齢者に起こりやすい周術期の反応と合併症 2. 身体機能・認知機能に応じた周術期看護	講義 （教員）
第4回	終末期にある高齢者と家族への看護	1. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア 2. アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞ 3. 苦痛の緩和と安楽への援助 4. 精神的苦痛や混乱に対する援助 5. 家族の参加と家族への支援	講義 （教員）
第5回	リハビリテーションを受ける高齢者の看護①	1.　リハビリテーションの意義 2.　高齢者のリハビリテーションの特徴 3.　疾患から生活への視点 4.　自立度の拡大に伴うアクシデントの予防	講義 （村山）
第6回	リハビリテーションを受ける高齢者の看護②	1. ADLの評価（FIM） ROM 、MMTの理解 2. 運動療法（人工股関節置換術後の禁止肢位）良肢位	演習 （村山）
第7回	リハビリテーションを受ける高齢者の看護③	1. 半身麻痺のある患者の移乗動作 2. 階段昇降 3. 福祉機器を使用した移動動作（杖、装具）	演習 （村山）
第8回	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護①	1. 高齢者に特有な疾患・障害の病態と要因、アセスメント 2. 高齢者に特有な疾患・障害の予防と看護 ・パーキンソン症候群 ・高齢者うつ	講義 （厚地）
第9回 ～ 第11回	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② 認知症機能が低下した高齢者の看護	1. 認知症の種類 2. 認知症の症状 3. 日常生活への影響 4. 認知症の治療、非薬物療法 5. 認知症の予防	講義 （厚地）

授業要項

		6. 認知症看護の基本的視点 ユマニチュード 7. 認知症高齢者と家族の支援	
第 12 回	高齢者の健康課題の看護過程の展開①	1. 高齢者の心不全患者の看護展開 2. 高齢者の慢性閉塞性肺疾患患者の看護展開 3. 誤嚥性肺炎患者の看護展開 ＊3 側面の情報、ニード未充足のアセスメント 苦痛の緩和、回復を促進する看護援助の計画立案	G演習 （教員）
第 13 回	高齢者の健康課題の看護過程の展開②	同上	G演習 （教員）
第 14 回	高齢者の健康課題の看護過程の展開③	1. 事例看護展開の発表・まとめ	演習 （教員）
第 15 回	筆記試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 老年看護学援助論Ⅱの 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 老年看護学援助論の試験 100 点満点で、60 点以上を合格とする。試験配分は、検査治療を必要とする高齢者の看護 25 点、リハビリテーション 25 点、疾患と看護（認知症）25 点、看護過程 25 点とする。 3. 上記の条件を満たしたものは老年看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、家族社会学、心理学、倫理学、文化人類学 専門分野：地域・在宅看護論「地域と暮らし」「家族看護」 老年看護学概論	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、関係法規、公衆衛生学、総合保健医療論Ⅰ・Ⅱに繋ぐ	1 年次後期～
	専門分野：老年看護学援助論Ⅲへ　地域・在宅看護論に繋ぐ	2 年次前期～
	臨地実習：在宅療養支援実習、成人・老年看護学実習	2 年次後期～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学・老年看護　病態・疾病論、医学書院 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護
受講上のアドバイス	この授業は、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰを土台にし、さまざまな健康の段階や治療を必要とする高齢者の看護について学習します。高齢者がこれまで生きてきたプロセスに慈愛の心で寄り添い、学習を深めましょう。リハビリテーションを受ける高齢者への支援や認知症を抱える高齢者に看護については、臨床経験をもつ講師が担当します。実践家の講義は皆さんが実習の場で体験する看護に具体的に繋げていくことができるでしょう。 また、高齢者の看護過程の学習については、グループ演習を通して、高齢者の健康課題解決に向けて具体的支援方法を身についていきます。既習学習の基礎看護学、病態論と関連付けながら、学習を深めましょう
実務経験の内容	看護師、専任教員 理学療法士　公益財団法人慈愛会リハビリ部顧問 認知症看護認定看護師

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	老年看護学援助論Ⅲ	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	15時間	講師名	落合 明子
科目概要		これまで学んできた老年看護学を土台とし、多様な生活・療養の場における高齢者の健康を支える看護について高齢者のリスクマネジメントもふまえながら理解を深め、高齢者に寄り添う看護について学ぶ。			
科目目標		1. 多様な場で生活する高齢者を支える看護について学び、看護の役割を述べることができる。 2. 多職種連携、チームアプローチの必要性と看護職の専門性を述べることができる。 3. 高齢者特有のリスク誘因と対応の実際について述べることができる。 4. 災害における高齢者支援について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	住み慣れた場、暮らしのなかで生活する高齢者の看護	1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 介護予防とヘルスプロモーション 3. 住み慣れた場所で最期までを実現する地域包括ケア	講義
第2回	医療施設に入院する高齢者の暮らしと看護	4. 治療を担う医療施設の状況 5. 入院する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割 ・入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 ・入院の援助 ・家族への配慮	講義
第3回	介護保険施設に入所する高齢者の暮らしと看護	1. 介護保険施設の種類と特徴 2. 介護保険施設における健康管理 6. 入所者の暮らしの特徴と看護の役割	講義
第4回	地域でサービスを利用しながら暮らす高齢者の暮らしと看護	1. 地域密着型サービスの種類と特徴 2. 居宅サービスの種類と特徴 3. サービスを利用する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割	講義
第5回	生活の場を変える高齢者への支援 多職種連携、チームアプローチ	1. 入院時、入所時、サービス利用開始時の援助 2. 退院支援、退所支援 3. 看護職間・多職種間の情報提供、目標の共有と評価 4. 介護職員間の専門性と役割の共有 5. 多職種間での専門性の発揮 6. 目標達成に向けた連携の方法	講義
第6回	高齢者のリスクマネジメント	1. 高齢者と医療安全 ・高齢者と医療事故 ・高齢者のリスク要因 2. 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 3. 高齢者と救急救命	講義
第7回	避難生活を送る高齢者の看護	1. 災害における高齢者の脆弱性 2. 避難所での生活と健康維持 3. 災害における高齢者の心理的支援 4. 看護職に求められる役割	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

授業要項

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 80 点、課題点 20 点とし 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは、老年看護学援助論Ⅲの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、家族社会学、心理学、倫理学、文化人類学 専門分野：地域・在宅看護論「地域と暮らし」「家族看護」 老年看護学概論	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、関係法規、公衆衛生学、総合保健医療論Ⅰ・Ⅱに繋ぐ	1 年次後期～
	専門分野：老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護論	2 年次前期～
	臨地実習：在宅療養支援実習、成人・老年看護学実習	2 年次後期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学	
受講上のアドバイス	人生の終盤を「住み慣れた場所で最期まで」とは、人々の願いである。高齢者が住み慣れたところにいる時も治療のために入院している時も、看護職は最善の看護のために力を尽くすことが求められる。また、地域の人々や他の専門職と手を携えながら、住み慣れた場と治療・療養の場とを橋渡しする役割も期待されている。 この科目は、高齢者の生活・療養の場における看護や災害における高齢者支援について事例を活用して学んでいく。高齢者の生きてきたプロセスに寄り添い、尊厳の気持ちをもって、学んでいく姿勢を身につけていきましょう。	
実務経験の内容	看護師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	小児看護学概論	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	大磯 陽子
科目概要		小児看護の対象である子どもの特性その家族について理解を深め、子どもの成長・発達と発達課題を理解し、子どもの健やかな成長発達を促すための援助の方法を学ぶ。また、子どもはひとりの人格を持った人間として存在し、子どもの人権および倫理を尊重されなければならない。そのため、子どもの権利をふまえ小児看護における倫理について学ぶ。			
科目目標		1. 小児看護の対象である子どもの特性をふまえ、看護の役割について述べることができる。 2. 小児保健の動向を知り、子どもと家族を支援するための法律・施策について説明できる。 3. 現在の家族の特徴を知り、子どもにとってのそれぞれの家族のあり方について考えることができる。 4. 子どもの成長発達について理解し、小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護について述べることができる。 5. 子どもの権利をふまえ、小児看護における倫理について考えることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	小児看護の目指すところ	1. 小児看護学で学習する範囲（マトリックス） 2. 小児看護の対象と目標・場と役割 3. 小児医療・看護の変遷	講義
第2回	これからの小児医療の課題	1. 子どもの最善の利益と医療と看護 2. 育成医療に対応する看護 3. 小児慢性特定疾患	講義
第3回 第4回 第5回	家族の特徴とアセスメント 小児看護に活用する理論 ＊事例を用いて学ぶ	1. 子どもにとっての家族、現代家族の特徴 2. ボウルビィの愛着理論 3. ピアジェの認知発達理論・発達課題 4. エリクソンの自我発達理論 5. セルフケア理論 ＊事例を通して、各理論を深める。	講義 グループワーク
第6回 第7回	子どもの権利と小児看護における倫理	1. 小児看護の課題：貧困・少子化・複合家族 2. 子どもの権利とインフォームドアセント ＊事例を通して、小児看護における倫理について考える。	講義 グループワーク
第8回	小児発達総論 子どもの成長・発達	1. 子どもの成長発達の原則と影響因子 2. 成長・発達の評価 3. 形態的・機能的・心理社会的発達	講義
第9回	子どもの成長・発達	1. 言葉・遊び・マルトリートメント 2. 小児の栄養	講義
第10回	小児各期における健康増進のための子どもと家族の看護①	1. 新生児期の成長・発達に応じた生活への支援 2. 乳児期の成長・発達に応じた生活への支援	講義
第11回	小児各期における健康増進のための子どもと家族の看護①	1. 幼児期の成長・発達に応じた生活への支援 2. 学童期の成長・発達に応じた生活への支援 3. 思春期の成長・発達に応じた生活への支援	講義 グループワーク

授業要項

第 12 回	子どもと家族の諸統計	1.わが国の人口構造 2.出生と家族 3.子どもの死亡	講義
第 13 回	子どもと家族を取り巻く社会① 小児をめぐる法律と政策	1. 児童福祉法 2. 小児慢性特定疾患、育成医療・養育医療 3. 地域包括医療・在宅医療 4.小児の事故	講義
第 14 回	子どもと家族を取り巻く社会②	1. 健康診査と予防接種 2. 学校保健 3.多職種連携	講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 90 点、提出物 10 点の 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学概論の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野:慈愛の心、家族と社会、心理学、倫理学	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ	1 年次後期
	専門分野；基礎看護学「看護倫理」小児看護学援助論に繋ぐ	2 年次前期
	専門分野：母性看護学、精神看護学	2 年次～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①小児臨床看護学概論、小児臨床看護総論
受講上のアドバイス	この科目は小児看護学の基本となる理論や看護の方向性、小児の権利について学ぶ重要な科目です。また、この科目では小児保健も併せて学習します。この学びを小児看護学援助論に繋げ、小児実習での具体的な学びに発展させていきましょう。 慈愛の心で、子どもへの関心をもち倫理観を高めてほしい。
実務経験の内容	専任教員　小児看護学担当　看護師臨床経験 10 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	小児看護学援助論Ⅰ ～経過別～	単位数	2単位
時期	2年次前～後期	時間数	45時間（内14時間）	講師名	梶野 恵美子
科目概要		疾病により入院を余儀なくされた子どもと家族を生活者として捉え、外来や入院中に出会う子どもと家族が共に成長・発達し続けていけるように支援していくことを基盤とし健康課題をもつ子どもと家族へ看護について疾病の経過別・症状別に応じて学ぶ。 また、近年増加している高度な医療的ケアを受けながら在宅での療養生活を送る子どもや家族の支援について、保健・医療・福祉の連携をふまえ理解する。		
科目目標		1. 病気や診察・入院が子どもと家族に及ぼす影響について発達段階をふまえて理解し、必要な看護について説明できる。 2. 子どもの基本的特性をふまえ、主な症状とアセスメントと看護について述べることができる。 3. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について疾病の経過、状況に応じて説明できる。 4. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護について述べることができる。 5. 児童虐待の予防と早期発見のため様々な施策をふまえ、看護者の役割について述べることができる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	急性期にある子どもと家族の看護	1. 急性期にある子どもの特徴と看護の要点 2. 急性期にある家族の支援 ＊発熱、不機嫌、発疹、予後不安など川崎病の事例を用いて	講義
第2回	急性期にある子どもと家族の看護	1. 嘔吐、下痢、脱水などノロウイルス胃腸炎、重症脱水の事例を用いて 2. 生命徴候が危険な状況のアセスメント	講義
第3回	急性期にある子どもと家族の看護	1. 呼吸困難、呼吸窮迫などRSウイルス細気管支炎の事例を用いて	講義
第4回	慢性期にある子どもと家族の看護	1. 慢性期にある子どもの特徴と看護の要点 2. セルフケア能力を育てる援助 3. 発達危機を乗り越える援助 4. 患児への教育指導 5. 慢性疾患をもつ家族の支援 6. 社会資源とサポートシステム	講義
第5回	慢性期にある子どもと家族の看護	1. 気管支喘息の事例を用いて	講義
第6回	慢性期にある子どもと家族の看護	2. ネフローゼ症候群の事例を用いて	講義
第7回	先天性疾患のある子どもと家族への看護	1. 先天性疾患の種類と特徴 2. 子どもの発達段階に応じた援助 3. 子どもの疾患に対する家族の理解と受容	講義
	終講試験		筆記試験
単位認定の方法		1. 45時間中30時間以上の出席があること。 2. 終講試験30点配点。	

授業要項

	小児看護学援助論Ⅰは、(経過別) 30 点、(医療的援助) 20 点、(小児アセスメント) 50 点を合計して 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学援助論Ⅰを取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：家族と社会	1 年次後期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅳ（小児特有の疾患） 臨床判断Ⅰ、	1 年次後期～
	専門基礎分野：看護薬理学、看護栄養学、微生物と感染症	1 年次後期
	専門分野：基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」 小児看護学概論及び援助論Ⅱ、母性看護学	1 年次前期～ 2 年次前期～
	臨地実習:小児看護学実習	3 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学②小児臨床看護各論	
受講上のアドバイス	この科目は小児看護学概論の知識の上に具体的小児看護の展開法について学びます。発達段階や疾病の段階に応じた看護のイメージができるよう復習が必要です。重要なポイントを自らノートにまとめていくと理解が定着すると思います	
実務経験の内容	看護師　専任教員　小児領域経験 20 年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	小児看護学援助論Ⅰ ～在宅療養看護～	単位数	2単位
時期	2年次前～後期	時間数	45時間（内8時間）	講師名	梶野 恵美子
科目概要		疾病により入院を余儀なくされた子どもと家族を生活者として捉え、外来や入院中に出会う子どもと家族が共に成長・発達し続けていけるように支援していくことを基盤とし健康課題をもつ子どもと家族へ看護について疾病の経過別・症状別に応じて学ぶ。 また、近年増加している高度な医療的ケアを受けながら在宅での療養生活を送る子どもや家族の支援について、保健・医療・福祉の連携をふまえ理解する。		
科目目標		1. 病気や診察・入院が子どもと家族に及ぼす影響について発達段階をふまえて理解し、必要な看護について説明できる。 2. 子どもの基本的特性をふまえ、主な症状とアセスメントと看護について述べることができる。 3. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について疾病の経過、状況に応じて説明できる。 4. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護について述べることができる。 5. 児童虐待の予防と早期発見のため様々な施策をふまえ、看護者の役割について述べることができる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 第2回	心身障がいをもつ子どもと家族への看護	1. 心身障がいをもつ子どもの特徴と看護の要点 2. 医療的ケア児とは 3. 家族の受容過程と家族の援助 4. 障がい児の地域支援体制 5. 入院生活から在宅療養への移行支援 6. 在宅療養中の子どもと家族の援助 7. 多職種との連携と社会資源	講義
第3回	終末期にある子どもと家族への看護	1. 終末期にある子どもと家族の看護 2. 子どもの死の理解と看護 3. 終末期にある子どもと家族への緩和ケア ※事例を通して	講義
第4回	虐待を受けている子どもと家族への看護	1. 子どもへの虐待の特徴 2. 虐待の早期発見と未然防止に向けての援助	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 45時間中30時間以上の出席があること。 2. 終講試験20点配点。 小児看護学援助論Ⅰは（小児看護総論）50点、（経過別）30点、（在宅療養看護）20点で100点満点とし、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学援助論Ⅰを取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：家族と社会	1年次後期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅳ（小児特有の疾患） 臨床判断Ⅰ、	1年次後期～
	専門基礎分野：看護薬理学、看護栄養学、微生物と感染症	1年次後期
	専門分野：基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」	1年次前期～

授業要項

	小児看護学概論及び援助論Ⅱ、母性看護学	2 年次前期～
	臨地実習:小児看護学実習	3 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①小児臨床看護学概論、小児臨床看護総論 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学②小児臨床看護各論	
受講上のアドバイス	この科目は小児看護学方法論Ⅰの知識の上に具体的小児看護の展開法について学びます。発達段階や疾病の段階に応じた看護のイメージができるよう復習が必要です。重要なポイントを自らノートにまとめていくと理解が定着すると思います	
実務経験の内容	専任教員　小児領域看護師臨床経験 20 年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	小児看護学援助論Ⅰ ～小児看護総論～	単位数	2単位
時期	2年次前～後期	時間数	45時間（内23時間）	講師名	大磯 陽子
科目概要		疾病により入院を余儀なくされた子どもと家族を生活者として捉え、外来や入院中に出会う子どもと家族が共に成長・発達し続けていけるように支援していくことを基盤とし健康課題をもつ子どもと家族へ看護について疾病の経過別・症状別に応じて学ぶ。 また、近年増加している高度な医療的ケアを受けながら在宅での療養生活を送る子どもや家族の支援について、保健・医療・福祉の連携をふまえ理解する。		
科目目標		1. 病気や診察・入院が子どもと家族に及ぼす影響について発達段階をふまえて理解し、必要な看護について説明できる。 2. 子どもの基本的特性をふまえ、主な症状とアセスメントと看護について述べることができる。 3. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について疾病の経過、状況に応じて説明できる。 4. 児童虐待の予防と早期発見のため様々な施策をふまえ、看護者の役割について述べることができる。		

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護	1. 病気に対する子どもの理解と説明 2. 各発達段階の病気の理解と反応・説明 3. 入院中の子どもと家族の特徴 4. 成長・発達に及ぼす影響 5. 入院中の子どもと家族の看護	講義
第2回	入院環境 安全な環境調整	1. 入院環境（ベッド周囲） 発達段階を考慮した安全な環境調整	講義 グループワーク
第3回	外来における子どもと家族の看護	1. 小児外来の特徴 2. 外来の環境 3. 外来における子どもと家族の看護	講義
第4回 第5回	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 生活制限が必要な子どもと家族の看護	1. 検査・処置を受ける子どもと家族への説明と同意 2. プレパレーション・ディストラクション 3. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族の看護 4. 活動制限が必要な子どもと家族の看護	講義 演習
第6回	小児のアセスメント	1. アセスメントに必要な技術 2. 小児看護に必要な基本的看護技術① 3. コミュニケーション、バイタルサイン、フィジカルアセスメント	講義
第7回 第8回	小児のアセスメント	1. 小児看護に必要な基本的看護技術① 2. コミュニケーション、バイタルサイン、フィジカルアセスメント	演習
第9回 第10回	救急救命処置が必要な子どもと家族の看護	1. 子どもの救急におけるトリアージと対応 2. 主な誤飲物質と処置 3. 子どもの熱傷と特徴・重症度及び処置 4. 溺水と処置 5. 子どもの一次救命	講義
第11回	周手術期における子どもと家族への看護	1. 子どもの手術の特徴 2. 子どもと家族の術前準備	講義

授業要項

		3. 手術中・手術後の家族への援助 4. 手術後の身体侵襲のアセスメントと援助	
第 12 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 45 時間中 30 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 50 点配点。 小児看護学援助論Ⅰ（小児看護総論）50 点、（経過別）30 点、（在宅療養看護）20 点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学援助論Ⅰを取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：家族と社会	1 年次後期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅳ（小児特有の疾患） 臨床判断Ⅰ	1 年次後期～
	専門基礎分野：看護薬理学、看護栄養学、微生物と感染症	1 年次後期
	専門分野：基礎看護学「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」 小児看護学概論及び援助論Ⅱ、母性看護学	1 年次前期～ 2 年前期～
	臨地実習:小児看護学実習	3 年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①小児臨床看護学概論、小児臨床看護総論 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学②小児臨床看護各論
受講上のアドバイス	この科目は小児看護における具体的な看護技術や小児看護に必要な基本的な知識を学んでいきます。小児の特性をふまえた子どもと家族への看護について体験を通して学び、小児実習での具体的な学びに発展させていきましょう。
実務経験の内容	専任教員　看護師臨床経験 10 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	小児看護学援助論Ⅱ (紙上事例の展開)	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	15時間(内8時間)	講師名	大磯 陽子
科目概要		小児看護における検査・処置について小児の特性をふまえて学び、小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。また、事例を通して健康障害のある子どもと家族への意思決定を支援しながら、看護の展開についてポイントを学び、臨床判断能力を強化する内容とする。			
科目目標		1. 小児看護に必要な基本的な看護技術を習得する。 2. 事例を通して、患児の状態とその家族の状況を3側面からアセスメントし、必要な援助について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 ～ 第4回	小児看護過程の展開方法 アセスメント	1. 紙上事例の情報整理と分析 2. 身体面、精神面、社会的・文化的側面からのアセスメント 3. 優先度をふまえた看護課題の決定 4. 発達段階をふまえ、患児とその家族の状況に応じた援助計画の立案	講義 グループワーク

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験80点(小児看護技術)、紙上事例の展開（提出物）20点の100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	基礎分野：慈愛の心、家族と社会、教育学、心理学	1年次後期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅵ（小児特有の疾患） 病態総論、看護薬理学他	1年次後期～
	専門分野：基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅴ:与薬」 「看護過程の基礎」 小児看護学概論、援助論Ⅰ	2年次前期～
	臨地実習：小児看護学実習	3年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①小児臨床看護学概論、小児臨床看護総論、医学書院 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学②小児臨床看護各論、医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術　第３版、医学書院
受講上のアドバイス	この科目は、小児看護における主な看護技術について小児の特徴をふまえて学んでいきます。また、健康障害をもつ子どもと家族への看護について、アセスメントの視点、発達段階をふまえた患児と家族への看護計画立案について事例を通して学び、小児看護学実習での具体的な学びに発展させていきましょう。
実務経験の内容	専任教員　看護師臨床経験10年以上

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　●　密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	小児看護学援助論Ⅱ (小児看護技術)	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	15時間(内7時間)	講師名	梶野 恵美子
科目概要		小児看護における検査・処置について小児の特性をふまえて学び、小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。また、事例を通して健康障害のある子どもと家族への意思決定を支援しながら、看護の展開についてポイントを学び、臨床判断能力を強化する内容とする。			
科目目標		1. 小児看護に必要な基本的な看護技術を習得する。 2. 事例を通して、患児の状態とその家族の状況を3側面からアセスメントし、必要な援助について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	小児看護における検査・処置	1. 計測 2. 採血・採尿 3. 骨髄穿刺・腰椎穿刺 4. 与薬・注射・輸液療法 5. 吸引・酸素療法 等 ＊講義ではポイントを学ぶ	講義
第2回 第3回	小児看護に必要な基本的看護技術	1. 小児看護に必要な基本的看護技術 2. 身体計測、診察介助	実技
第4回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 筆記試験80点(小児看護技術)、紙上事例の展開（提出物）20点の100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	基礎分野：慈愛の心、家族と社会、教育学、心理学	1年次後期
	専門基礎分野：機能生理学総論、機能病態学Ⅵ（小児特有の疾患） 病態総論、看護薬理学他	1年次後期～
	専門分野：基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅴ:与薬」 「看護過程の基礎」 小児看護学概論、援助論Ⅰ	2年次前期～
	臨地実習：小児看護学実習	3年次

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①小児臨床看護学概論、小児臨床看護総論、医学書院 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学②小児臨床看護各論、医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術　第３版、医学書院
受講上のアドバイス	この科目は、小児看護における主な看護技術について小児の特徴をふまえて学んでいきます。また、健康障害をもつ子どもと家族への看護について、アセスメントの視点、発達段階をふまえた患児と家族への看護計画立案について事例を通して学び、小児看護学実習での具体的な学びに発展させていきましょう。
実務経験の内容	専任教員　小児領域看護師臨床経験20年以上

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　●　密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	母性看護学概論	単位数	1単位
時期	1年次後期	時間数	30時間	講師名	高木 里子
科目概要		母性看護学の基盤となるリプロダクティブヘルス/ライツやウェルネスの視点での対象理解を中心に、多様化する社会の現状に応じた母性看護の意義を理解する。母性看護の対象を取り巻く歴史的変遷と現状を統計や法律・制度・施策の現状からの視点で理解し、母性看護の機能と役割について学習する。また、性の多様性、生命倫理、母性・父性・親性の理解を深め、生命の尊厳や看護職としての倫理観や感性を深める。さらに、母性各期の特徴を捉え、そのライフステージに応じた健康問題や家族の発達を学び母子保健活動についても学習する。			
科目目標		1. 母性の概念を学び、母性看護の意義と役割について説明できる。 2. 母性看護の歴史的変遷について学び、現在の母性看護に関する問題点を説明できる。 3. 母性看護に関する法律および施策について述べることができる。 4. 女性の生涯を通した健康の保持・増進の観点で、リプロダクティブヘルス/ライツについて述べることができる。 5. 看護の対象としての人間について、セクシュアリティ、ジェンダー、性の多様性の観点で説明できる。 6. 女性のライフサイクルと家族の発達を学び、家族看護について考察できる。 7. 女性の持つ生殖機能と妊娠のメカニズム及び性分化について述べることができる。 8. 生命誕生や次世代育成をはじめとする母性を援助する看護者としての倫理観を身につけ、説明できる。 9. 女性のライフサイクル各期の特徴と問題点を捉え、健康の保持増進のための看護及び健康教育の方法を習得する。 10. リプロダクティブヘルスケアに関する問題点と看護について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	母性看護の基盤となる概念	1. 母性看護学の概要 2. 母性とは何か、母子関係と家族発達 3. 母性看護の在り方：母性看護の理念、課題と展望	講義
第2回	人間の性（セクシャリティ）	1. セクシュアリティ（人間の性）とは 2. 人間の性の意義 3. 性の多様性（性同一性障害、性分化疾患）、LGBTQ＋ 4. セクシュアリティの発達と課題 5. 多様な性について考えよう（GW）	講義 GW
第3回	リプロダクティブヘルス/ライツの概念と女性のヘルスプロモーション	1. リプロダクティブヘルス/ライツと、その課題 2. 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツ 3. 女性に関するヘルスプロモーション 4. ウェルネスの視点でとらえるということ	講義
第4回	母性看護に関する倫理	1. 生命倫理に関する問題 2. 医療技術の進歩と課題 3. 母性看護領域にある倫理的問題と看護者の役割 4. 生命倫理に関するディベート（GW） （いくつかのテーマをもとに考えを深める）	講義 GW

授業要項

第 5 回	生命倫理に関するディベート	1. ディベートの実際 2. まとめ(看護者の役割)	ディベート
第 6 回	母性看護の歴史的変遷 わが国の母子保健統計	1. わが国における母子看護の変遷 2. 母性看護に関わる指標とその推移	~~講義~~
第 7 回	日本における母性看護に関わる法律と施策	1. 母子保健に関する法律 1)母子保健法　2)母体保護法 3)戸籍法　4)死産の届け出に関する規定 5)児童福祉法　6)ＤＶ防止法 2. 女性の就労と母性保護に関する法律 3. 次世代育成支援に関する法律 4. 母子保健施策	講義
第 8 回	母性看護の対象理解	1. 女性のライフサイクル 2. 女性生殖器の機能 1)女性の性周期	講義
第 9 回	思春期にある対象の理解	1. 思春期女性の特徴 2. 思春期の健康問題と看護 3. 思春期に起こりやすい月経異常と援助(ワーク) 4. 性感染症の現状(ワーク)	講義 ワーク
第 10 回	思春期女性の健康問題と看護	1. 月経異常と援助 2. 月経困難症と援助 3. 性感染症について 4. 包括的セクシュアリティ教育とは 5. 思春期女性に必要な健康教育(ＧＷ)	講義 ＧＷ
第 11 回 第 12 回	性成熟期にある女性の健康と看護	1. 性成熟期女性の特徴 2. 性成熟期女性の健康問題と看護 3. リプロダクティブヘルスケアについて課題学習 4. プレコンセプションケア	講義 ＧＷ
第 13 回 第 14 回	リプロダクティブヘルスケア 更年期・老年期にある女性の健康と看護	1. リプロダクティブヘルスケアについて発表 1)家族計画とは 2)人工妊娠中絶と看護 3)喫煙と女性の健康 4)性暴力を受けた女性に対する看護 2. 更年期・老年期女性の特徴 3. 更年期・老年期女性の健康問題と看護	ＧＷ・発表 講義
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学概論の単位を取得できる。

	関連科目	**履修時期**
関連科目	基礎分野：家族社会学、倫理学	1 年次前期
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ、機能病態学Ⅴ「女性生殖器機能」	1 年次後期～
	専門分野：母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ、小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ	2 年次前期～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　母性看護学①　母性看護学概論、医学書院
受講上のアドバイス	この科目は、母性看護学の基盤となる概念や母性の特性、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進、疾病の予防や次世代の健全育成と現代社会における母性看護の役割について学ぶ。また、人間にとっての性の意義や生命倫理を通して、看護職者としての倫理観を養う上でも重要な科目である。 母性看護の対象は、妊産褥婦とその子どものみならず、ライフステージ各期の女性、その女性を取り巻く家族や地域社会を含めた対象であることを理解してほしい。さらに近年の社会の変化に伴う母性看護の課題と役割、セクシュアリティの概念や生殖医療を取り巻く生命倫理については、社会でのトピックスをふまえた講義展開も想定しているので、新聞やニュースなどの情報に、普段の生活の中でも関心をもちながら受講することを期待する。特に、人間にとっての性、生命の尊さ、生命倫理、家族看護については、母性看護の領域にとどまらず、看護における対象理解や倫理観を深める機会としたい。
実務経験の内容	専任教員　助産師

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	母性看護学援助論Ⅰ	単位数	1単位
時期	2年次前～後期	時間数	30時間	講師名	飯伏 弘美
科目概要		母性看護学概論での学びをもとに、妊娠期（胎児）から分娩・産褥及び新生児期までの正常な経過を学び、対象の経過に応じた看護実践能力の基礎を学習する。 また、新しい家族の誕生において、様々に役割変化を遂げる家族の発達と看護を学習する。			
科目目標		1. 正常な経過をたどる周産各期(妊娠・分娩・ 産褥・新生児期）の経過とその看護について説明できる。 2. 新しい家族の誕生における、家族の発達と看護の留意点を説明できる。 3. 周産期の対象を支援する社会資源について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	妊娠期における看護 （妊娠初期）	1．妊娠の生理・胎児の発育とその生理 2．妊娠初期の身体的・心理的・社会的特性 3．妊婦と胎児のアセスメント（妊娠の診断・検査 妊婦健康診査）	講義
第2回	妊娠期における看護 （妊娠中期）	1．妊娠中期の身体的・心理的・社会的特性 2．妊婦と胎児のアセスメント（レオポルド触診法・子宮底長と腹囲の変化・児心音聴取部位）	講義
第3回	妊娠期における看護 （妊娠後期）	1．妊娠後期の身体的・心理的・社会的特性 2．妊婦と胎児のアセスメント（NST） 3．妊婦と家族の看護（母子保健サービス・妊婦の健康相談・親になるための準備教育）	講義
第4回 第5回	妊婦体験と妊婦の健康を支える看護技術	1．妊婦ジャケットを着用した生活体験 2．妊婦健診（腹囲・子宮底測定、浮腫の観察、レオポルド触診、フィジカルアセスメント） 3．妊婦体操、姿勢	演習 DVD
第6回	分娩期における看護 （分娩第1期）	1．分娩の要素・分娩の経過（産婦の身体・心理・社会的変化） 2．産婦の身体・心理・社会的特徴と看護の実際（バースプラン・分娩時の環境調整・アロマテラピー・産痛緩和） 3．産婦・胎児・家族のアセスメント（CTG・呼吸法） 4．産婦と家族の看護	講義
第7回	分娩期における看護 （分娩第２期・３期）	1．産婦の身体・心理・社会的特徴と看護の実際 2．極期の呼吸法、効果的な努責 3．アプガースコア・子宮外適応へ向けての看護 4．胎盤剥離兆候、子宮復古	講義
第8回	分娩期における看護 （分娩第4期）	1．産婦の身体・心理・社会的特徴と看護の実際 2．早期母子接触・母子愛着形成・子宮外適応への看護 3．胎児付属物のアセスメント 4．子宮復古促進	講義
第9回	新生児期における看護	1．新生児の生理・機能（日齢による変化） 2．新生児のアセスメント（新生児の診断・健康状態）	講義

授業要項

第 10 回	新生児期における看護	1．出生直後の看護・出生後から退院時までの看護 2．新生児期に実施される検査 3．１か月健診に向けた退院時の看護	講義
第 11 回 第 12 回	産褥期における看護	1．産褥経過と産褥期の心理・社会的変化 2．褥婦のアセスメント（退行性変化・進行性変化） 3．進行性変化・育児にかかわる看護 4．母乳栄養、乳房の自己管理	講義 演習 DVD
第 13 回	産褥期における看護	1．身体機能の回復への看護 2．褥婦のセルフケア不足に対する看護 3．褥婦と家族の看護	講義
第 14 回	地域包括ケアシステム	1．２週間健診、１か月健診 2．新生児訪問、多職種連携、産後ケア、母乳外来 3．育児不安（産後うつ）と育児支援、職場復帰	講義 DVD
第 15 回	終講試験　まとめ	終講試験　まとめ	筆記試験 講義

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学援助論Ⅰの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：家族社会学、倫理学、生命のしくみ	1 年次全期
	専門分野：母性看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ・Ⅲ、母性看護学実習	2 年次前期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　母性看護学①母性看護学概論、医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学②母性看護学各論、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、母性看護学概論の学びをもとに、妊娠期から分娩・産褥及び新生児期の正常な経過を学ぶ。また、新たな家族の誕生期における支援の在り方を地域での生活をふまえながら考え、母性看護学実習に繋げる重要な科目である。	
実務経験の内容	助産師　（前本校専任教員）	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	母性看護学援助論Ⅱ	単位数	1単位
時期	2年次後期	時間数	15時間	講師名	宇都 沙智子 他
科目概要		母性看護援助論Ⅰで学んだ正常に経過する周産期の対象の看護をもとに、ハイリスク妊娠および正常を逸脱した妊娠・分娩・産褥・新生児各期の対象の看護について学習する。			
科目目標		1. ハイリスク妊娠および正常を逸脱した妊娠期の対象とその看護について説明できる。 2. 正常を逸脱した分娩期の対象とその看護について説明できる。 3. 正常を逸脱した新生児期の対象とその看護について説明できる。 4. 正常を逸脱した産褥期の対象とその看護について説明できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 第2回	妊娠期の健康問題に対する看護	1. ハイリスク妊娠 生活習慣など 既往妊娠分娩歴 合併症妊娠 生殖補助医療後（ART） 2. 感染症 3. 妊娠悪阻 4. 妊娠高血圧症候群（HDP)、HELLP症候群 5. 血液型不適合妊娠 6. 多胎妊娠 7. 流産、早産、切迫早産、過期妊娠 8. 異所性妊娠	講義
第3回 第4回	分娩期の健康問題に対する看護	1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児付属物の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時損傷 7. 子宮の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置	講義
第5回 第6回	産褥期の健康問題に対する看護	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 帝王切開術と帝王切開後、産褥血栓 4. 産後精神障害 5. メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援 6. 感染症（Ｂ型肝炎、ＡＴＬ、ＨＩＶ） 7. 乳房トラブル 8. 児をなくした褥婦と家族のケア	講義
第7回	早期新生児健康問題に対する看護	1. 新生児仮死、新生児蘇生 2. 分娩外傷 3. 新生児一過性多呼吸 4. 先天異常の新生児 5. 低出生体重児に起こりやすい問題と看護 ディベロップメンタルケア	講義

授業要項

		児をなくした両親へのケア 6. 高ビリルビン血症	
第 8 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：家族社会学	1 年次全期
	専門分野：機能病態学Ⅴ「女性生殖器機能」 母性看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅲ、母性看護学実習	2 年次前期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　母性看護学①母性看護学概論、医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学②母性看護学各論、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、母性看護概論及び母性看護学援助論Ⅰで学んだ知識を基礎とする。特に母性看護学援助論Ⅰで、妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常な経過を学ぶので、上記の主題に関連する内容を復習したうえで受講する必要がある。そして母性看護学援助論Ⅱでは、リスクから生じる今後の問題を予測した予防的関わりや指導を学び、経過の中で異常に転ずる可能性をだれでも秘めていることを理解して欲しい。その中で、生命誕生にかかわる看護職として、倫理的感性を持ち、多様な命の始まりがあることを知り、主役である対象の意思決定支援や、豊かな感性と専門的知識を学び、慈愛の心についても考える機会にしてほしい。講師は臨床で活躍中の助産師であり、講師の体験からも学ぶことができる科目である。	
実務経験の内容	助産師	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	母性看護学援助論Ⅲ	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	20時間	講師名	高木 里子
科目概要		母性看護に必要な看護技術について演習を通し学習する。 また、妊娠期(胎児)から分娩・産褥及び新生児期までの対象に必要な看護計画を、ウェルネスの視点から立案し、臨地実習へとつなげる学習をする。			
科目目標		1. 母性看護に必要な技術を習得する。 2. ウェルネスに視点をおいた対象のアセスメントができ、周産各期（妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期）のスタンダードな看護計画を立案できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回 ～ 第4回	母性看護学実習で活用する基礎的技術(産婦・新生児のアセスメントと看護技術)	1. 新生児のフィジカルアセスメント 2. 新生児の抱き方、寝かせ方 3. 新生児のおむつ交換 4. 新生児の体重測定 5. 新生児の更衣 6. 新生児の沐浴 7. 産婦のケア(CTGの装着・判読、産痛緩和)	講義 及び 演習 実技
第5回 ～ 第10回	母性における看護過程	1. ウェルネスに視点を置いた看護の考え方 2. 妊娠期のアセスメント、スタンダードプラン 3. 分娩期のアセスメント、スタンダードプラン 4. 産褥期のアセスメント、スタンダードプラン 5. 新生児期のアセスメント、スタンダードプラン	講義 及び 演習

単位認定の方法	1. 20時間中14時間以上の出席があること。 2. 技術演習レポート30点、看護過程課題70点の100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学援助論Ⅲの単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	専門分野：基礎看護学「看護過程」「看護倫理」 母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学実習	2年次前期～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　母性看護学①母性看護学概論、医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学②母性看護学各論、医学書院
受講上のアドバイス	この授業では、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識をもとに、実習の際、臨床で用いる技術と母性看護における思考過程を学ぶ。 母性看護は、女性とその子ども・家族を対象とし、対象者の健康の維持・増進あるいは回復するため、さらには疾病を予防するために健康生活を整える援助過程である。対象者の健康に関連する情報は膨大なものとなるが、対象の状況に敏感に対応し、適切な看護を提供するためには、情報の優先度を考えながら情報収集・アセスメントする必要がある。また、その基盤となるものは、倫理的感性に基づく気づきが必要であるため、関連科目で学んだ生命体の神秘、看護倫理や自己の生命観や母性観を深めながら新たな知識・技術・思考を表現して欲しいと考える。
実務経験の内容	助産師、専任教員

授業要項

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	精神看護学概論	単位数	1単位
時期	1年次前期	時間数	30時間	講師名	兼石 彰 他
科目概要		本校は、精神看護学を基礎看護学・地域・在宅看護論と並行して教授する。心の健康の理解を深め、各専門科目へと発展させる土台とする。 精神看護学概論では、精神看護の意義・目的を理解し、看護の機能、役割について学ぶ。また、ストレス社会で精神の健康が障害されることの多い現代社会では、精神の健康を保持増進することが求められる。精神の発達についての理解、ライフステージにおける発達課題と各期の精神保健問題について学ぶ。 さらに、精神障害者の地域生活を支える社会制度と多職連携について学ぶ。			
科目目標		1. 精神看護学の基本的な考え方を述べることができる。 2. 精神看護の機能、役割について述べることができる。 3. 社会変化に伴う精神医療の変遷と精神医療、医療の現状を理解し、今後の精神看護のあり方について考察することができる。 4. 精神の健康概念について説明することができる。 5. 人格、知能、自我の確立などの観点から精神の発達を捉えられる。 6. ライフステージにおける発達課題とメンタルヘルスの特徴について述べることができる。 7. 心の理論を活用してストレスが心身に及ぼす影響を考え､精神の健康のために、早期発見・早期介入が重要であることを理解する。 8. 精神看護の特性とその業務が看護師自身にもたらす影響を考察できる。 9. 精神障害者の地域生活を支える社会制度とその基盤となる考え方、多職種との連携・協働の重要性を述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	導入 精神看護学の基本的な考え方	1. 精神看護学とは 2. 個別性と普遍性:その人らしさ 3. 人と人との関係性の理解 4. 精神看護学の基本的な考え方	講義
第2回	心の機能と発達 ＊心理学の学びの活用	1. 精神と情緒の発達 2. 自我の機能 3. 防衛機制 4. 精神力動理論 5. 転移感情 ＊自らの心の動きに関心をもつ	講義
第3回	精神の健康の概念 危機(クライシス)	1. 精神の健康の定義 2. 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防 3. 精神保健における危機 4. 危機(クライシス)の概念 5. 危機(クライシス)の予防 6. 危機介入	講義
第4回	各ライフステージにおける発達課題について理解	1. 発達課題を達成していくなかでのこころへの影響	講義 グループワーク
第5回	自殺念慮・自殺企図がある対象への理解	1. 自殺者の年次推移、自殺対策・自殺対策基本法 2. 自殺問題とメンタルヘルス	
第6回	精神障害のとらえ方	1. 精神を病むということは 2. 疾患と病について	講義

授業要項

		3. 精神障害者に ICF モデルを用いた支援方法	
第 7 回	精神看護の対象・機能・役割	1. 精神看護の対象 2. ナラティブの重要性 3. 対象の強み(ストレングス)に着目すること 4. レジリエンスを育む看護 5. エンパワーメントを支持する看護 6. 権利擁護とソーシャルインクルージョン	講義
第 8 回 第 9 回	精神医療・保健・福祉の変遷	1. 精神医療・看護の歴史・人権・倫理 2. 精神保健福祉法 3. 入院形態、精神保健指定医の役割 4. 行動制限 ・隔離、身体拘束 ・通信・面会・電話制限 ・自己価値・尊厳・自己肯定感 5. 社会的入院 6. 精神保健医療福祉の改革ビジョン ＊入院医療中心から地域生活中心へ 7. 医療観察法	講義 グループワーク
第 10 回	災害時の地域おける精神保険医療活動	1. 災害時の精神保健医療看護 2. 災害時の精神保健に関する初期対応 3. 災害時の精神障害者への治療継続	講義
第 11 回	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1. 看護における感情労働 2. 看護師のメンタルヘルス	講義
第 12 回	多職種連携と看護の役割	1. 精神保健福祉とは 2. 精神保健福祉士と看護師の連携について 3. 精神科デイケア、精神科ナイトケア	講義 （精神保健福祉士）
第 13 回	精神障害者に対する生活支援制度	1. 社会資源の活用とソーシャルサポート 2. セルフヘルプグループ・ピアサポーター 3. 障害者総合支援法 4. 自立支援給付 ＊自立支援医療、訓練給付、介護給付、相談支援、補装具の支給 5. 地域生活支援事業 ＊生活保護、共同生活援助（グループホーム） ACT（包括型地域生活支援プログラム） 6. アウトリーチ 7. 短所入所（ショートステイ）	講義 （精神保健福祉士）
第 14 回	精神障害者が地域で社会生活を送る上で必要な支援	1. 精神保健福祉法（精神障害者保健福祉手帳） 2. 障害者虐待防止法 3. 世親保健福祉センターの役割 4. 地域移行支援とは 5. 地域移行支援における看護師との連携について	講義 （精神保健福祉士）
第 15 回	終講試験　まとめ		筆記試験 講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験は看護師講師担当分 80 点、精神保健福祉士担当分 20 点の 100 点満点、60 点以上を合格とする。	

授業要項

	3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学概論の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、心理学、文化人類学、家族看護学	1年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、総合保健医療論Ⅰ、公衆衛生学	1年次後期～
	専門分野：地域・在宅看護論、基礎看護学概論、看護倫理	1年次前期～
	：精神看護学援助論及び各看護学	2年次前期～
	臨地実習：精神看護学実習及び各看護学実習	2年次後期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院 系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　医学書院	
受講上のアドバイス	本校では、専門科目の土台として精神看護学を位置付けています。 この授業は、精神の健康について考えていきます。人間が成長していく中で出会う危機とそれに対してどのように向き合っていくかを知り、その危機に対処できなかった際にどのような精神的不調をきたすかを学んでいきます。看護の対象は、多様な人々でありこの学びは人間を理解する土台となります。 そのうえで精神に障害を持つ人を理解し、看護の役割について深めていきます。精神保健福祉士による講義も取り入れ精神に障害を抱える人々を支える福祉や制度についても学びます。1年次で難しいところもあるかもしれませんが、今後の学習に繋がるように関心をもって受講しましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員資格有（前本校精神看護学担当）谷山病院副看護師長、 精神保健福祉士　谷山病院地域活動支援センター精神保健福祉士	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
●	**高い倫理観と責任感**		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	精神看護学援助論Ⅰ	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	15時間	講師名	森重 サユリ
科目概要		精神看護の対象の理解と支援のための基本的な看護の方法について理解する。			
科目目標		1. 援助関係の構築について述べることができる。 2. 対象のセルフケアへの援助について述べることができる。 3. 生きる力と強さに着目した援助について述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	信頼関係の基礎づくり	1. 精神看護の基本的な考え方(歴史、社会の偏見) 2. 病的体験の理解（妄想かるた・動画） 3. 精神看護と精神科看護	講義
第2回	患者-看護師関係の発展と終結	1. ケアの前提 2. ケアの原則 3. ケアの方法	講義
第3回	関係性のアセスメント	1. 精神科看護における自己開示の重要性 2. 他者理解・自己理解 3. プロセスレコードの活用、異和感の対自化 4. 精神に障害を抱える患者へのこころの寄せ方 近づき方	講義
第4回	患者・看護師関係における感情体験の理解	1. ペプロウ　治療的対人関係理論の理解 患者・看護師関係の発展過程 2. トラベルビー　人間対人間の看護理論の理解	講義
第5回	セルフケアへの援助①	1. オレム・アンダーウッド　セルフケア理論の理解 1）食物・水分の接種 2）呼吸 3）排泄	
第6回	セルフケアへの援助②	4）清潔とみだしなみ 5）活動と休息 6）対人関係 7）安全を保つ	講義 DVD視聴
第7階	生きる力と強さに着目した援助	1. レジリエンス 2. リカバリ＜回復＞ 3. ストレングス＜強み、力＞ 4. エンパワメント	講義
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 精神看護学援助論Ⅰ15時間中10時間以上の出席があること。 2. 終講試験100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学援助論Ⅰの単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：慈愛の心、心理学、コミュニケーション論	1年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ、総合保健医療論Ⅰ	1年次後期～
	専門分野：地域・在宅看護論、基礎看護学概論、看護倫理	1年次前期～
	：精神看護学援助論及び各看護学	2年次前期～

授業要項

	臨地実習：精神看護学実習及び各看護学実習	2年次後期～
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では精神に障害のある患者への関わり方について学習していきます。患者との関係性の構築に関して理論を用いて学びます。また、自己理解・他者理解の必要性についてプロセスレコードを活用し学習を深めていきます。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　精神看護学担当	

修得する能力（DP）との関連　　● **密接に対応**

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感		**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	精神看護学援助論Ⅱ （対象と家族の看護Ⅰ）	単位数	2単位
時期	2年次前期	時間数	45時間（内25時間）	講師名	池田 直樹 他
科目概要		精神に障害のある対象を理解し、対象に必要な援助方法を習得するための基礎を学ぶ。			
科目目標		1. 精神に障害のある対象を理解し､対象に必要な援助方法を述べることができる。 2. 精神障害者の家族支援・家族看護について述べることができる。 3. 精神に障害のある対象の看護課題の抽出及び援助方法について看護過程の展開を通して述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	精神科における身体のケア	1. 精神療法としての身体ケア 2. 身体化する患者の世界 3. 精神科におけるフィジカルアセスメントの難しさ	講義
第2回	服薬自己管理の看護	1. 精神科における服薬管理の意味 2. アドヒアランス 3. コンプライアンス 4. 拒薬時の看護 5. 服薬自己管理支援	講義
	不安症がある患者への看護	1. 不安症状時の看護、パニック発作時の看護 2. 抗不安薬の副作用についての看護 3. 起立性低血圧 4. 精神療法（精神支持療法、森田療法、認知行動療法）	
第3回	アルコール使用障害（依存症）への看護	1. 離脱症状時の看護 2. 嗜癖とは 3. グループプログラム 4. SST（生活技能訓練） 5. 集団精神療法における看護師の役割 6. リカバリーのプロセス	講義
	摂食障害患者への看護	1. 摂食障害患者への看護	
	注意欠陥性・多動性障害（ADHD）への看護	1. 注意欠陥性・多動性障害（ADHD）への看護 2. 治療	
第4回	操作性のある患者への看護	1. パーソナリティ障害の症状と看護（衝動行為への対応	講義
	脅迫症状のある患者への看護	1. 強迫観念 2. 脅迫行為	
第5回	睡眠障害のある患者への看護	1. 睡眠障害・概日リズムとは 2. 睡眠障害の症状・治療看護 3. 夜間せん妄	講義
	ストレス関連障害のある患者への看護	1. 急性ストレス障害（ASD） 2. 心的外傷後ストレス障害(PTSD)	
第6回	精神科における主な検査の看護	1. ｍ－ECT（修正型電気けいれん療法）時の看護 2. 脳波、脳血流シンチ（SPECT)、MRI、CTの使用目的の理解	講義
第7回	精神障害患者への家族看護	1. 家族療法、家族の感情表出（EE）	講義

授業要項

		2. 家族のストレスと健康状態のアセスメント 3. 家族の対処力、ソーシャルサポートのアセスメント 4. 家族システムのアセスメント 5. 家族への教育的介入と支援	
第 8 回 第 9 回	統合失調症患者への看護	1. 統合失調症の回復過程に沿った看護 2. 抗精神薬使用時の看護 3. 副反応：椎体外路症状 ・パーキンソン症候群、アカシジア、ジストニア、やせ、ジスキネジア 4. 誤嚥性肺炎、悪性症候群、耐糖能異常、無顆粒球症 5. 抗コリン作用：便秘、イレウス予防、排尿困難 6. 口渇:多飲症、水中毒、横紋筋融解症時の看護 7. セクシャリティに関わる有害反応	講義
第 10 回	うつ病患者への看護	1. うつ病の経過に沿った看護 2. 抗うつ薬使用時の看護 3. 認知行動療法	講義
	躁病患者への看護	1. 躁状態時の看護 2. 抗躁薬の副作用についての看護 3. リチウム中毒	
第 11 回	精神科における安全管理	1. 患者―家族関係の理解 2. 病床環境整備と行動制限の必要性の理解 3. 自殺念慮、自殺企図、自傷行為を行なう患者の理解 4. 患者からの攻撃的行動の対処の理解 5. 暴力予防プログラムの理解	講義
第 12 回	患者の権利アドボカシー	1. 無断離院する患者のへの理解・対処法 2. 患者の自己決定を尊重するための支援 3. 入院患者の基本的な処遇、治療的環境の理解 4. 精神医療審査会の理解 5. 隔離・身体拘束中の看護	講義
第 13 回 1 時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 45 時間中 30 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 60 点配点。 精神看護学援助論Ⅱ（対象と家族の看護Ⅰ）60 点、（対象と家族の看護Ⅱ）40 点の合計で 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、家族看護学	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、総合保健医療論Ⅰ、公衆衛生学 機能病態学Ⅵ：精神領域の疾患と治療（2 年次）	1 年次後期～
	専門分野：地域・在宅看護論、看護倫理	1 年次前期～
	：精神看護学概論、精神看護学援助論及び各看護学	2 年次前期～
	臨地実習：精神看護学実習及び各看護学実習	2 年次後期～

授業要項

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、これまでの精神看護学で学んできた内容を統合させ、精神に障害をもつ患者への看護の方法について学んでいきます。精神看護学援助論Ⅱで学ぶ看護の方法を実習で活用していくことをイメージして受講してください。
実務経験の内容	精神科看護師　谷山病院副看護師長、実習指導者

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	精神看護学援助論Ⅱ （対象と家族の看護Ⅱ）	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	45 時間（内 20 時間）	講師名	森重 サユリ 他
科目概要		精神看護の対象を理解し、対象に必要な援助方法を習得するための基礎を学ぶ			
科目目標		1. 精神に障害のある対象を理解し､対象に必要な援助方法を述べることができる。 2. 精神障害者の家族支援・家族看護について述べることができる。 3. 精神に障害のある対象の看護課題の抽出及び援助方法について看護過程の展開を通して述べることができる。 4. 精神看護の対象の理解と支援の実際について深く理解していく必要性を述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	精神看護の展開技術	1. オレム・アンダーウッド理論の理解 1）食物・水分の接種 2）呼吸 3）排泄 4）清潔とみだしなみ 5）活動と休息 6）対人関係 7）安全を保つ 2. ヘンダーソン・ゴードンの枠組みをベースにした看護過程	講義
第 2 回	精神看護の展開技術	1. ヘンダーソン･ゴードンの枠組みをベースにした看護過程 事例展開：統合失調症 アセスメント(A-1 常在条件.A-2 病理的状態) 2. B-Ｌ項目アセスメント	講義
第 3.4 回	精神看護の展開技術	1.B-Ｌ項目アセスメント 2.問題・課題の抽出 2.計画・立案	講義 グループ学習
第 5 回	精神看護の展開技術	1.グループ発表と共有	グループ学習
第 6 回	精神看護の展開技術 精神科ディケアにおける対象支援	1.精神科ディケアとは 2.SST（生活技能訓練） 3.服薬管理 4.社会生活機能の回復・再発予防	グループ学習 講義
第 7 回 第 8 回 第 9 回	リエゾン看護 ・精神の健康とマネジメント ・事例への具体的介入 ・医療従事者の精神の健康支援	1. 身体疾患がある方の精神の健康 2. 精神疾患がある方の身体の健康 3. 患者と家族の精神の健康 4. リエゾンナースの役割:直接ケア(実践)、コンサルテーション（相談)、コーディネーション（関係調整)、倫理調整 5. 教育的支援 6. リエゾンナースの活動の実際 7. 保健医療福祉に従事する者の精神の健康 看護師のメンタルヘルス支援 8. トラウマインフォームド・ケア＜TIC＞、逆境体験	講義 (専門看護師)

授業要項

第 10 回	精神科作業療法の役割	1. 精神科作業療法の役割の理解 2. 作業療法士との協働	講義 (OTR)
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 45 時間中 30 時間以上の出席があること。 2. 終講試験配点 40 点。精神看護学援助論Ⅱは（対象と家族の看護Ⅰ）60 点、（対象と家族の看護Ⅱ）40 点の 100 点満点、60 点以上を合格とする。 ＊この科目は、事例展開への取組を評価とする。 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学援助論Ⅱの単位を取得できる。

関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心、家族看護学	1 年次
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ、総合保健医療論Ⅰ、公衆衛生学 機能病態学Ⅵ:精神領域の疾患と治療（2 年次）	1 年次後期～
	専門分野：地域・在宅看護論、看護倫理	1 年次前期～
	：精神看護学概論、精神看護学援助論及び各看護学	2 年次前期～
	臨地実習：精神看護学実習及び各看護学実習	2 年次後期～

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、これまでの精神看護学で学んできた内容を統合させ、精神に障害をもつ患者への看護の方法について学んでいきます。精神看護学援助論Ⅱで学ぶ看護の方法を実習で活用していくことをイメージして受講してください。
実務経験の内容	精神看護学専任教員、 精神看護専門看護師、精神科作業療法士

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**		**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
●	**人間関係を築く力**		**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	医療安全 （医療安全演習）	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	30時間（内16時間）	講師名	梶野 恵美子
科目概要		医療技術の進歩に伴い、医療事故は、対象の一番身近にいる看護者が関わるリスクが高い。事故発生のメカニズムとリスクマネジメントについて学び、危険回避のため対応できる力や調整する力の必要性を学ぶ。			
科目目標		1. 医療安全の基盤となる考え方を述べることができる。 2. 看護事故の考え方を学び、事故防止について述べることができる。 3. 事故事例を分析する力を養い、対策を導き出すことができる 4. 医療安全のマネジメントについて学び、医療安全文化の醸成について説明できる。 5. 安全な看護を提供するための自己のあり方について考え、看護師としての職務に活かす。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	危険予知訓練の実際	1. 医療事故に繋がりやすい事故のリスク（ＫＹＴ） 2. 実習を振り返り、経験したリスクを共有	講義
第2回 第3回	事故再発防止 事故事例分析への取組	1. SHEL分析:事例の分析 2. RCA分析　:事例の分析 3. 全体で共有	講義 ワーク
第4回 ～ 第7回	医療安全演習 「これからの看護実践につなげる看護技術のリスクと安全」	1. 課題にグループで取り組む 2. 全体で共有	演習
第8回	まとめ	本科目は授業や演習取組を評価する。	講義

単位認定の方法	1. 30時間中20時間以上の出席があること。 2. 授業や演習への取組を評価50点配点。 医療安全（医療安全管理の実際）50点、（医療安全演習）50点と合計して100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは医療安全の単位を取得できる。	
関連科目	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：関係法規	3年次
	専門分野：基礎看護学「共通基本技術;安全管理」	1年次
	専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ安全管理、リスク管理	1年次後期～3年次まで
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　　医療安全　医学書院 医療安全ワークブック、医学書院	
受講上のアドバイス	医療事故は起こしてはならないものであることは、当然のことであるが、今日、医療事故は多発しています。なぜ、このように事故が起こるのでしょう。人間はエラーを起こす可能性をもっています。「自分もエラーを起こす可能性を持っている」という観点をもち、複雑に絡み合う事故の要因を考え、どうすれば事故を予防し、患者さんの安全と自分の安全を守ることができるのかを一緒に考えていきましょう。また、さまざまな医療事故の再発防止に向けた組織の取組も学び、実践に役立てられるように積極的に授業に取り組みましょう。	

授業要項

実務経験の内容	看護師　専任教員

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	医療安全 （医療安全管理の実際）	単位数	1 単位
時期	3 年次前～後期	時間数	30 時間（内 14 時間）	講師名	柳田 貴子
科目概要		医療技術の進歩に伴い、医療事故は、対象の一番身近にいる看護者が関わるリスクが高い。事故発生のメカニズムとリスクマネジメントについて学び、危険回避のため対応できる力や調整する力の必要性を学ぶ。			
科目目標		1. 医療安全の基盤となる考え方を述べることができる。 2. 看護事故の考え方を学び、事故防止について述べることができる。 3. 事故事例を分析する力を養い、対策を導き出すことができる 4. 医療安全のマネジメントについて学び、医療安全文化の醸成について説明できる。 5. 安全な看護を提供するための自己のあり方について考え、看護師としての職務に活かす。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	医療安全の基盤となる考え方	1. 医療安全学を学ぶことの大切さ 2. 人はなぜ間違いを犯すのか「ヒューマンエラー」 3. 医療安全にかかわる動向、社会的背景 ～重大事故事例を考える～ 4. 医療事故とは インシデント、医療事故と医療過誤 5. 看護事故の構造	講義
第 2 回	看護事故防止の考え方	1. 「してはならないことをしない」3 ステップ 2. 「するべきことをする」ために危険予測の 2 ステップ 3. 事故発生後の患者の障害拡大防止	講義
第 3 回	診療の補助の事故防止Ⅰ	1. 注射業務と事故防止 2. 経管栄養と事故防止 3. 輸血と事故防止	講義
第 4 回	診療の補助の事故防止Ⅱ	1. チューブ管理と事故防止 事例から考える 2. 間違いを誘発するタイムプレッシャーと作業の中断（P197）	講義
第 5 回	療養の世話の事故防止	1. 転倒・転落事故と事故防止 2. 窒息・誤嚥事故防止	講義
第 6 回	医療安全風土の醸成	1. ノンテクニカルスキル：チームステップス 2. 医療安全とコミュニケーション ＳＢＡＲ、ＣＡＳ，チェックバック	講義
第 7 回	組織的な医療安全体制の取組	1. 織としての医療安全対策 2. システムとしての事故防止 3. 重大事故発生時の医療チーム及び組織の対応	講義
	筆記試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 50 点配点。医療安全（医療安全管理の実際）50 点、（医療安全演習）50 点と合計し 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは医療安全の単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	専門基礎分野：関係法規	1年次後期
	専門分野：基礎看護学「共通基本技術;安全管理」	1年次後期
	専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ安全管理、リスク管理	1年次後期～3年次まで
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　　医療安全　医学書院 医療安全ワークブック、医学書院（参考図書）	
受講上のアドバイス	医療事故は起こしてはならないものであることは、当然のことであるが、今日、医療事故は多発しています。なぜ、このように事故が起こるのでしょう。人間はエラーを起こす可能性をもっています。「自分もエラーを起こす可能性を持っている」という観点をもち、複雑に絡み合う事故の要因を考え、どうすれば事故を予防し、患者さんの安全と自分の安全を守ることができるのかを一緒に考えていきましょう。また、さまざまな医療事故の再発防止に向けた組織の取組も学び、実践に役立てられるように積極的に授業に取り組みましょう。	
実務経験の内容	看護師　医療安全管理者　今村総合病院　医療安全管理看護師長	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	看護管理・国際看護 （看護管理）	単位数	1単位
時期	3年次前期	時間数	30時間（内20時間）	講師名	上原 / 永迫
科目概要		看護を取り巻く諸制度やマネジメントについて学ぶことで、看護の経済性や、効率性について考え、看護管理の基礎的な理解を深める。また、国際社会における保健・医療・福祉の実情を知り、国際協力について考えることで看護の可能性を深める。本校のディプロマポリシーである変動する社会に目を向け、チームや組織に貢献する看護職の役割を担える人材育成を目指す。			
科目目標		1. 看護管理やマネジメントに関する基礎概念および基礎理論について述べることができる。 2. 看護ケアのマネジメントの実際について理解する。 3. 看護職としてのキャリア開発について知り、看護職としての自己の成長を見出すことができる。 4. 看護サービスの実際について学習したことを活かし、実習で学んだことを述べ管理観を発展できる。 5. 看護を取り巻く法律や医療制度について述べることができる。 6. 諸外国における保健・医療・福祉の課題や国際協力事業について述べることができる。 7. 在日外国人の状況について理解し、看護の役割を述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護におけるマネジメント 看護管理学概論 これから求められる人材	1. 看護管理の定義、概念構成、基本的要素 2. 看護におけるマネジメントの考え方 3. マネジメントプロセスについて 4. これからの看護職に求められるマネジメント 5. 組織が求める人材ついて考える（社会人基礎力） 看護実践の核となる４つの能力	講義 （上原）
第2回 第3回	看護ケアのマネジメント	1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 看護ケアのマネジメントのプロセス 3. 患者の権利の尊重 4. 安全管理のマネジメントプロセス ・医療事故対策、重大事故発生時の対応 ・院内感染対策 ・災害の予防と対応 ・組織におけるリスクマネジメント（BCP）P132 6. チーム医療における管理者の役割 7. 日常業務のマネジメント	講義 （上原）
第4回	看護サービスのマネジメントⅠ	1. 組織としての看護サービスのマネジメント 2. 組織としての目的達成のマネジメント ・理念の形成と浸透 ・現状分析 ・看護部の組織化 3. 看護サービス提供の仕組みづくり ・看護単位の機能と特徴 ・看護サービスの提供システム 4. 人材のマネジメント ・人材フローのマネジメント ・労働環境、ワークライフバランス	講義 （上原）

授業要項

第 5 回	看護サービスのマネジメントⅡ	1.　ケアを提供する環境のマネジメント 2.　物品（モノ）のマネジメント ・物品資源管理の原則等 3.　財源資源（カネ）のマネジメント ・医療機関の収益 ・医療看護サービスにかかる費用、対価 ・病院経営の指標 4.　業務量のマネジメント ・ベッドコントロール ＊情報のマネジメント､看護サービスの評価については看護における情報科学で学ぶ ＊前半の授業を活かし､統合実習Ⅱで管理的視点をもって管理の実際を学んでくる。 ＊統合実習で学んだ看護管理の実際についてまとめる。	講義 （上原）
第 6 回 第 7 回	マネジメントに必要な知識と技術	1. マネジメントの基礎知識 2. 組織とマネジメント ・組織とは ・組織構造と原則（組織図の理解） 3. リーダーシップとマネジメント ・リーダーシップの定義 ・特性理論、行動理論他 4. 組織の調整 ・集団の理解 ・組織文化 ・動機付け理論 ・パワーとエンパワーメント ・コンフリクトマネジメント ・変化と変革 ＊変革にチャレンジ	講義 ワーク （永迫）
第 8 回	看護職としてのセルフマネジメント	1. 看護職のキャリア形成 ・キャリアディベロップメント ・新人看護職員の臨床実践能力の向上 ・キャリアラダー 3.　看護専門職としての成長 4.　タイムマネジメント、健康管理 5.　ストレスマネジメント	講義 （永迫）
第 9 回	看護を取り巻く諸制度	1.　看護職に必要な法と制度 2.　看護職の継続教育 3.　より専門性の高い看護職の養成及び認定制度 4.　医療制度、医療保険・介護保険に関する法制度 5.　医療費支払制度、診療報酬 ・入院基本料にかかる実質配置の考え方 6.　看護制度と政策過程	講義 （永迫）
第 10 回	終講試験とまとめ	1.　終講試験（50 点）それぞれ 25 点配点 2.　統合実習での学び発表 20 点	上原 永迫
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 客観試験 50 点＋20 点は発表課題点とする。看護管理・国際看護（国際看護）	

授業要項

	30 点と合計して 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護管理・国際看護の単位を取得できる。	
関連科目	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心	1 年次前期
	専門基礎分野：総合保健医療論Ⅰ・Ⅱ、関係法規	2 年次後期～ 3 年次
	専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ看護管理、リスク管理	1 年次～ 3 年次まで
	看護の統合と実践　医療安全「医療事故対策」「事故分析」等	3 年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	医学書院：看護管理　「系統看護学講座：看護の統合と実践」	
受講上のアドバイス	看護管理は、看護職が看護サービスの対象者により良い看護を提供することを目指して行う一連の活動です。管理的な知識や技術を身につけることで、より安全で質の高い看護が提供できます。各授業をとおしてその意味を学び、看護の実践の場（実習）で意識しながら看護管理能力を高めてほしいと思います。授業・実習・ワークを通して自らの看護管理観が述べられるように頑張りましょう。	
実務経験の内容	いづろ今村病院看護部長　看護師、認定看護管理者 谷山病院看護部長　看護師　認定看護管理者	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	看護管理・国際看護 （国際看護）	単位数	1 単位
時期	3 年次後期	時間数	30 時間（内 10 時間）	講師名	米田 智美
科目概要		看護を取り巻く諸制度やマネジメントについて学ぶことで、看護の経済性や、効率性について考え、看護管理の基礎的な理解を深める。また、国際社会における保健医療福祉の実情を知り、国際協力について考えることで看護の可能性を深める。本校のディプロマポリシーである変動する社会に目を向け、チームや組織に貢献する看護職の役割を担える人材育成を目指す。			
科目目標		1. 看護管理やマネジメントに関する基礎概念および基礎理論がわかる。 2. 看護サービスの看護管理過程（マネジメントプロセス・サイクル）がわかる。 3. 看護専門職としてのキャリア開発について説明できる。 4. 看護を取り巻く法律や医療制度がわかる。 5. チーム医療及び多職種との協働のなかでの看護者としてのメンバーシップ及びリーダーシップの役割を述べる。 6. これからの看護管理の課題と展望について述べる。 7. 諸外国における保健・医療・福祉の課題や国際協力事業について述べることができる。 8. 在日外国人の状況について理解し、看護の役割を述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第 1 回	国際看護学の理解と世界の健康格差	国際的な視点から保健・看護の現状を学び、国際看護の概念、国際看護の必要性を理解し、国際的視野から看護専門職としての役割と連携について考える機会とする。	講義
第 2 回	世界共通の健康目標：MDGs と SDGs	国際活動の概念と意義、基盤となる考え方や国際活動で求められる看護職の役割を理解する。	講義
第 3 回	国際協力の組織と国際看護の対象	国際協力を支える国際機関や国際協力の仕組み、国際協力活動の実際について理解する。 文化的ケアの多様性と普遍性理論―レイニンガ―の異文化看護の概念を理解する。更に、自分の中の文化はどのようにして形成されているか（自文化）、そして自分の文化を通して見える異文化を理解する。	講義
第 4 回	国際看護学における教育と研究	看護研究について学習し、看護体制ではケアの質の改善に役立つ、教育方法の工夫が理解を深められるといった研究も重要な課題。	講義
第 5 回	異文化理解と外国人の医療対応	訪日・在留外国人への健康支援に関して、事例を通して、対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。	講義
	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験 30 点配点。看護管理・国際看護（看護管理）70 点と合計して 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは看護管理・国際看護 1 単位の単位を取得できる。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	基礎分野：慈愛の心	1年次前期
	専門基礎分野：総合保健医療論Ⅰ・Ⅱ、関係法規	1年次～3年次
	専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ看護管理、リスク管理	1年次～3年次
	看護の統合と実践　医療安全「医療事故対策」「事故分析」等	3年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	医学書院：災害看護学・国際看護学「系統看護学講座：看護の統合と実践」	
受講上のアドバイス	事前学習・事後学習を前提としています。この授業で学習する内容は人の生活や健康の様々な側面に関係するので、普段の生活の中新聞、テレビ、インターネット、書籍などを見て、情報を蓄積しておくと良い。積極的な授業参加が望ましいです。 事前学習（30分）：テキスト・参考文献・新聞記事・書籍などを、ジェンダーという視点で読むこと。それがどのように分析できるかを考えてみること。 事後学習（30分以上）：講義で学んだ内容を自分の言葉で整理し、考えをまとめて、説明できるようにしておくこと。	
実務経験の内容	台湾、日本での看護実践や医療通訳、国際交流活動に関する経験を踏まえて、グローバル社会における看護について、学生を指導する。	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	**人間を理解する力**	●	**連携・協働する力**
●	**看護を実践する力**	●	**地域・家族を支援する力**
	高い倫理観と責任感	●	**時代の変化に対応する力**
	人間関係を築く力	●	**研鑽し探求する力**

授業要項

専門分野		科目	災害看護	単位数	1単位
時期	3年次後期	時間数	15時間	講師名	大磯 陽子
科目概要		突然に起こる災害は、人々の生命の危機と、健康や生活の崩壊をもたらす。近年の高齢化・過疎化、地域での人的関わりの希薄さから、災害によって生じる問題も多様化している。また新興感染症などの流行は災害レベルに匹敵し、災害時と同様の対応がなされるようになってきた。そのような社会に対応できる看護職者として、災害サイクルに応じて被災者の生命と生活を守る看護実践について学ぶ。			
科目目標		1. 災害を身近な問題としてとらえ、災害が人々の生命や健康、生活に及ぼす影響について説明することができる。 2. 災害各期における看護の果たす役割を理解し災害時の看護活動に参加できる基礎的能力を身につける。 3. 災害時における多職種との連携の必要性を説明することができる。 4. 災害発生時の社会の対応や個人の備えについて説明することができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	災害及び災害医療に関する基礎知識	1. 災害の定義 2. 災害の法制度 3. 災害の種類 4. 災害サイクル 5. 災害発生時の看護の役割 6. 災害による疾病構造	講義
第2回	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響	1. 限られた医療資源・人的資源の対応 2. ライフラインの損傷 3. 要配慮者 4. 災害時の情報提供 5. 災害後の感染対策	講義
第3回	災害急性期の特徴と看護	1. DMAT　広域搬送 2. 被災地域内病院の看護活動 3. 被災病院おける情報収集　EMIS	講義
第4回	災害慢性期・静穏期の特徴と看護 災害による心身への影響	1. 避難所生活 2. 避難生活から予測される健康問題 3. 仮設住宅生活者の看護 4. 被災者のストレスと心のケア 5. 救済者自身のストレスと対処 6. 子どものこころのケア	講義
第5回	避難所での支援活動	避難所運営シミュレーション（机上）	演習
第6回 第7回	緊急時の災害医療活動	一次トリアージの実施	演習
第8回 1時間	終講試験		筆記試験

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 終講試験100満点（うちレポート点10点）。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは災害看護の単位を取得できる。

授業要項

関連科目	関連科目	履修時期
	専門分野：基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ	1年次
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学、看護の統合と実践③、医学書院	
受講上のアドバイス	突然おこる災害時に対応できるための基礎的知識と技術の習得をめざし、授業の最後で病院内での災害初動演習を行います。一歩踏み出す勇気がもてるように真剣に取り組みましょう。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

修得する能力（DP）との関連

● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力	●	地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感	●	時代の変化に対応する力
	人間関係を築く力		研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	統合看護技術Ⅰ	単位数	1単位
時期	2年次前期	時間数	15時間	講師名	梶野 恵美子
科目概要		看護過程の展開の学習に基づいた事例から立案した看護計画を実施し、対象に合わせた看護の展開を疑似体験する。対象の反応から援助の振り返りを行い、リフレクションの必要性を理解する。更にグループ活動を通して協働することの大切さを学ぶ。			
科目目標		1. 対象の状況を判断し、最も適切な援助を計画・実施することができる。 2. 実施した援助の振り返りを行い、リフレクションする意味を理解できる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	看護展開する事例の把握と看護ケアの組み立て	1. 事例のアセスメント・看護問題・計画立案の共有化 2. 課題の看護ケアを組み立てる(方法、必要物品、観察項目、安全・安楽・自立を考慮した留意点など)	講義 協同学習
第2回	看護展開する事例の把握と看護ケアの組み立て	1. 課題の看護ケアを組み立てる(方法、必要物品、手順、観察項目、安全・安楽・自立を考慮した留意点など)	協同学習
第3回	看護ケアの実施準備	1. 模擬患者に看護ケアを実施する前に、役割分担とケアの確認	協同学習
第4回 第5回	看護ケアの実施	1. 模擬患者に看護ケアを実施する 2. 模擬患者の感想を聞く	協同学習
第6回 第7回	リフレクション	1. 看護の実践の振り返りをする 2. 看護ケアの修正を行う 3. 「個別性のある安全・安楽・自立を考慮した看護ケアとは」を考える	協同学習
第8回	まとめ	1. 学びの共有化	講義

単位認定の方法	1. 15時間中10時間以上の出席があること。 2. 課題、演習成果を評価する。60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは統合看護技術Ⅰの単位を取得できる。

関連科目		
	関連科目	履修時期
	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ～Ⅵ 看護薬理学　看護栄養学　臨床判断Ⅰ	1年次
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠⅡ　基礎看護技術Ⅰ～Ⅴ	1年次～ 2年次
	専門分野：看護過程の基礎	2年次前期

事前・事後学習	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　基礎分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
受講上のアドバイス	この授業は、看護過程の基礎を学習したうえで、基礎看護学実習Ⅱにつなげる科目である。事例を用いて看護過程を展開し、模擬患者に看護の実施、リフレクションを行う。この学習を体験することで、受け持つ患者の状況に合わせて看護技術を創意・工夫することやこれまで既習した看護技術を統合する土台をつくる。初めての看護過程実習のイメージができ、不安が軽減することも期待している。さらにグループでの活動を通して、多様な他者と協同することで看護者に必要な資質も高めてもらいたい。

授業要項

実務経験の内容	専任教員、看護師　臨床看護師経験 20 年以上

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力		連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
	高い倫理観と責任感		時代の変化に対応する力
●	人間関係を築く力	●	研鑽し探求する力

授業要項

専門分野		科目	統合看護技術Ⅱ	単位数	1単位
時期	3年次後期	時間数	30時間	講師名	納瀬 綾
科目概要		3年間の実習終了後、領域別実習で学んできた知識・技術を統合し、実際の臨床場面を模擬的に再現した（シミュレーション）演習を通して、対象の状況に応じた看護を実践する能力を養う。			
科目目標		1. 提示した事例の病態を説明することができる。 2. 事例のアセスメント、関連図の作成ができる。 3. 設定された対象の状況に応じた看護を実践することができる。 4. シミュレーション演習を通して、看護師に近い思考判断を理解できる。 3. メンバーと協働することで、看護者に必要な資質を高め、述べることができる。			

回数	主題	学習内容	履修形態
第1回	臨床判断とは	1. 臨床判断能力を学ぶ意義 2. シナリオ学習について（事例の提示） 3. 患者の理解 病態、治療を確認し患者のニーズを満たすための条件と弊害：起こりうる状態の予期・安全管理 （個人・グループワーク）	講義
第2回 第3回	シナリオ患者の理解	1. ジグソー学習 ・関連図を作成し患者の状態の理解 ・看護を理解し実施する （個人・グループワーク）	協同学習
第4回 第5回	シナリオ患者の理解	1. プレゼンテーション	協同学習
第6回	シナリオ患者の理解	1. 共通理解 ・計画立案（観察項目）	協同学習
第7回 ～ 第10回	シミュレーション演習	1. 各グループでの演習（担当教員との演習） 2. 追加・修正 3. SBARを用いての報告	演習 協同学習
第11回 ～ 第14回	臨床判断 （シミュレーション演習）	1. シミュレーション演習 （臨床から看護師参加の演習） ・臨床判断について演習 ・看護の実践 ・看護師の思考を聞く ・リフレクション（グループ） 2. リーダーナースへのSBARを用いた報告 3. 看護師の思考を聞き振り返る（個人） 4. 小テスト（基礎知識の確認）、自己評価	シミュレーション演習 協同学習 講義
第15回	まとめ 終講試験	1. SBARを用いた報告 2. 筆記試験	試験

単位認定の方法	1. 30時間中20時間以上の出席があること。 2. 筆記試験50点、まとめレポート20点、シミュレーション演習評価30点 合計100点満点で60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは統合看護技術Ⅱの単位を取得できる。 4. 欠席・欠課やジグソー学習への取り組みの姿勢も演習評価に含む。

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ～Ⅵ　看護薬理学　臨床判断Ⅰ 臨床判断Ⅱ	1年次～ 2年次前期
	専門分野：フィジカルアセスメントⅠⅡ	1年次後期
	専門分野：看護過程の基礎	2年次前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ、医学書院	
受講上のアドバイス	この授業は、これまで学習した内容を統合させ、看護師に近い思考判断を体験する授業である。シミュレーション学習で急変時の看護師の思考及び行動を臨床の看護師から学び、経験知としていく。グループ活動では、看護者に必要な協同する資質も高めてもらいたい。	
実務経験の内容	看護師　専任教員　専任教員経験10年以上	

修得する能力（DP）との関連　　● 密接に対応

●	人間を理解する力	●	連携・協働する力
●	看護を実践する力		地域・家族を支援する力
●	高い倫理観と責任感	●	時代の変化に対応する力
●	人間関係を築く力	●	研鑽し探求する力

授業要項

臨地実習		科目	基礎看護学実習Ⅰ	単位数	1単位
時期	1年次	時間数	45時間	科目責任者	佐野 聡美
実習目的		【基礎看護学実習Ⅰ－1】 地域における多様な看護の場での体験や対象とのかかわりを通して「生活者」としての対象への関心を高めるとともに、社会の情勢に伴う看護の場の拡がり、対象を取り巻く環境、暮らしを支える看護の多様性を理解する。 【基礎看護学実習Ⅰ-2】 原理原則や科学的根拠のある看護技術を実践し、対象の反応から専門職として看護技術習得の意義や意図的コミュニケーション力の重要性、自己の課題を理解し、これから看護を学ぶことの動機づけとする。 また、看護実践のための主体的な学習や自らの体験をリフレクションし意味づけることを通して、知識・理論と関連付けて看護を探求し続ける姿勢を身につける。			
実習目標		【基礎看護学実習Ⅰ－1】 1. 看護学生としてふさわしい節度ある態度で実習に臨むことができる 2. 社会の情勢に伴い、看護の場が多様に拡がっていることを知り述べることができる。 3. 対象を取り巻く環境、暮らしを支える看護があること知り、述べることができる。 4. その人らしい生活や人々との関わりの中で、「生活者」としての対象への関心を高めることができる。 5. 体験を通して入学時に漠然ともっている看護のイメージを具体化できる。 【基礎看護学実習Ⅰ-2】 1. 対象の思いや願いに関心を持ち、慈しみの心をもって接することができ、良好な人間関係を築くことができる。 2. 対象の観察やバイタルサイン測定を通し、対象の状態を把握することができる。 3. 対象の未充足ニードに気づき、対象に必要な日常生活援助が支援のもと実践できる。 4. 対象の反応から自己の実践力を知識と理論と関連付けてリフレクションし、評価することができる。 5. 対象を生活者としてとらえ、環境と健康が相互作用していることを知ることができる。 6. 基礎看護学実習Ⅰ－２での看護実践をとおして、自己の課題を明確にし、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。			

	学習内容（実習内容）
1	【基礎看護学実習Ⅰ－1】15時間
2	看護の場の種類（どのようなところがあるのか）
3	あらゆる場での看護活動の内容（どのような援助や支援をしているか）
4	対象がどのように、その人らしい生活の中で療養をしているか
5	実習での学びをまとめ、全体カンファレンスで共有
	【基礎看護学実習Ⅰ-2】30時間
1	対象がどのような気持ちで療養生活を送っているかへの関心
2	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションスキルの活用
3	五感を使った観察

授業要項

4	原理原則に基づき、対象に応じたバイタルサイン測定の実践
5	対象のフィジカルアセスメント
6	安全・安楽・自立/自律に配慮した環境調整
7	対象を生活者として捉え、必要な日常生活援助について考える
8	対象に必要な日常生活援助を原理原則や科学的根拠に基づき支援のもと実践
9	専門用語を用いて自己の考えや実践した看護の報告
10	自己の看護実践に対する対象の反応を見て振り返る
11	対象を取り巻く環境や生活と、健康との関係について考える
12	リフレクションを通して、自らの援助を振り返り、改善点や今後の課題を考える力

履修条件	1) 基礎看護学実習オリエンテーションを受けていること 2) 基礎看護学実習Ⅰ－2 実習履修者はそれまでに実施される技術確認に合格していること
単位認定の方法	１．各実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価（基礎看護学Ⅰ―1:20 点、Ⅰ - 2:80 点の 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、基礎看護学実習Ⅰの単位を取得できる。

関連科目（特に関連する科目）	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：コミュニケーション論　家族社会学	1 年全期
	専門基礎:機能病態学　看護概論　看護共通基本技術　フィジカルアセスメントⅠ　基礎看護学Ⅰ～Ⅳ	1 年全期

事前・事後学習	【基礎看護学実習Ⅰ－１】 1）看護概論　第 1 章「看護とは」看護の役割と機能 【基礎看護学実習Ⅰ-2】 1) 受け持ち患者の発達段階、発達課題 2) 基礎看護技術（バイタル測定・清拭・環境整備・食事介助・排泄介助など） 3) その他ルーブリックをよく読み込み必要な事前学習を行う
実習場所	【基礎看護学実習Ⅰ－１】 いづろ今村病院（地域包括ケア病棟・外来） 今村総合病院（BC3 階病棟・6 階西病棟・外来） 訪問看護・愛と結の街 【基礎看護学実習Ⅰ-2】 いづろ今村病院（地域包括ケア病棟・一般病棟） 今村総合病院（8 階病棟・7 階病棟・6 階東病棟・6 階西病棟・5 階東病棟・5 階西病棟・BC3 階病棟）
受講上のアドバイス	この授業は各看護学実習の第一段階となる実習として、他の看護学への応用、発展可能な基礎とする。看護学生としてふさわしい節度ある態度をみにつけ、より良い看護実践を目指し自ら学びつづける姿勢を養う科目とする。
実務経験の内容	看護師　専任教員

ディプロマポリシー達成のための	◎１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ●２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践で

授業要項

臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重視、○関連）	きる基礎的能力を身につける。 ３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ○４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ○６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	基礎看護学実習Ⅱ	単位数	2単位
時期	2年次前期	時間数	90時間	科目責任者	佐野 聡美
実習目的		健康障害を持つ対象を身体的、精神的、社会的、文化的側面からヘンダーソンのニード論を活用して対象の看護課題を考え、対象の状況に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。			
実習目標		1．看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2．対象に関心を持ち、思いやりのある態度で接することができ、良好な人間関係を築くことができる。 3．健康障害をもつ対象と家族を総合的に理解することができる。 4．対象の健康上の課題を見つけることができる。 5．見つけた対象の健康上の課題を解決するための看護計画の立案できる。 6．対象の健康上の課題に対する看護援助を原理原則や科学的根拠に基づき対象に応じて実践できる。 7．自己の看護実践に対する対象の反応から自己の実践力を評価することができる。 8．専門職者としての看護倫理の重要性を理解し、考えることができる。 9．切れ目のない看護の実現のための保健・医療・福祉チームの連携について理解し、自らもチームの一員としての自覚と責任を持つことができる。 10.基礎看護学実習Ⅱでの看護実践をとおして、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。		

	学習内容（実習内容）
1	対象がどのような気持ちで療養生活を送っているのかへの関心
2	対象との良好な援助関係を築くために効果的なコミュニケーションの活用
3	五感を使っての観察、フィジカルアセスメント
4	対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面を持った生活者としてとらえる(情報収集)
5	対象の基本的欲求の状況をヘンダーソン理論に沿い、本校のデータベースシートをもとに未充足の判別
6	未充足の原因・誘因を検討する。(判断・分析) A1「常在条件」と A2「病理的状態」から探し、体力・意志力・知識のどこに不足があるのかの判断
7	対象の健康上の課題の確定
8	対象の健康上の課題の優先順位の決定
9	看護関連図の作成
10	看護問題に対して看護援助を行った結果、期待される成果の明確化
11	必要としている援助の究明 ①何が原因で、何が不足しているのか、どんな援助が必要になるのかを明らかにする ②援助の方向性を決定する 体力が原因(苦痛の緩和、症状の緩和)　意志力が原因(不安介入、心の支え) 知識の不足(再教育)
12	看護計画の実践 安全・安楽・自立/自律をふまえ、原理原則や科学的根拠に基づいた看護実践
13	専門用語を用いて自己の考えや実践した看護の報告
14	自己の看護実践に対する対象の反応を見て振り返り、評価し改善点を見つける。
15	倫理カンファレンスをとおして、看護倫理について考える

授業要項

16	多職種の中における看護師の役割を理解し、自己の役割を認識する
17	凝縮ポートフォリオの作成や、全体カンファレンスを通して、自らの援助を振り返り、改善点や今後の課題を考える

履修条件	基礎看護学実習Ⅱのオリエンテーションを受けていること	
単位認定の方法	１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、基礎看護学実習Ⅱの単位を取得できる。	
関連科目 （特に関連する科目）	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野： 既習の学習	1 年全期
	専門基礎：機能病態学　臨床判断　看護薬理学ほか	1 年後期
	専門分野:看護概論　看護共通基本技術　フィジカルアセスメント 基礎看護学Ⅰ～Ⅳ　看護過程の基礎　ほか	1 年全期～2 年前期
事前・事後学習	1)　看護過程の方法 2)　基礎看護技術の方法・留意点 3)　受け持ち患者の発達段階・発達課題 4)　受け持ち患者の疾病部位の解剖生理、病態、症状、検査、治療、看護 5)　受け持ち患者で考えられる経過別看護の目標と視点 6)　その他ルーブリックをよく読み込み必要な事前学習を行う	
実習場所	いづろ今村病院（地域包括ケア病棟・一般病棟） 今村総合病院（8 階病棟・7 階病棟・6 階東病棟・6 階西病棟・5 階東病棟・5 階西病棟・BC3 階病棟）	
受講上のアドバイス	この授業は初めて看護過程を活用して対象の看護課題を考え、対象の状況に応じた看護を実践する。これらを通して看護の思考過程を理解し、看護専門職者として判断し実践するための基礎的能力を養う科目とする。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性 （●特に重視、◎重視、○関連）	◎１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ●２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ○４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ○５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ○６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	在宅療養支援実習Ⅰ（施設）	単位数	2単位
時期	2年次後期	時間数	60時間	科目責任者	飯田 かずよ
実習目的		地域包括ケアシステムの理解を基盤に、地域や施設で暮らす高齢者や家族の生活の質向上に向けた支援ができる基礎的能力を養う。更に、チームでのアプローチの実際を通して、コミュニケーション力や調整力、相手の価値観を尊重する人間性を高める。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 利用者に関心を寄せ、総合的に理解し述べることができる。 3. 利用者にあったコミュニケーション技法を活用し、思いや願いを引き出すことで関係性を築くことができる。 4. 利用者の個別性やＱＯＬの向上、維持に向けた日常生活援助の実践ができる。 5. 介護保険制度におけるケアマネジャーの役割やケアマネジメントの必要性について説明できる。 6. 多職種連携・協働の実際を見学し、看護者に求められる役割や専門性を述べることができる。 7. 利用者が安全にその人らしく過ごせる環境への工夫、調整の必要性を理解し述べることができる。 8. 利用者や家族の意志、希望やニードに応じた社会資源の活用方法を述べることができる。 9. 利用者や家族の権利を遵守し意思決定支援の必要性を述べることができる。 10. 看護実践を通してより良い看護を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。			

	学習内容（実習内容）
1	看護学生としてふさわしい責任・節度ある態度で実習に臨む力
2	利用者の加齢に伴う変化（身体的、精神的、社会的、文化的）と、疾患や健康障害との関連性を総合的に捉えることができる力
3	利用者のこれまで歩んできた長い生活史を理解し、その方の価値観を尊重した態度で関わることができる力。
4	利用者にあったコミュニケーションツールや技法を活用し意図的なコミュニケーションが図れる力
5	利用者の思いや願い等の表出を促すコミュニケーションによって関係性の構築ができる力
6	利用者の身体の状況や健康レベル・個別性に合った日常生活援助を実践しようとする力。
7	介護保険制度におけるケアマネジャーの役割やケアマネジメント・ケアプランとの関連が理解できる力
8	多職種連携・協働の実際を見学し、看護者に求められる役割や専門性を述べることがでできる力
9	利用者が安心、安全に生活するための環境への工夫や調整の実際を知り、その重要性や目的が分かる力
10	利用者や家族の意志、希望やニードに基づくケアプラン（施設・居宅）と実際のサービスとの関連性が分かる力
11	利用者や家族がその人らしく生活するための権利保障の理解や、意思決定支援の必要性が理解できる力
12	毎日リフレクションで、実習を通して、自己の看護を振り返り、自分の傾向に気づき、今後取り組むべき自己課題を明らかにする力

履修条件	基礎看護学実習Ⅱの単位修得ができている。
単位認定の方法	1．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる）

授業要項

	２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、在宅療養支援実習Ⅰ（施設）の単位を取得できる。	
関連科目 （特に関連する科目）	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心	1 年前期
	専門基礎分野：社会福祉Ⅰ・社会福祉Ⅱ	1 年後期 3 年後期
	専門分野：地域とくらし	1 年前期
	専門分野：暮らしを支える看護Ⅰ	1 年後期
	専門分野：老年看護学概論	1 年後期
	専門分野：老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2 年前後期
事前・事後学習	1.　老年期の発達段階の特徴 （身体的特徴：加齢に伴う身体変化、高齢者の疾病をめぐる特徴、廃用症候群、心理的特徴･社会的特徴）及び発達課題 2.　介護保険制度 3.　認知症　　4.　老人福祉法	
実習場所	介護老人保健施設「愛と結の街」・居宅介護支援事業所「愛と結の街」 認知症対応型共同生活介護「愛と結の街」・通所介護「はなぶさ」 通所リハビリテーション「愛と結の街」	
受講上のアドバイス	２週間の実習を通じて、地域で暮らす高齢者の特徴を理解し、生活する上での支援の実際を学習する。介護保険制度や高齢者福祉に関わる多職種のチームの一員として、専門性を活かした役割の中で連携・協働は、利用者や家族の支援へつながることを体験し学習できる機会となる。また、実習の中で長い人生を歩まれてきた利用者との日々の関わりの中から、利用者の思いや願いを引き出し尊重する姿勢を養う実習となるように期待する。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性 （●特に重視、◎重視、○関連）	●１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ○２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ○４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ◎６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	在宅療養支援実習Ⅱ （地域）	単位数	2 単位
時期	3 年次	時間数	60 時間	科目責任者	飯田 かずよ
実習目的		地域療養支援チームの一員として、療養支援のシステムを理解し、地域で暮らす人々や家族の自立/自律、ヘルスプロモーション力を高め、生活を支援する基礎的能力を養う。さらに、地域の中でその人らしく生きることについての意味や死生観について深く考え探求し、豊かな感性を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で臨むことができる。 2. 地域で療養し生活する利用者や家族に関心を寄せ、疾患や健康障害を踏まえ総合的（身体的、精神的、社会的、文化的）に捉え、述べることができる。 3. 多様な利用者や家族の個別性にあったコミュニケーション技術の重要性を述べることができる。 4. 地域で療養する利用者や家族の想いや願い、価値観を知ることで自己の価値観との違いに気づき述べることができる。 5. 利用者・家族の生活が環境によって影響され変化することに気づき、個別性に応じた環境支援の必要性を述べることができる。 6. 訪問看護に必要な基本的姿勢や態度、療養生活における看護実践の実際を体験し述べることができる。 7. 看護者として倫理的に配慮し、利用者・家族の選択権や自己決定を尊重し支援していく必要性を述べることができる。 8. 利用者・家族の自助力を支える多職種でのチーム連携・協働の中での看護者としての役割を説明できる。 9. 訪問看護制度の仕組みや利用者に関わる社会資源の活用、生活支援の実際を理解し説明できる。 10. 地域での暮らしの中で相談や社会参加・就労の支援等を必要としている人々の関わりを通じて自己の考えを述べることができる。 11. 利用者・家族が自立/自律に向けたその人らしい生活を実現するための保健医療福祉制度や社会保障等の支援の活用方法を理解し述べることができる。 12. 実習経験を通してより良い看護実践や支援を目指し学び続ける姿勢を身に付ける。			
	学習内容（実習内容）				
1	看護学生としてふさわしい責任や節度ある態度で臨む力				
2	利用者のこれまでの疾患や健康障害の経過や生活史などの情報収集を基に総合的（身体的、精神的、社会的、文化的）に捉えることができる力。 利用者を取り巻く家族背景や生活状況についても把握理解できる力				
3	得た情報や、訪問看護指示書、訪問看護計画書を基に利用者や家族に合わせた実習目標や具体的な計画が立案できる力。				
4	同行訪問の場面で、利用者や家族の個別性のある様々なコミュニケーション方法の実際と看護者との関係性について理解できる力。				
5	地域で暮らす人々や利用者・家族の多様な価値観を持っていることを知り、その思い願いや価値観を尊重し支援する必要性を理解しできる力				
6	あらゆる場で生活する利用者や家族が、様々な生活が環境によって影響することや変化することについて気づき必要によっては個別性にあった生活環境の工夫や調整の必要性について理解し述べることができる力。				
7	利用者の意向や思いを尊重し、状態に合わせた安全・安楽・自立/自律に留意した援助に参加する。実施した援助について、具体的な振り返りができる力。				

授業要項

8	看護者の一員として意識し倫理的に配慮した言動や行動ができる力。
9	実習のあらゆる場面において、利用者や家族への意思決定への支援の実際を経験し必要性で自己の考えを述べることができる力。
10	利用者・家族の自助力を支える多職種でのチーム連携・協働の中で看護者としての役割がわかる力。
11	訪問看護制度の仕組みや利用者に関わる社会資源の活用、生活支援の実際を理解できる力
12	地域での暮らしの中で相談や社会参加・就労の支援等を必要としている人々の関わりを通じて自己の考えを述べることができる力
13	利用者・家族が自立/自律に向けたその人らしい生活を実現するための保健医療福祉制度や社会保障等の支援の活用方法を理解し述べることができる力
14	実習経験を通してより良い看護実践や支援を目指し学び続ける姿勢を身に付けることができる力

履修条件	基礎看護学実習Ⅱの単位修得ができていること 2 年次までの実習科目の単位を取得していること
単位認定の方法	１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、在宅療養支援実習Ⅱ（地域）の単位を取得できる。

関連科目（特に関連する科目）	**関連科目**	**履修時期**
	基礎分野：慈愛の心	1 年後期
	基礎専門分野：社会福祉Ⅰ・Ⅱ	1 年後期
	専門分野：地域と暮らし	1 年前期
	専門分野：家族看護	1 年後期
	専門分野：暮らしを支える看護Ⅰ・Ⅱ	1 年後期 2 年前期
	専門分野：在宅療養を支える看護Ⅰ・Ⅱ	2 年前期 3 年前期

事前・事後学習	１．家族看護理論の復習 ２．訪問看護ステーションの公的背景（法律、管理者、役割、利用者、利用方法） ３．障害者総合支援法の公的背景（法律、支援施設の実際と役割、利用者、利用方法） ４．地域包括支援センターの公的背景（法律、施設の意義、業務内容、職種）
実習場所	訪問看護ステーション「愛の街」　・地域活動支援センター「ひだまり」 就労支援センター「ステップ」　・共同生活援助施設「しらゆりの郷」 鹿児島市地域包括支援センター
実習上でのアドバイス	この実習では多様な看護活動の場の実習になります。看護の対象や家族の強みを活かす支援の実際や多職種との連携・協働場面、社会資源の活用に注目し、人々の暮らしの意味、看護の役割の多様性を学んでいきましょう。
実務経験の内容	看護師　専任教員

ディプロマポリシー達成のための	●１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ○２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践で

授業要項

臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重視、○関連）	きる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ○４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ●６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	成人・老年看護学実習Ⅰ （急性期の看護実践）	単位数	2 単位
時期	3 年次	時間数	90 時間	科目責任者	納瀬 綾
実習目的		急速に健康状態が変化する対象および家族に対して、周術期の生命活動を支える臨床判断力や予測する力を学ぶ。また、対象を生活者として捉え、身体機能の変化による生活の自立/自律に向けて個別的な看護を実践する能力を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 急激に健康状態が変化する（周術期や急激な病状変化を必要としている等）対象に対して統合的な対応ができる臨床判断力を学び、予測する力を身につけ実践できる。 3. 日々変化するあらゆる段階の中で、対象を生活者として捉え、身体機能の変化による生活の自立（社会復帰）に向けての必要な看護が実践できる。 4. 保健医療福祉チームにおける連携・協働の必要性と看護の役割を理解し、医療チームの一員としての自覚と責任を持ち、看護者としての必要な態度がとれる。 5. 看護実践をとおして看護倫理の重要性を理解し、述べることができる。 6. 急速に健康状態が変化する対象への看護実践をとおして、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。			
	学習内容（実習内容）				
1	急激に健康状態が変化する（周術期や急激な病状変化を必要としている等）対象の病態や治療とその影響				
2	基本的な救命救急処置の方法を理解し、模擬的に実践				
3	健康状態の急速な変化に気付き、迅速に報告				
4	五感を使っての観察し、合併症を予測する力				
5	合併症予防のために必要な看護を理解し、回復過程を支援				
6	生命の危機にある対象とその家族の心の揺らぎに関心を寄せ、思いやりを持てる心				
7	急速に健康状態と環境が変化することが対象の心身と生活に与える影響				
8	急速に健康状態が変化する対象の身体的・心理的・社会的側面で統合的に捉えた看護の思考過程				
9	手術前処置が手術へ与える影響				
10	術前の情報収集をし、手術中・術後の回復に与える影響の分析				
11	麻酔や手術侵襲が術後の回復過程に及ぼす影響の予測				
12	術後の回復過程にあわせて看護問題を明確化し優先順位の判断				
13	クリティカルパスを活用した術後の回復過程の推測				
14	学習内容や振り返りを生かして援助内容を考えた計画立案				
15	手術を受ける対象の心理状態を理解し、不安の緩和のための援助の実施				
16	日常生活の自立／自律に向けた回復過程を支援				
17	治療選択・意思決定への支援				
18	保健医療福祉チームにおける連携の重要性				
19	倫理的課題に関心を寄せ、倫理原則及び倫理的概念に基づき発言する自己の考え				
20	自己が成長するための課題を見つけようとする意欲				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること 2 年次までの実習科目の単位を取得していること			
単位認定の方法		１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価			

授業要項

	（学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、成人・老年看護学実習Ⅰの単位を取得できる		
関連科目 （特に関連する科目）	**関連科目**		**履修時期**
	専門基礎	機能病態学Ⅱ（消化器）、機能病態学Ⅳ（腎・排泄）	1 年前期～後期
	専門分野	成人看護学概論	1 年後期
		成人看護学援助論Ⅱ（消化器）、成人看護学援助論Ⅲ（腎・排泄）	2 年前期～後期
		成人看護学援助論Ⅴ（周術期）	3 年前期
	専門基礎	臨床判断Ⅱ	2 年前期
事前・事後学習	１）受け持ち患者の発達段階、発達課題 ２）疾病の病態（病棟に多い消化器疾患） ３）術前・術中・術後の看護に関してルーブリックをよく読み込み必要な事前学習を行う。		
実習場所	今村総合病院（A 棟 6 階東病棟、Ａ棟 7 階病棟、手術室、集中治療室、救急外来）		
受講上のアドバイス	この授業は急速に健康状態が変化する対象および家族に対する看護を通して、発達段階の特徴に応じた健康状態の変化やリスクの違いを理解し、健康障害を最小にして生命の維持、心理・社会的危機の回避、苦痛の緩和を図り、早期回復を目指す急性期の看護の実践力を高める。また、緊急時の健康状態の変化を予測した観察や対応の実際を通して、その時、その場での臨床判断力や、チームでタイムリーに調整しながら行動できる力を強化する（身につける）科目とする。		
実務経験の内容	看護師　専任教員		

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性 （●特に重視、◎重視、○関連）	◎１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ◎２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ●３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ◎４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ○５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ○６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	成人・老年看護学実習Ⅱ （慢性期の看護実践）	単位数	2 単位
時期	2 年次後期	時間数	90 時間	科目責任者	落合 明子
実習目的		慢性的な変化のある対象に対して、対象の発達段階に応じたコミュニケーション技術を活用し、疾病の受容段階や行動変容の段階、療養行動、暮らし方などの情報をふまえて、対象に応じた看護を実践する能力を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする慢性期の対象について、科学的根拠をもとに総合的に理解し、継続的に自己管理するための看護実践ができる。 3. 看護実践を通して看護倫理の重要性を理解し、考えることができる。 4. 療養者の意思決定を生活の視点で支援する基礎的能力を身につける。 5. 多様な価値観を持つ人々と良好にかかわりあえる人間関係力を身に着ける。 6. 根拠に基づき、計画的に看護を実践できる。 7. チームにおける多職種連携・協働の必要性と看護の役割を理解し、医療チームの一員としての自覚と責任を持ち、看護者としての必要な態度がとれる。 8. 慢性期の看護実践を通して、よりよい看護の実践を目指し、自ら学び続ける姿勢を身につける。		
	学習内容（実習内容）				
1	対象の思いを受け止め、健康課題に向きあう過程の支援				
2	対象の価値観や健康への影響、また対象の強みへの関心				
3	対象と家族の退院後の生活の変化への関心				
4	日常の看護ケアの中にあるジレンマに気づき問題提起し、自分なりの答えを見出す				
5	エンパワーメントアプローチを活用し対象の自己決定を支援する				
6	対象の思いを尊重し、生活に必要な支援ができる。				
7	4 つの情報源を活用し、対象の自己効力感を高める				
8	五感を使って予防・早期発見の観察				
9	ヘンダーソンの看護論に基づき、未充足の判断を行う。				
10	対象の加齢や病状に伴う変化に合わせた慢性期疾患患者への看護計画立案				
11	実施した看護の評価を行い、日々の看護計画に反映させる。				
12	多職種連携においての看護の役割				
13	対象に必要な社会資源の理解				
14	今後の自己課題を明確にする				
15	文献を活用し、慢性期看護の在り方について自己の意見を見出す				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること			
単位認定の方法		１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、成人・老年看護学実習Ⅱの単位を取得できる。			
関連科目 （特に関連する科目）		関連科目			履修時期
		専門基礎	機能病態学Ⅱ（内分泌）・Ⅳ（腎・排泄）		1 年前期～後期
		専門分野	成人看護学概論		1 年後期
			成人看護学援助論Ⅱ（内分泌）・Ⅲ（腎）		2 年前期～後期

授業要項

	専門基礎分野	臨床判断Ⅱ	2年前期
事前・事後学習	１）受け持ち患者の発達段階、発達課題 ２）疾病の病態（インスリン、2型糖尿病、合併症、検査） ３）患者に必要な治療と看護（食事療法、運動療法、薬物療法） ４）患者に生じた合併症とその看護 ５）セルフケア行動変容ステージにおける対象の心理的特徴とケア その他、ルーブリックを読み込み必要な事前学習を行う。		
実習場所	今村総合病院　B棟3階病棟、A棟5階西、A棟5階東、A棟6階西 いづろ今村病院　地域包括ケア病棟		
受講上のアドバイス	慢性的な変化のある対象に対して、対象の発達段階に応じたコミュニケーション技術を活用し、疾病の受容段階や行動変容の段階、療養行動、暮らし方などの情報をふまえて、対象に応じた看護を実践し臨床判断力の強化を図る実習である。また、対象のニードの充足、生活の再構築を対象とともに考え、対象の意思決定やその人らしい生活を支援する看護者としての指示的、教育的な役割を高める科目とする。基礎看護学Ⅱ実習で指導の下展開したヘンダーソンのニード論をもとにした看護の思考過程を主体的に展開する実習でもある。 更に、対象を支援する多職種との協働の実際に参加し、対象を含めた多様な価値観を持つ人々と良好な関係性を築き、対象が継続的に自己管理できるための看護者としての発信力、調整力の基礎的能力を養う科目とする。		
実務経験の内容	看護師　専任教員		

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重視、○関連）	◎１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ●２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ●４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ◎６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	成人・老年看護学実習Ⅲ （終末期また治癒困難の看護実践）	単位数	2 単位
時期	3 年次	時間数	90 時間	科目責任者	納瀬 綾
実習目的		終末期（治癒困難）にある対象に対して、身体的、精神的、社会的、文化的、スピリチュアルな側面をふまえ、対象の価値観に関心を寄せながら日常生活上のニード充足に向けて必要な看護を実践する能力を養う。			
実習目標		1.看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2.終末期（治療困難）にある対象者の治療と苦痛を理解し、緩和に向けて支援することができる。 3.終末期（治療困難）にある対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごせるように支援することができる。 4.終末期（治癒困難）にある対象及び家族を多様な場においてチームで支援することの重要性を述べることができる。 5.保健医療福祉チームにおける連携・協働の必要性と看護の役割について理解し、看護者としての必要な態度がとれる。 6.看護実践を通して看護倫理の重要性を理解し、考えることができる。 7.終末期（治療困難）にある対象への看護実践をとおして、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。			

	学習内容（実習内容）
1	対象の身体的側面、心理・社会的側面、ｽﾋﾟﾘﾁｭｱﾙな側面に心のこもった関心を寄せながらの看護実践
2	対象が送ってきた人生や育んできた価値観に関心を寄せ尊重するかかわり
3	対象の生命を脅かす問題、苦痛による心身の安寧の阻害、治療や病態により生じる症状や日常生活上のニードの未充足に関わる問題に心のこもった関心を寄せながら看護実践
4	対象を身体的・精神的・社会的・ｽﾋﾟﾘﾁｭｱﾙな側面を持った生活者としてとらえる思考
5	対象の予後不良な状態について理解し、必要な看護についての思考
6	身体機能の低下に伴う変化を考慮し、対象のニードの充足に向けた日常生活援助の実施
7	症状によってもたらされる全人的苦痛の緩和のための援助と実施　環境変化と安静が対象に及ぼす影響に気づき予防的な援助の実施
8	対象の状況を判断し、援助計画の追加・修正
9	苦痛を緩和し、日常生活を整える看護の判断
10	対象を身体的・精神的・社会的・ｽﾋﾟﾘﾁｭｱﾙな側面を持った生活者としてとらえる思考
11	対象の予後不良な状態について理解し、必要な看護についての思考
12	症状によってもたらされる全人的苦痛の緩和のための援助と実施
13	環境変化と安静が対象に及ぼす影響に気づき予防的な援助の実施
14	良好な援助関係を築くためにｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力の活用　対象のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力やﾍﾟｰｽに合わせたかかわり
15	思いを尊重し意思を引き出すかかわり
16	生命の尊厳を考え、回復が望めない対象とその家族の QOL を重視した看護についての理解
17	回復が望めない対象とその家族の受容過程および、グリーフケアについての理解
18	保健医療福祉チーム内での連携の重要性についての理解
19	看護職として看護倫理について関心を寄せ、倫理的場面について思考し他者と共有するための自己表現
20	自己が成長するための課題を見つけようとする意欲

授業要項

履修条件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること		
単位認定の方法	１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、成人・老年看護学実習Ⅲの単位を取得できる。		
関連科目 （特に関連する科目）	**関連科目**		**履修時期**
	専門基礎	機能病態学Ⅳ（血液・造血器）	1 年後期
		臨床判断Ⅱ	2 年前期
	専門分野	成人看護学概論	1 年後期
		成人看護学援助論Ⅳ（終末期）	2 年前期～後期
事前・事後学習	事前学習： １）受け持ち患者の発達段階・発達課題 ２）機序及び疾患の理解・化学療法における看護 ３）輸血・検査（マルク・ルンバール等）の看護 ４）疼痛マネージメントがん患者・終末期患者とその家族の心理的過程の理解 その他、ルーブリックを読み込み必要な事前学習を行う。		
実習場所	今村総合病院（A 棟 8 階病棟） いづろ病院（6・7 階病棟、8 階病棟）		
受講上のアドバイス	終末期（治癒困難）にある対象に対して、対象の身体的、精神的、社会的、文化的側面をふまえながら、看護者の守るべきは患者（看護の対象）であることを念頭に意思決定を支援する看護専門職者としての（傾聴力、倫理観、調整力などの）資質を強化する。対象の尊厳を守り、寄り添い、科学的根拠に基づいた看護の思考過程を通して、看護の目的である健康の回復、健康の保持増進、苦痛の緩和、平和な死への援助を多職種と協働しながら実践し、看護専門職者としての基礎的能力を強化する科目とする。		
実務経験の内容	看護師　専任教員		

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重視、○関連）	◎１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ●２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ●４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ○６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ●７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	小児看護学実習	単位数	2 単位
時期	3 年次	時間数	60 時間	科目責任者	大磯 陽子
実習目的		小児の特性とその家族を理解し、小児の健やかな成長・発達を支援すると共に、健康課題をもつ小児とその家族に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 健康な乳幼児の成長発達過程について理解し、発達段階・個別性に応じた対応や養護のあり方について説明できる。 3. 集団保育における乳幼児の安全管理、健康管理について述べることができる。 4. 外来を受診する小児や家族の特徴を理解し、小児外来看護の役割について説明できる。 5. 小児の身体状況や反応、家族の状況を捉えアセスメントを行い、必要な援助について述べることができる。 6. 検査・処置時の苦痛の軽減に向けた援助を一部実施することができる。 7. 健康障害をもち入院している小児と家族を総合的に捉えることができる。 8. 健康障害をもち入院している小児と家族の成長発達に応じた看護を一部実践できる。 9. 小児の育ちを支援する、多職種連携と社会資源の活用法について述べることができる。 10. 看護実践を通して、「子どもの権利」を擁護する看護師としての基本的な姿勢について述べることができる。 11. 健康課題をもつ小児とその家族に応じた看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。			

	学習内容（実習内容）
1	成長発達に応じたコミュニケーション
2	子どもの月齢・年齢ごとの成長・発達段階ごとのアセスメント
3	発達段階に応じた子どもの日常生活における獲得課題
4	発達段階に応じた子どもの養護のあり方（食事・更衣・排泄・しつけ）
5	集団保育にける乳幼児の安全な環境、健康管理
6	健康段階、発達段階を考慮した対象と家族のコミュニケーション
7	対象と家族の思いに寄り添い、尊重する姿勢
8	小児外来看護の特徴について
9	対象の苦痛の軽減に向けたプレパレーション、ディストラクション
10	対象の力を引き出そうとする関わり
11	入院している対象と家族への関心
12	対象の健康障害（症状、治療内容、予後）成長発達段階、発達課題
13	入院している対象と家族を総合的に捉える
14	入院生活において対象の安全な環境への支援
15	健康段階、発達段階を考慮した対象と家族の思いに配慮したコミュニケーション
16	対象の身体状況や反応、家族の状況を捉えアセスメント
17	対象や家族の状況や成長発達に合わせた計画立案
18	対象の発達段階や健康段階を考慮し、対象を尊重した創意工夫のあるフィジカルアセスメントや援助を安全に実施

授業要項

19	発達段階や健康段階に合わせ、対象を尊重した安全な遊びや学びの活用
20	小児の育ちを支援する多職種連携と社会資源の活用
21	小児と家族の思いに寄り添い、小児看護における倫理について考える

履修条件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること 2 年次までの実習科目の単位を取得していること		
単位認定の方法	１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、小児看護学実習の単位を取得できる。		
関連科目 （特に関連する科目）	**関連科目**		**履修時期**
	専門基礎	機能病態学Ⅵ（小児疾病論）	1 年次後期
	専門分野	家族看護	1 年次後期
		小児看護学概論	1 年次後期
		小児看護学援助論Ⅰ	2 年次前期～後期
		小児看護学援助論Ⅱ	3 年次前期
事前・事後学習	事前学習： １）保育園実習 幼児期の年齢に応じた成長と発達（形態的・機能的・精神運動機能）、乳幼児の発達課題、小児の栄養、基本的生活習慣の確立過程、発達段階ごとの乳幼児の遊びの特徴、子どもの権利、不慮の事故、事故の原因、予防と安全教育、乳幼児の健康教育、保育所における看護師の役割 ２）小児外来実習 小児外来看護の特徴・役割、予防接種の種類・時期、必要な指導について、乳幼児健診の目的・時期・各時期の発達の特徴と支援方法、小児感染症疾患と特徴、長期に通院する必要がある子どもや家族への援助、診療の補助について（環境調整、体位の工夫、採血や与薬などの援助、保健指導） ３）小児病棟実習 受け持ち患児の発達段階、発達的特徴、受け持ち患児の健康障害について（病態生理･治療･看護・検査：骨髄穿刺、腰椎穿刺やケタラールの影響など）、子どもの入院における問題（遊びや学びを含む）、心理的状況、母親やきょうだい・家族への援助について、小児看護技術の目的・手順・方法、社会資源（小児慢性特定疾病医療費助成制度、難病医療費助成制度、育成医療の給付）児童福祉法		
実習場所	きずな保育園、おひさま子ども園、今村総合病院小児外来、鹿児島大学病院		
受講上のアドバイス	地域の様々な場で生活し、療養する小児や家族を総合的に理解し、小児の成長発達を促進し、健康障害や発達段階に応じた適切な看護を実践していく。また、社会の中で守られ、擁護されるべき子どもの権利について理解を深め、小児や家族の意思決定を支援する看護者として姿勢について考えていく。		
実務経験の内容	看護師　専任教員		

授業要項

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重視、○関連）	●１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ○２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ●４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ○５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ◎６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	母性看護学実習	単位数	2 単位
時期	3 年次	時間数	60 時間	科目責任者	高木 里子
実習目的		変化する周産各期の正常な経過と生理的変化を理解し、対象に応じた援助や指導について看護を実践できる基礎的能力を養う。また、母子相互作用、家族を含めた役割の再構築や正常な適応過程が進むような看護について考え、切れ目のない継続看護が実践できる基礎的能力を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 変化の大きい周産期の対象をウェルネスの視点で総合的に理解し、さらに正常を逸脱する問題点や今後のリスクを予測し、必要な看護を判断することができる。 3. 正常な経過を促進させる援助が理解できる。 4. 母児の関連性について着眼し、母子相互作用や愛着形成を促進させるための看護や役割構築に向けての看護を理解できる。 5. 外来実習を通して様々な週数にある妊婦と胎児や､褥婦と新生児(2 週間健診、1 か月健診を含む) の変化を理解し、その時に必要な保健指導を考え述べることができる。 6. 周産期の対象 (家族も含む)との関わりを通し、臨床の場面から生命観・母性観・父性観を深め、自己の考えを述べることができる。 7. 対象および家族の思いや退院後の生活を視野に入れた看護と社会資源の活用について考察できる。 8. 実習を通した体験を振り返り、論理的に自分の言葉で学びを統合できる。			

	学習内容（実習内容）
1	受け持ち対象の情報を、既存のデータや自らの関わりから主体的に情報収集する。
2	情報収集した内容からアセスメントし、追加学習を経て次の日の看護計画につなげる。
3	マタニティ診断を活用し、褥婦と新生児、または妊婦と胎児のウェルネスを適切に判断する。
4	周産各期の対象に寄り添い、3 側面で理解しアセスメントする。
5	妊娠期の変化について的確にとらえ援助する。
6	産褥期における退行性変化について的確にとらえ援助する。
7	産褥期における進行性変化について的確にとらえ援助する。
8	新生児期の生理的変化について的確にとらえ日齢に応じて援助する。
9	分娩期の基本的援助について理解する。
10	周産各期に起こりうる今後の経過に着目し、問題解決に向けてあるいは予防的な看護を判断するする。
11	妊産褥婦と胎児または新生児、及びその家族がどのように影響しあっているかを捉え、対象との関わりを通して、母児相互作用や愛着形成について述べる。
12	対象者の自己効力感を高めるような関係性を構築し、ウェルネスの視点で対象の持つ強みをとらえ、対象の目指す姿へと促進する。
13	周産期にある対象とその家族の役割が変化することを理解し、それぞれの役割構築に向けた支援を考え、実践する。
14	周産各期の対象の変化や状況及び心理的変化を捉え、その時に必要な保健指導を考える。
15	実習前に感じていた母性観・父性観・生命観をもとに、実習の場面から命の尊厳や生命倫理について考え、自己の感性を深めて、その変化を凝縮ポートフォリオで表現する。
16	母子保健・育児に関する法律や制度を学習し、対象に合わせた活用を述べる。

授業要項

17	☆早期から対象の退院後の生活に着目し、対象が目指す暮らしや、育児について指導する。
18	チーム医療の一員としての役割や、切れ目のない継続看護の必要性や、多職種連携の意義について述べる。
19	凝縮ポートフォリオで、体験したことや、他の学生との学びの共有を通して、視野を広げたり、焦点化したりして、3 週間での学びの統合を行う。

履修条件	1.　基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。 2.　2 年次までの実習科目の単位を取得していること
単位認定の方法	１．実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、母性看護学実習の単位を取得できる。

関連科目（特に関連する科目）	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：家族社会学、病態機能学Ⅳ（女性生殖器）	1 年後期
	専門分野：家族看護学	1 年次後期
	専門分野：母性看護学概論、母性援助論Ⅰ～Ⅲ	2 年次～ 3 年次前期

事前・事後学習	１）正常に経過する周産期の対象（妊婦、《胎児》産婦、褥婦、早期新生児）の経過と看護 ２）正常を逸脱する可能性または逸脱している周産期の対象の看護 ３）周産期とその家族の役割再構築や愛着形成、相互作用、適応過程 ４）周産各期に関連する法や施策、行政サービス ＊上記の詳細は実習要項に別途記載 ５）ルーブリックは事前に読み込み、この実習のこの日に自分は何を学ぶのかイメージし、実践に活かすこと
実習場所	今村総合病院産婦人科外来 今村総合病院ＢＣ5 階（レディース病棟）
受講上のアドバイス	母性看護学実習では、病棟や外来において、変化する周産各期の対象と関わり、正常な経過と生理的な変化の特徴を理解し、対象に応じた援助や指導について学ぶ。その経験から、慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。また、命を宿し、産み、育む女性の健康や母子相互作用、家族を含めた役割構築が促進されるような看護について考える。さらに退院し自立していく対象への切れ目のない継続看護についても学ぶ。 母性看護学実習では、生命誕生の場面に触れ、その神秘性や自己の生命観について考えを深め、倫理的な感性も醸成する機会としたい。
実務経験の内容	助産師臨床経験 10 年以上 専任教員　10 年以上

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重	●１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ○２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ◎３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。

授業要項

視、○関連）	●４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ●６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ○７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	精神看護学実習	単位数	2 単位
時期	2 年次後期	時間数	90 時間	科目責任者	森重 サユリ
実習目的		精神に障害を抱える対象に心を寄せ、対象の強み、生きにくさをふまえその人らしい生活の支援について、看護実践できる能力を養う。また、対象の反応の意味を考えることで自己洞察できる能力を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 慈愛の心で対象の生活に寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を養う。 3. 対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 4. 対象とのかかわりを自己洞察し、対象を理解する感性を磨き多様な価値観を受けいれる重要性に気付き、対人関係力を身につける。 5. 実習を通して、切れ目のない看護の実現のため、チームの一員として多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 6. 看護実践を通して、精神に障害を抱える対象により良い看護の実践を目指し、自ら学びとる姿勢を身につける。		
	学習内容（実習内容）				
1	精神に障がいを持つ対象を看護することへの意欲とこころのこもった関心				
2	対象のこれまで生きてきた人生に思いをはせながら対象の生きにくさ（社会的障壁）・強み（strength）に関心を寄せる				
3	五感を使った観察力で対象を看る				
4	対象と行動をともにし、日常生活を送る上での難しさ（生きにくさ）を理解し自己の考えを述べる				
5	対象の生活する力や健康的側面を把握し、関わりの中に活かす				
6	看護倫理に関心を持ち自己の先入観や偏見を俯瞰的にとらえ、物事を判断する				
7	自分の言動・行動が対象にどのように影響しているのかを考え自己洞察できる				
8	対象の尊厳を尊重し、自分と対象の気持ちを量りながら適切な距離を保って接することの重要性に気付				
9	精神看護を行う看護者がメンタルヘルス（精神的健康）を保つ重要性を理解する				
10	治療的環境としての看護師の役割に気付き実践する				
11	看護実践における看護師と多職種（医師・薬剤師・作業療法士・臨床心理士）とのチームワークの重要性を理解する				
12	精神科デイケアの目的を理解し、利用者との関りを通して、利用者の強み・生活上の困難さや生きにくさについて関心を寄せる力				
13	精神科デイケア利用者を支える制度（自立支援医療）の内容を理解する				
14	精神科における精神・薬物・電気けいれん・環境療法について理解する				
15	対象が、安心・安全・安楽に治療を受けることができるための看護について理解する				
16	対象が望むその人らしく生活ができる場について考える				
履修条件		1. 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること			
単位認定の方法		1. 実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、精神看護学実習の単位を取得できる			

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目 （特に関連する科目）	基礎分野：慈愛の心・コミュニケーション論・発達心理学 総合保健医療論	1年後期
	専門分野：精神看護学概論	1年前期
	専門分野：精神看護学援助論Ⅰ	2年前期
	専門分野：精神看護学援助論Ⅱ	2年前期～ 後期
事前・事後学習	1. 実習要項をよく読み、実習の科目概要・目標を理解しておく。 2. 授業の配布資料やノートを参照しながら関連資料を読み、精神看護に関する理解を深めておく 3. 対象の疾患の理解（病態生理、治療、症状、予後）※治療と対象に出現しうる有害反応を関連付けて学習しておくこと 4. 症状別における接近法、看護 5. 精神科における治療(薬物療法・電気けいれん療法・精神療法・環境療法・作業療法) 6. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、入院形態、保護室に関すること 7. 障害者総合支援法(精神科デイケア・精神科外来通院をしている対象の中には自立支援医療を利用している方がいるので学習をしておくこと。) 8. 各実習病棟の特性・精神科デイケア	
実習場所	谷山病院：Ａ３病棟(精神科急性期病棟)・精神科デイケア・Ｂ２病棟(男性閉鎖病棟)・Ｂ３病棟(男女混合閉鎖病棟)・Ｂ４病棟(女性閉鎖病棟)・Ｃ５病棟(男性開放病棟)	
受講上のアドバイス	精神看護学実習は、すべての各看護学実習で対象に看護を行う上での基盤になってくる。精神に障害をもつ対象の尊厳を守り、高い倫理観に基づいた意思決定支援・多様な価値観をもつ対象と関わり、人間関係力を身に着けることに重きを置いている。また、対象を含めあらゆる人々を理解する感性を磨き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身に着ける。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性 （●特に重視、◎重視、○関連）	●１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ○２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ○３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ●４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ●５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ◎６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチーム

授業要項

	の一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	看護の統合と実践実習Ⅰ （チーム医療実践実習）	単位数	2 単位
時期	3 年次前期	時間数	90 時間	科目責任者	中村 栄子
実習目的		チームの一員としての役割を学び、チームメンバーとの連携、協働を通して切れ目ない看護を学ぶ。さらに、医療安全、感染管理を学び、看護師として安全に看護を実践する能力を養う。			
実習目標		1 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2 看護の機能（療養上の世話、診療の補助、教育的機能、相談機能、調整・マネジメント機能）の実際について看護場面を通して学び、看護師と共に実践できる。 3 日々変化する状況の中での看護師の臨床判断とケアの実際を見学し、看護師の思考に触れ、看護師の行動の意味を理解できる。 4 対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けた退院支援のあり方と継続看護について説明できる。 5 医療現場におけるリスクを予防し、安全な看護を提供するための方法を説明できる。 6 切れ目のない看護の実現のための保健・医療・福祉チームの連携について理解し、自らもチームの一員として自覚と責任を持つことができる。 7 看護の統合と実践Ⅰでの学びを通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。		

	学習内容（実習内容）
1	看護チームの一員として、メンバーの役割や責任について
2	ＰＮＳやチームナーシングなど看護体制を理解し、効率よく質の高い看護サービスについて
3	チーム内の情報共有のためのツールとして電子カルテをどのように効果的に使用
4	看護チームのメンバー間の効果的なコミュニケーションの方法を理解し、活用
5	看護師のシャドーイングを行い、日々の患者の変化から看護師が患者の有用な情報や患者のサインを見逃さずアセスメントにつなげる
6	実際の看護場面から看護師の行動の意味を考えさらに、看護師の思考（実践につながった意味）を聞くことで学ぶ
7	看護師の行った看護実践の根拠となった知識を追加学習
8	対象の生命や暮らしに寄り添いその人らしく生活するための支援と継続看護の重要性を退院支援の実際を学ぶ
9	入院する対象への心理的不安や経済的問題の対応、情報の提供など様々な側面から入院支援を行っていることについて実習体験
10	医療現場における発生しやすいリスクについて述べることができる。さらに、安全な看護を提供するための方法
11	多職種横断チーム活動の実際を見学し、連携・協働する意義
12	見学実習において、積極的に質問し、実習での学びを拡げる　リフレクション

履修条件	1.　2 年次までの必要な実習単位を習得していること
単位認定の方法	1. 実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ３．上記の条件を満たしたものは、看護の統合と実践実習Ⅰ（チーム医療実践実習）実習の単位を取得できる。

関連科目	関連科目	履修時期

授業要項

（特に関連する科目）	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ～Ⅳ 公衆衛生学、社会福祉ⅠⅡ、臨床判断ⅠⅡ	1年前期～ 2年後期
	専門分野：基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、 老年看護学全般	1年前期～ 2年次後期
	看護の統合と実践　医療安全	3年後期
事前・事後学習	ルーブリックをよく読み込み必要な事前学習を行う。	
実習場所	今村総合病院、いづろ今村病院、谷山病院	
受講上のアドバイス	この実習は、看護師のシャドーイングを行い、実際の看護場面での臨床判断、看護師の思考について学びます。また、チーム医療がどのように行われているのか、実際の連携・協働している場面を見学し、チームの一員としての意識を醸成し、効果的なコミュニケーションについても考える機会にしてほしいです。さらに、医療現場における感染管理の実際、保健・医療・福祉との連携による切れ目ない看護の展開がどのように行われているのかについて学びます。看護の統合と実践実習Ⅰは、3年次の5月に実施することにより、次の各看護学実習での学びにつなげていく大切な実習です。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性 （●特に重視、◎重視、○関連）	●１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ●３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ◎４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ●５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ◎６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ◎７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。

授業要項

臨地実習		科目	看護の統合と実践実習Ⅱ（プレナース実習）	単位数	2 単位
時期	3 年次後期	時間数	90 時間	科目責任者	中村 栄子
実習目的		看護の 3 年間の看護基礎教育の集大成としての知識・技術・態度を統合させ看護の応用力やマネジメント能力を養う。さらに、各専門領域での実習をふまえ、実務に即した実習（複数受け持ち実習、夜間実習、チームの一員としての業務実践など）を行い、あらゆる場に適応できる能力を養う。			
実習目標		1. 看護学生としてふさわしい節度や責任ある態度で実習に臨むことができる。 2. 複数の対象の状況を判断し、流動的環境の中で看護を実践できる力を身につけることができる。 3. 対象の 24 時間の療養生活を支える保健医療チームの機能と役割の実際について体験し、看護師として働くイメージを説明できる。 4. 看護管理の視点と実践とのつながりを、実習を通して深め、述べることができる。 5. チームナースとともに看護実践を行い、看護師の臨床判断能力について理解し、説明できる。 6. 看護実践をとおして看護倫理の重要性を理解し、述べることができる。 7. 看護に必要な感性や価値観を身につけ、3 年間の自己成長を認識し、将来の看護師としての課題を述べることができる。			

	学習内容（実習内容）
1	病棟の看護目標・看護計画に従って受け持ち 2 人の看護の方向性
2	受け持ち 2 人の優先度を考えながら日々のタイムスケジュール
3	受け持ち 2 人の日々のタイムスケジュールを、その日の新たな情報から修正
4	受け持ち 2 人の看護をタイムスケジュールに沿って、実践
5	流動的な状況の中で、必要なタイミングで報告・連絡・相談
6	受け持ち 2 人の夜勤勤務者への申し送りを経験し、経験を通して情報の伝達と共有の意義
7	夜間実習を通して、対象の様子や環境について日中との違いに気づき、24 時間継続して療養生活を支える意義や看護師の役割
8	チームナース実習でチームの一員として看護実践を行い、看護チームとの連携、多職種との連携について
9	看護管理の視点として、目標管理の実際、看護サービスの質の管理、人材育成、患者管理、働きやすい職場づくり
10	看護師の実践場面から臨床判断能力の「気づき」「解釈」「反応」「省察」の視点で看護師の行動の意味
11	チームナース実習でチームの一員として看護実践を行い、看護チームとの連携、多職種との連携について、体験からその意義を述べることができる。
12	看護実践をとおして看護倫理の重要性を理解
13	日々のリフレクション行うことができ、看護学生として自己の成長
14	プレナース実習により看護師のように活動する体験を通して自己の課題

履修条件	1.　全各領域実習を終了していること
単位認定の方法	1. 実習評価表（ルーブリック）による総括的評価 （学則第 10 条、履修規定第 12 条、実習要項実習評価に準じる） ２．実習評価 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

授業要項

	３．上記の条件を満たしたものは、看護の統合と実践実習Ⅱ（プレナース実習）実習の単位を取得できる。	
関連科目（特に関連する科目）	**関連科目**	**履修時期**
	専門基礎分野：機能病態学Ⅰ～Ⅳ、臨床判断Ⅰ Ⅱ	1 年前期～2 年前期
	専門分野Ⅰ：基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学全般、看護の統合と実践　看護管理	1 年前期～3 年後期
事前・事後学習	ルーブリックをよく読み込み必要な事前学習を行う。	
実習場所	今村総合病院、いづろ今村病院、谷山病院	
受講上のアドバイス	この実習は、これまでのすべて実習を踏まえ実務に即した実習を行います。複数患者を受け持ち、それらの患者の優先順位や関わり方をアセスメントする力や、患者の変化・状況の変化の中で予測した看護や作業の中断など多重課題、流動的環境の中で、柔軟に対応できる能力を養い、看護チームの協働や多重課題の優先順位を考えて体験・行動することを目指します。また、夜間実習を通して、24 時間継続する看護の実際を知り、看護管理実習を通して、看護管理の視点と実際とのつながりを深めていく実習です。3 年間の集大成として実践を通して看護の悦びを感じたり学びを深めたりしてもらいたいです。	
実務経験の内容	看護師　専任教員	

ディプロマポリシー達成のための臨地実習目標との関連性（●特に重視、◎重視、○関連）	◎１．慈愛の心で対象の生命や暮らしに寄り添い、その人らしい生活の支援に向けて援助できる基礎的能力を身につける。 ●２．対象に必要な看護について科学的根拠に基づき、計画的・創造的に実践できる基礎的能力を身につける。 ●３．日々変化するあらゆる状況の中で、対象の健康状態に応じて系統的な対応ができる臨床判断力を学び、柔軟さと予測する力を身につける。 ◎４．対象の尊厳を守り、意思決定を支える看護専門職としての高い倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。 ◎５．対象を含めあらゆる人々を理解する感性を研き、多様な価値観をもつ人々と関りあえる人間関係力を身につける。 ●６．病院や施設、地域の実習を通して、切れ目のない看護の実現のためチームの一員として、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。 ●７．看護実践を通して、より良い看護の実践を目指し自ら学び続ける姿勢を身につける。